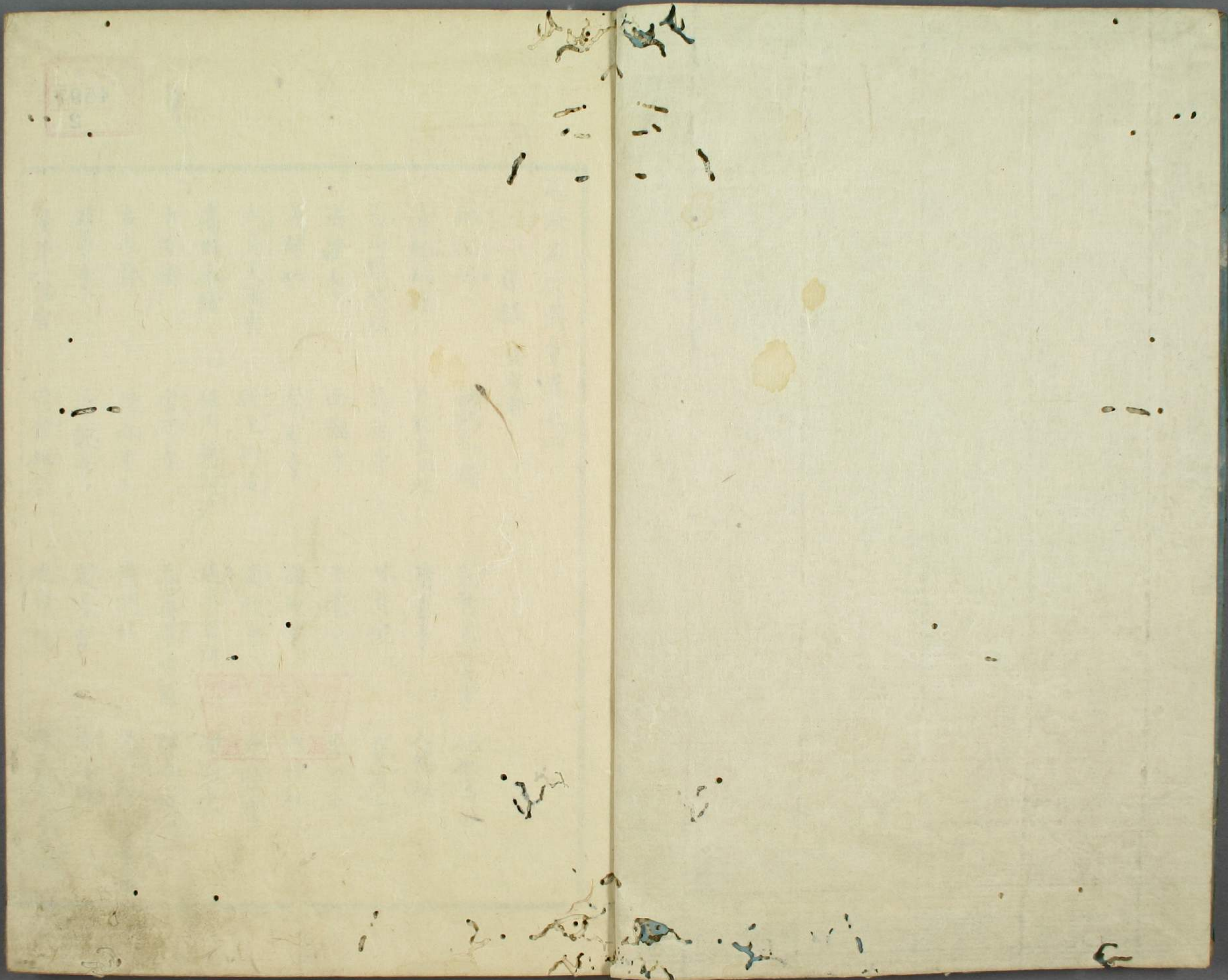




尾張名所圖會
前編
二

ル 4
4597
2





門 九 九
號 4597
卷 2

尾張名所圖會卷之二

目錄 愛智郡



- | | | | | |
|-------|-------|---------|---------|-----------|
| 青物問屋 | 枇杷嶋 | 枇杷島橋 | 琵琶鳥の古事 | 枇杷嶋川 |
| 白山權現社 | 牛頭天王社 | 海福寺 | 清音寺 | 八幡社 |
| 法藏寺 | 西願寺 | 西願寺 | 林貞院 | 寶周寺 |
| 淺間社 | 覺鳳寺 | 正覺寺 | 興西寺 | 花の木 |
| 武島天満宮 | 稻生街道 | 圓頓寺 | 圓頓寺 | 山神社 |
| 高田本坊 | 堀川惣河戸 | 延米會所 | 延米會所 | 慶榮寺 |
| 五條橋 | 金剛寺 | 天王祭造物の圖 | 天王祭造物の圖 | 明倫堂 |
| 白山社 | 清水寺 | 淺間社 | 淺間社 | 材木店 |
| 興善寺 | 漁教寺 | 圓通寺 | 圓通寺 | 梵天若切紙燈籠の圖 |
| 廣井八幡宮 | 同傘鉾祭 | 延命院 | 延命院 | 笹嶋燒 |
| | | | | 陳元賢寓居跡 |

早稲田大學圖書館
昭和 35. 1 28 覽
藏 書

伊藤玄澤施藥	福泉寺	藥品會	永林寺
廣井女王古墳	東光寺	大林寺	光明寺
南寺町の全圖	養林寺	誓願寺	西光院
徳林寺	大乘院	天道社	牛頭天王社
長圓寺	八角堂	聖運寺	日置
堀川の櫻	鶯谷	織田丹波守の傳	無三殿間
八幡宮	弘法井	了義院	東界寺
五百羅漢	相應寺	神明社	藏王權現社
長久寺	八王子社	龜尾清水	七尾天満宮
鷄藥師	松山天道宮	山吹谷	養念寺
烏ヶ池の園	平田院	建中寺	情妙寺
觀音院	圓明寺	教順寺	養葉寺
善光寺	高岳院	東克寺	含笑寺

永安寺	長榮寺	本立寺	照遠寺
法華寺	常德寺	妙蓮寺	法華寺 全圖
白山社	大圓寺	片岡源五衛門墓	西蓮寺
富士權現社	瑠璃光寺	誓願寺	淨念寺
小袖塚	光圓寺	圓輪寺	繁昌院
産前産後二母散	聖徳寺	守細寺	白林寺
政秀寺	平手政秀信長公へ諫書と上る圖	勝鬘寺	勝鬘寺
清淨寺	柳生兵庫居住地	三輪明神社	東泉院
槁の寮	富士見原	大池	醉雪樓
万松寺	白雪稻荷の園	隠里	春日社
長榮寺	九老尚齒會の園	梅香院	榮國寺
崇覺寺	東本願寺掛所	古渡古城	

枇杷島

琵琶島とも書けり川の東と志枇杷橋とひ川の
西向屋町より二ツ木をたて西枇杷島より
の里に瀟居しやうき一いつ時里ときり長横ながよこ河某かみの娘むすめ劉りゅう初はつせむに井

戸田の里に瀟居しやうき一いつ時里ときり長横ながよこ河某かみの娘むすめ劉りゅう初はつせむに井
夏ハ井戸田の系下に瀟居しやうき公保洛こうほらくの期き及およて御別ごべつと源げん惜おぼる

尚所なほれ西にしある土志野里つちしのりまで暮くむるませらふも哀あはれに思おもひ
守まもるの薬師やくし如來にょらいと年とし頃ころに劉りゅうと世よをあるる白菊しろきくの菟うと清きよ

形見かたみにあらむまるに生別せいべつ却かえて死しぶられり理りゆて彼女かのじよ悲かな
歎なげみ堪ず世と憂うれまきるの思おもひはく音身ねみと恨うらみ一首ひとの和歌わがと

書沙かみ一いつ側かたある池いけに身みと沈しづめ終はに空からく茶ちやわらり
の境さかいに其田姿そのでなと存ぞん一いつ善ぜん池いけと枇杷びし又また月つき西にしの方かた小場こば塚づか村むらに琵琶びし橋はしと森もり林はやし

枇杷びしも多おほく起おこるに起おこるに被か女め白菊しろきくの菟うと清きよ惜おぼるには地ち
ある池いけに身みと沈しづめ終はに空からく茶ちやわらり
多く琵琶びし文字もじと用もちひいそのものをもちて

枇杷島橋

大橋ハ枇杷島村と下小田井村の堺
にある小橋ハ下小田井村より

元和八壬戌年

國原源教公

有司うしに命めいとて遠とほららむの國中くに中な戸の一いつの大橋おほゆて東西とうざいに二橋ふたを

架かせり大橋おほ長さなが七十二間小橋こ二十に七間しち杭か桁たか梁はり高たか欄らん其外そのほかに

たぐたぐ更さらに他の雜木ざつぼくと交まじへまるも檜材ひのきと用もちひて結構けいこうの昔むかし美人びじんは

目めと驚おどせり又また橋はしのりに中島なかつしまとり南北なんぼく六町むつより川か中なへおりまひ

もれ方かた三町さんのりハ萩はぎ叢そうゆて毎年まいねん秋あきのりハ尺地しゃくちも沙さすさるも

まま紅こう雲うんの清流せいりゆうハ映えいびる奇觀きくわん之の此所このところに二軒ふたの茶屋ちやゆりて

往來わうらい法人はつじんの飲食おんじに供給きよきやうも凡まづ美濃みの路ぢゆり中山道なかつまにち及び東西とうざい法は法は

の往來わうらいゆて旅たび客きやくのり西國にしこくの法は法は方かた通行たうぎやうの官道くわん道みち旅たび
東常とうじょうに旅たび客きやくハり當府たうぶの西にしの咽のど喉のどをられり市いちにお入いるも商人しやうじんを

ららりり四よ方かたハり法人はつじんもり多おほくも橋はしハり輻ふく湊そうゆて二ふた美み小こ肩かた摩まの賑にぎりり又また橋

上かみよりりをらりり四よ方かたとり信州しんしゅうの御嶽おんたけ駒こまヶが嶽たけ加州かしゅうの白山しろやま江州かうしゅうの伊

吹山ふきやま勢州せいしゅうの多度山たたやま浪州なみしゅうの養老山やうらうやま金華山きんげやま惠那山えなやま三州さんしゅうの株かぶ投た

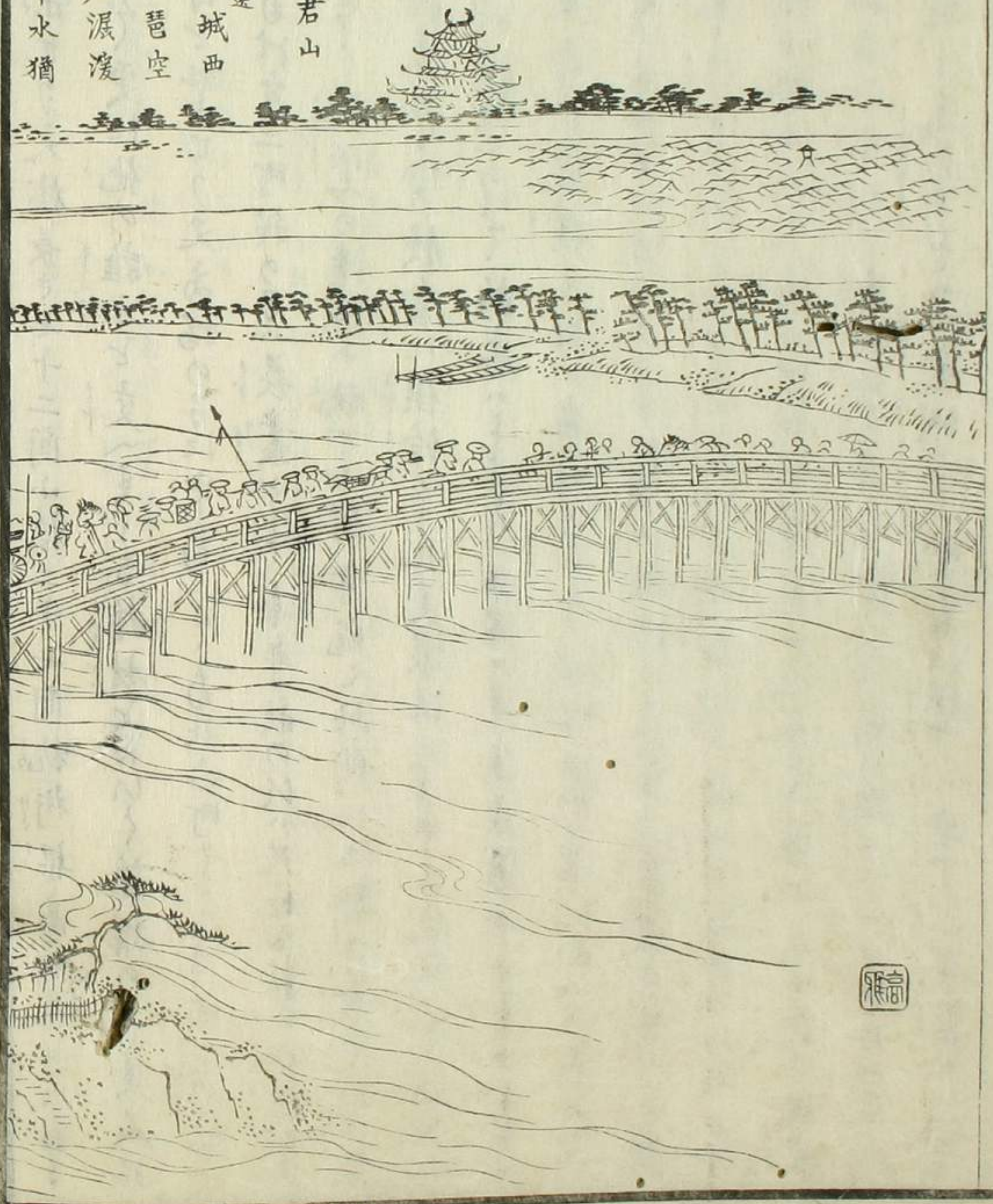
山やま及び及び飛越ひえつ二ふた妙みょう山やまとりままてて八はちヶが國くにの峻秀そんしゅう四よ里りの内にうちに居いる

近ちかくもあらむもとり金かね城じやうとり雲うん表へいに聳たかるも府下ふじやハり万まん家かも一いつ瞬しゆん

枇杷嶋橋

日本詩選
訪古城西
路琵琶空
有名浪渡
橋下水猶

君山



馬四絃聲

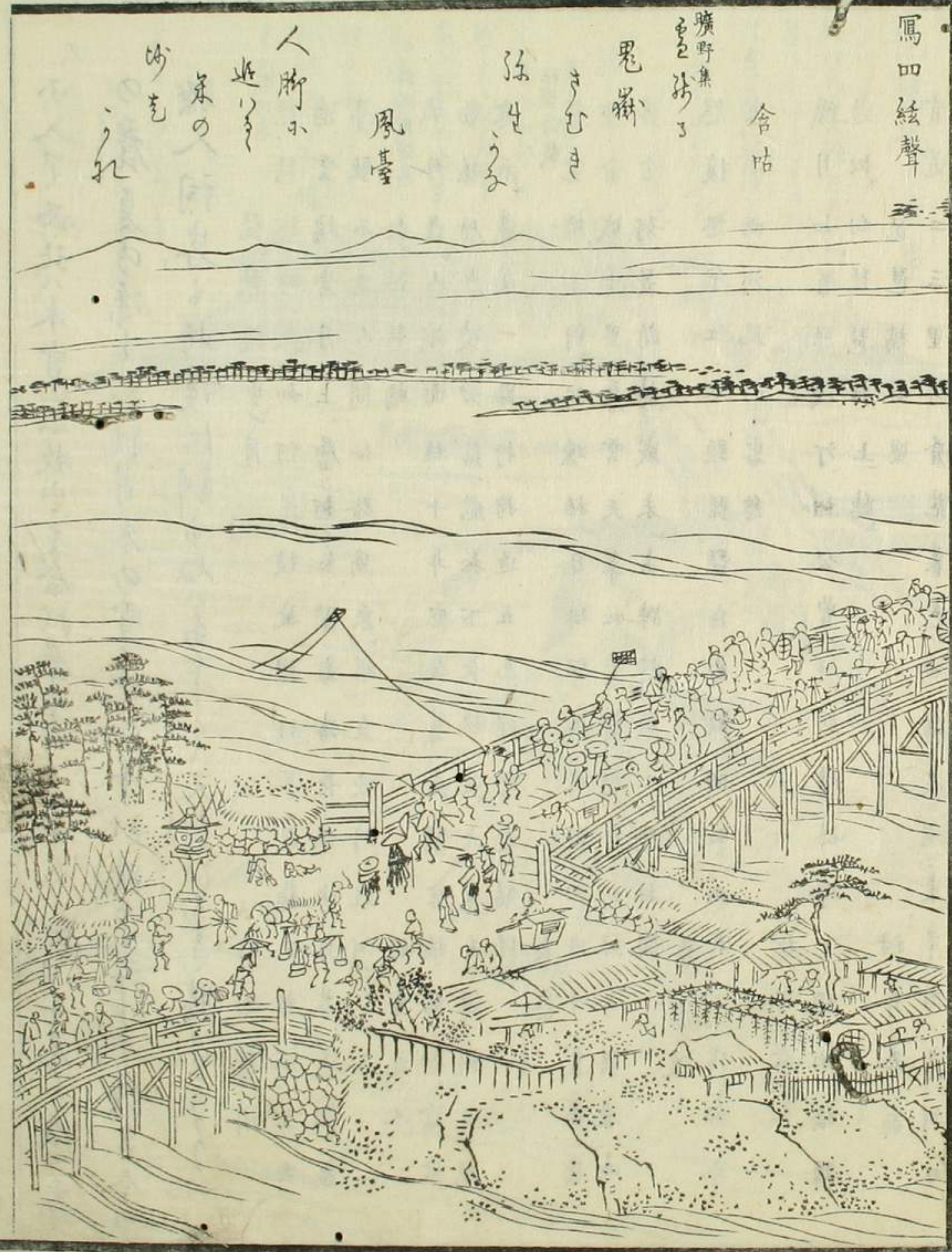
廣野集
合帖

鬼嶽

さむき
法生

風臺

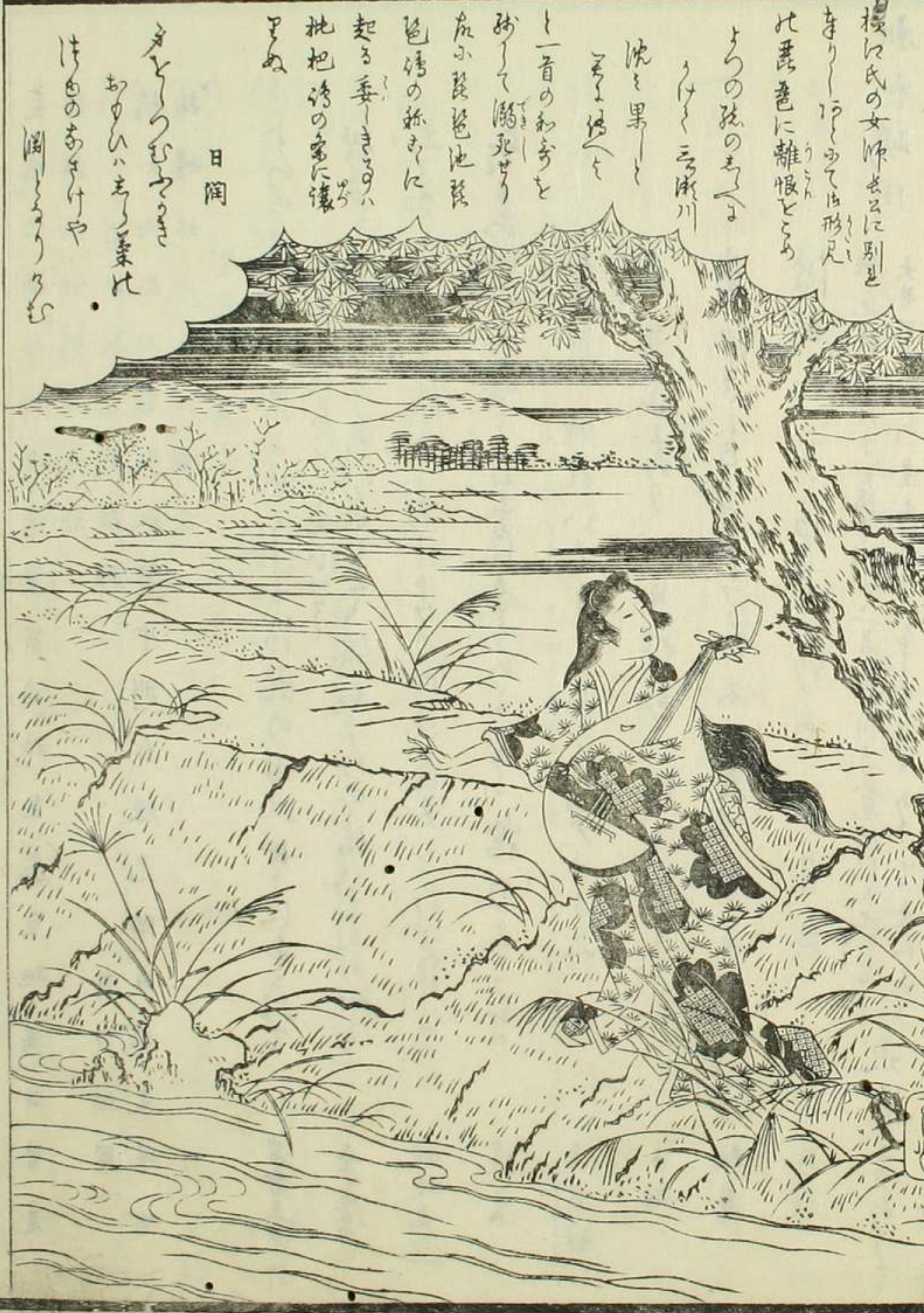
人脚
遊
菜の
妙
孔



小入り西北、本官山小牧山、を余れ羣壑中、を鮮く小足を後り春
 の麓、夏の涼く、此れ月冬の雪を、四季に眺め、之く、古今の
 騷人詞客も此境に到らぬ、あくく、又類ひなき勝景なり。

新川集
 琵琶橋畔夜如何岸幘披襟好並過嶺未輕凡生曲
 浦雲端素月上層柯紅關影落長流水白苧声飄數
 疊歌不道人間仙路隔乘槎直欲到銀河
 延壽道人
 城外逢人識面稀十年空負舊庭闈官橋影射滄波
 動椽雁声凌碧落飛松下長堤通大道天涯斜日照
 寒衣蓬萊一路行將近五色祥雲迎錫歸
 良察
 社盟詩載
 琵琶橋上對斜曛極目徘徊思出群玉府千重高巖
 雪金城十里暮雲天翠松筠鬱雙行列綠水潺湲兩
 派分好景新詩成未去踈鐘點、隔林聞
 秦滄浪
 怨復怨兮江水頭琵琶白菊幾回秋幽衷不得絃中
 新山兩河凡向客愁
 松田常春
 織月如眉照淺汀相公曾此別娉婷瑋、驥兩橋頭
 過似向琵琶橋晚望聽
 村井泰翁
 官道二三里外倉茫暮色如描淡烟東岸西岸斜日

琵琶嶋の古事



櫻江氏の女師老に別と
 幸りて、ついでに形見
 此琵琶に離恨と
 よつての弦のまよ
 うけ、三洲川
 沈も男
 一音のあやと
 砂して、潮来せり
 灰小琵琶池底
 起る委、まよハ
 枇杷橋の家、に懐
 日閑
 夕とつむむや
 切のい、まよ、まよ
 け、の、あ、まよ、まよ
 閑、まよ、まよ

長橋短橋楊柳垂邊鷺宿連漪動處魚跳滿眸皆是
 詩料不似徘徊市朝
 月夜琵琶橋醉歸
 奥田桐園
 橋分兩郡雙龍影水孕中洲白練光醉步歸來涼可
 掬螭姑声裏月微花
 岩倉具選卿

よりの流れはきこぬ沈むも河原の水は世にあらぬて
 往角とあやうらるれ水とて汲知よりの流れをえりやも
 まききののちと清うあまきこはのどの名とあまきこ
 新まきよの流れ月雪はあうりよはる橋の上こらぬ
 道直
 五筑坊
 士朗
 秋廣
 沙路

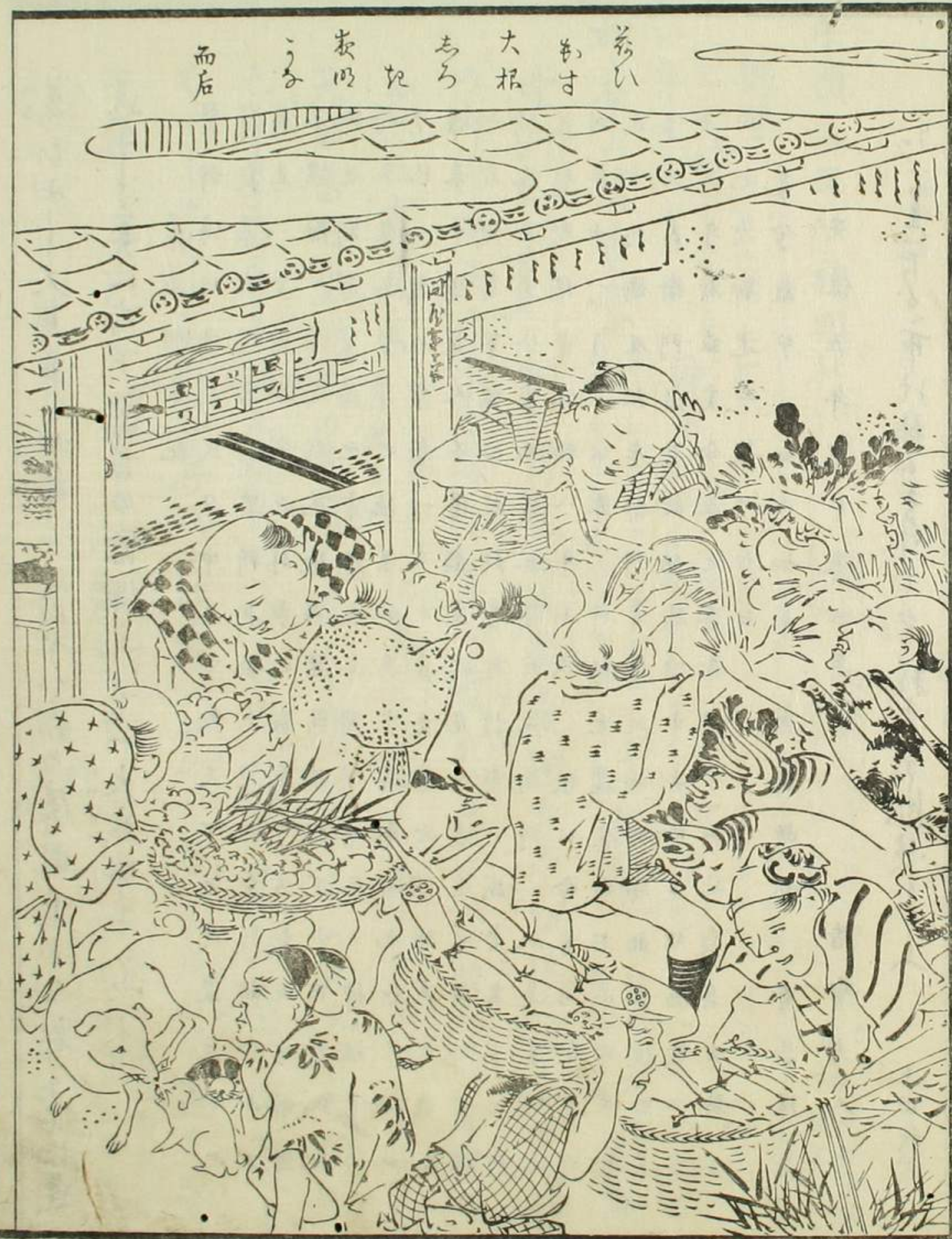
枇杷嶋川
 枇杷嶋指此下と流る川一若小井川と尾浪風土記にのり
 大井田川ハ列是ありんあまの流もありて大川あり
 一ツハ濃州直郡那竹折よりわく同土岐致谷戸と流玉野勝川味
 波形に干つる砂や神月夜
 秋廣
 士朗

流ふ玉一ツハ内津
 是と内付
 より出松本川と流上糸村より玉野川
 の下流と流合一ツハ三所加茂郡よりわく瀬戸赤津
 安井
 矢田川と流稲生より二道合流此大河よりわくより下流ハ万場
 一色と流る海小入
 此河水の隘木相井のあたを流る
 積霖大雨の時洪水浸して岸
 流うて茶人など珠に水と賞美せり
 と相境と侵して水勢盛小あり
 時ハ橋上に多く大石を置き夜ハ堤に篝と焚て暑とあきむと堤の下に石枕と置
 て水の増減と知に候より接ぎに元和よりハ水後一ありハ洪水の時ハ水勢漲り
 て水も通ハさうりハ那古野合戦記及び
 信長記ハの文意少くもあまにきこる

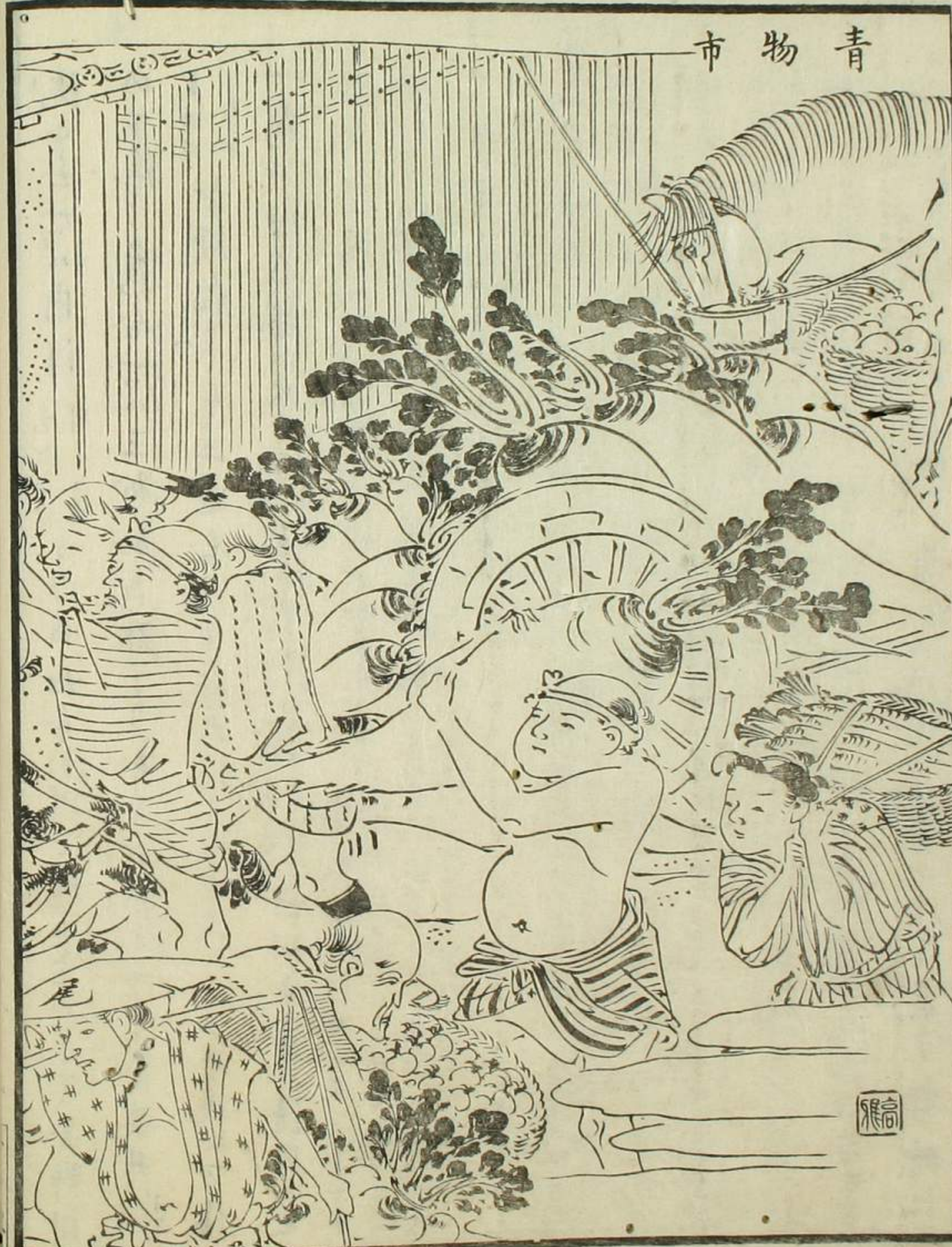
青物市問屋
 橋の西同屋町救所のちも例ハ三十八軒あり茲ハ十九年に市屋橋九條
 由の委しきりハ菜蔬朝
 市記に譲りて是と畧れ
 凡一年中の朝むに市とあり四時の菜蔬干
 物とて新と金ひ奇と競い由國の名産ハりすさく
 宮重方領の大
 根と初め名産
 の品類甚多くて枚舉に違りぬすて是と畧し
 の所産の枕名此系下ハ宛て形状風味と詳小示す
 美濃三河伊勢遠
 河ノ京大坂の産物とてよりに流れてあやうり万物物類に山とあせる
 かく万物と流れけ世に万物
 買ありの商人蟻のわく集を暫時に

かく万物と流れけ世に万物
 買ありの商人蟻のわく集を暫時に

若い 大根 あり 板 明 子 而 后



青物市



送すも冥に府下紫昌の餘澤山て一大盛事と云ふ

菜蔬朝市記

繫辭傳曰神農氏日中為市致天下之民聚天下之
貨交易而退各得其利其所其他九市三市則姑舍而
載焉皇國令式之我尾張國琵琶橋西下小田井邸數
不違歷有菜蔬之市慶長年間開場云神祖嘗曰
街未應為繁昌之地果如其言其為市也起于卯終
于巳一歲之中無一日之虛交易之喧聲不能震
徃來之填盈人不得顧至我尾及遠近之品物京攝
之名產莫不輻湊於此實可謂市之盛者矣市之行
頭凡三十八家而市兵衛九左衛門二人是其魁也
蓋琵琶橋者元和八年壬戌敬公命有司創造之
同年十一月公奉神祖之遺命下小田井村
民市兵衛及九左衛門者護此橋因賜永世復田若
干九左衛門者有故辭職唯市兵衛連綿職二百
十三年於茲矣今茲之春余遊于此地觀其市聽其
由之次聊述二韻如句云
菜兮蔬兮如山如阜無龍斷私香實老人
天保五年甲午春三月

何處なる市此林よを帯て夕影む風吹きよ

海船集 市人よみのまじりてなれ傘

牛頭天王社 神明社 向屋町北側にあり天王社の東に素盞鳥尊 末社 金毘羅社 秋葉社

例祭 正月廿日神事と奏す古例あり委しきり猿猴菴のりりハヤ尾陽年中

松峯山清音寺 東社祀鳥にあり曹洞宗三洞村 本尊 阿彌陀如来 藥師

堂 師長云云のりて 縁起云 故祭藥師如来ハ弘法大師一刀一札

の御作師長公守本尊云々公の愛妃が亡霊昔提のりり小管

おひひ女の法号 清音院松月 によりて清音寺と号す云々

天台宗七堂伽藍の灵場あり一が應永年中の洪水に堂宇流

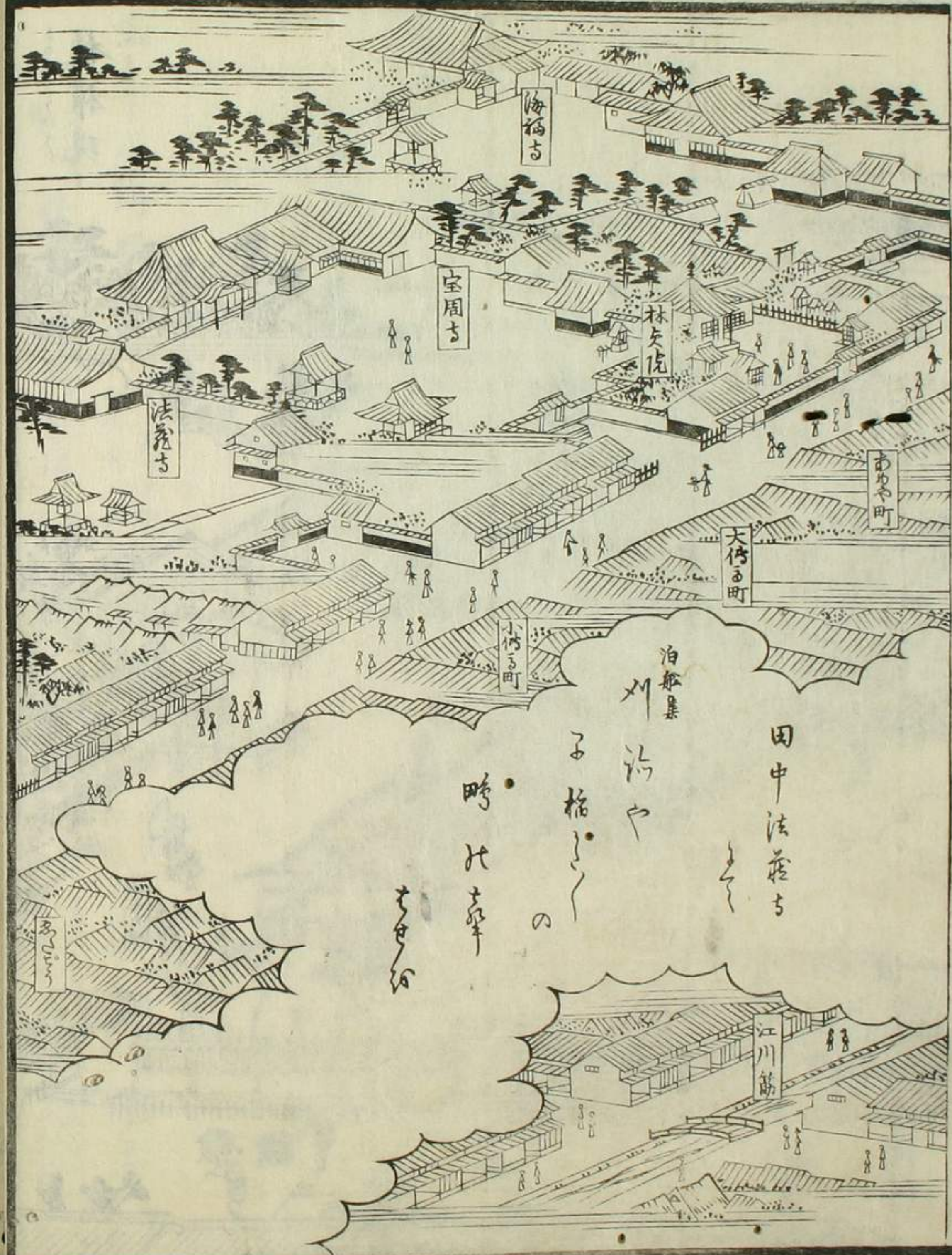
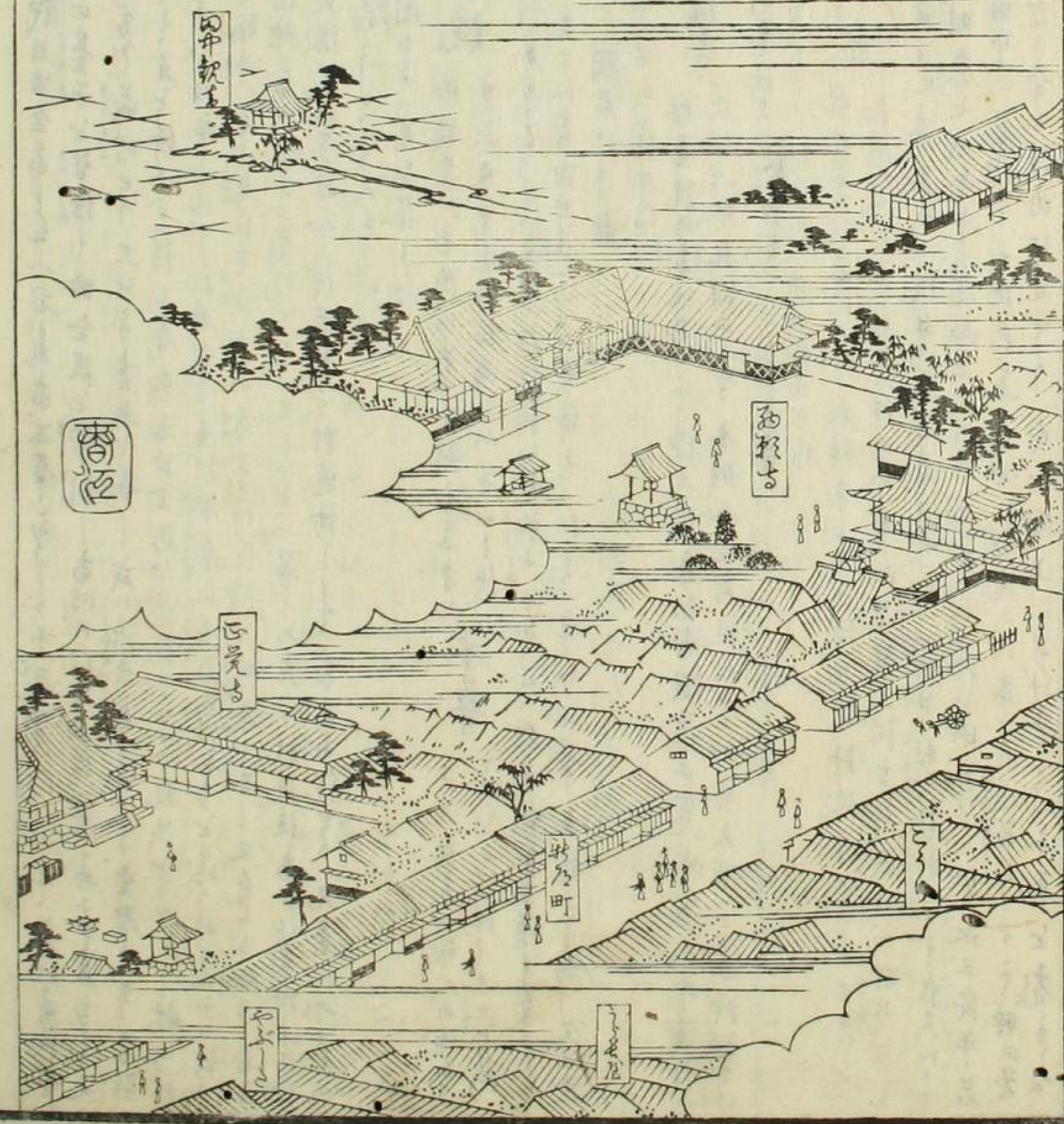
てりし色々其後之其以正眼寺八世の宣叟曇周和尚あり

中興一今れ宗に改む 師長云位牌 南山草創開基妙

公建久三年子二 靈寶 師長云画像一幅 建久の頃の古画あり

月九日と云ふ

海福寺
林貞院
寶周寺
法藏寺
西願寺
正覺寺



家わて其代目曲全高と云ふ者氣味不羣ありて千原奥の門に入りて茶に茶飲を
究り終に眞の基子と傳へ曲全流と聲創り當時日門に太郎菴と共小主若く天
下の名茶とも多し後野(又)又活字書画と善し或ハ流青菴と号す室曆十一年歌
八十三才とてその身を終へて孫玉春亦亦曲全流と道流と号す風流と号す楷所
別在ハ陽居して左市と稱す或時ハ菴室に展置に自在ありとの造り精進あり
あるハことと幅半菴と号して我意の適す所に隨て點茶と号す又自らハ蝸牛菴と
稱せり千村伯就を以て幅半菴と號せり又自らハ蝸牛菴と稱せり千村伯就を以て
と寺傳す天福を以て孫令八代目ありて移連傳して家名を後世に凡菴に傳へし
階級を傳へて初て主人之なり

馬頭山林貞院

海福寺に在りて列々寺と
寛永年中中法信和尚と云ふ山に依
佐長勝の守り本尊ありて子孫流傳の後継ありて移る傳と号す又本造
の寺孫も今 國君に傳
ありて伊勢と稱す

高木山寶周寺

林貞院の南にありて浄土宗と云ふ者現院未寛永八年未年陽州上
人とい中真阿山と云ふ本願人室周院心譽妙安大姉と云ふ本修理吉任
の堂ありて石川を以て 本尊 阿彌陀の像
信光此女なり

田中山法藏寺

室周寺に在りて本願寺宗と云ふ三州計修持曼寺と云ふ
長治三〇年法倉持五郎景政の二男三河も教盛に於て碑ありて
刻置の時の建立と云ふ嘉永元西戌年當必春日井郡小田井村へ移轉ありて
破壊せりと明應七戌午年蓮如上人の弟子是元と云ふ中真の堂三箇年名
古屋村の内田中へ易地す此地甚善あるに在歴の次あるに遷置せり時
句石に彫りて今も境内に建たり 句を圓上におけりて小堂と稱す

本尊

寶龜山西願寺

法藏寺に在りて東本願寺に在りて
甲州の伯人馬場七郎 惟房の弟 惟英出家 西英と号す別馬
場美濃守信房の伯父あり文明年中蓮如上人に傳りて當と号す今此堂改む
孝名年中淨城築の時中下浅野町へ遷り元禄年中中法信此地にありて當寺本
堂ハ御城淨造宮の御材と 國君 本尊 阿彌陀の像
より賜りて建立せり 像春日の作 靈寶 身替り此阿彌

陀如來画像

蓮如上 阿彌陀の画像 實如上 藥師如來の画像 開基あり此法華
人の草 聖徳太子の御作馬場 武田信玄陣太鼓 胸に天文二年二
月日比叡甚と傳

阿彌陀如來

美濃守守り本尊 富士の画 國君瑞龍院 已下乞と畧す
あり 美濃守守り本尊 富士の画 國君瑞龍院 已下乞と畧す

靈鳳山正覺寺

西教寺の南にあり 東本願寺直末と云ふ佛光寺派と云ふ
音院正覺寺と稱し院家地あり 元禄四年今の所に改む
永五年信長清の中身ありて中下六白町にありて正徳六年今の所に改む
元禄五年信長清の中身ありて中下六白町にありて正徳六年今の所に改む
元禄五年信長清の中身ありて中下六白町にありて正徳六年今の所に改む

花の木

浅間社

玉壺山覺鳳寺

本尊

寶篋印

玉壺山覺鳳寺

本尊

寶篋印

塔

石面に謹奉造立寶篋印塔應永十一年甲申年二月十五日願主得阿弥陀佛敬白と彫附あり

興西寺

上嘉五年願所ありを致す宗東派三河山計勝賢寺末永福元年の開基なり

他に比較する

本尊

阿弥陀

山神社

奥西寺の東方にあり旧地ハ清故清原井の内なり一ハ宗東派

武島天満宮

山神の社の南にあり神前古鏡に武島天満宮の文字あり武島ハ

那古野合戦記に及ぶなり

創祭正五九月

稻生街道

上嘉西河川の岸と北ハ道なり春ハ稲生堤に地地も多美妙也

廿五日社人ハ山神ハ三宮成

夜山等四時雪とつらきも一見

長久山圓頓寺

五條橋通れ西北側小あり日蓮宗多野ハ本寺末

本尊

法華

阿原山慶榮寺

承教ハ此東隣にあり本教宗東派法光寺末永正八年

心万も所ハ移し享保

三月廿八日親善正の開基して去日井那

圓頓寺
慶榮寺

太子堂ハ往昔南次
元興寺ハ太子御基
立あり一室塔の古
杖ハ以遺管也一不
くして身堂内に太子
神自作の手像と安
しとあり



香印

高田本坊

信行院の法
々々折々
半々々々
柳の
えて

芳山

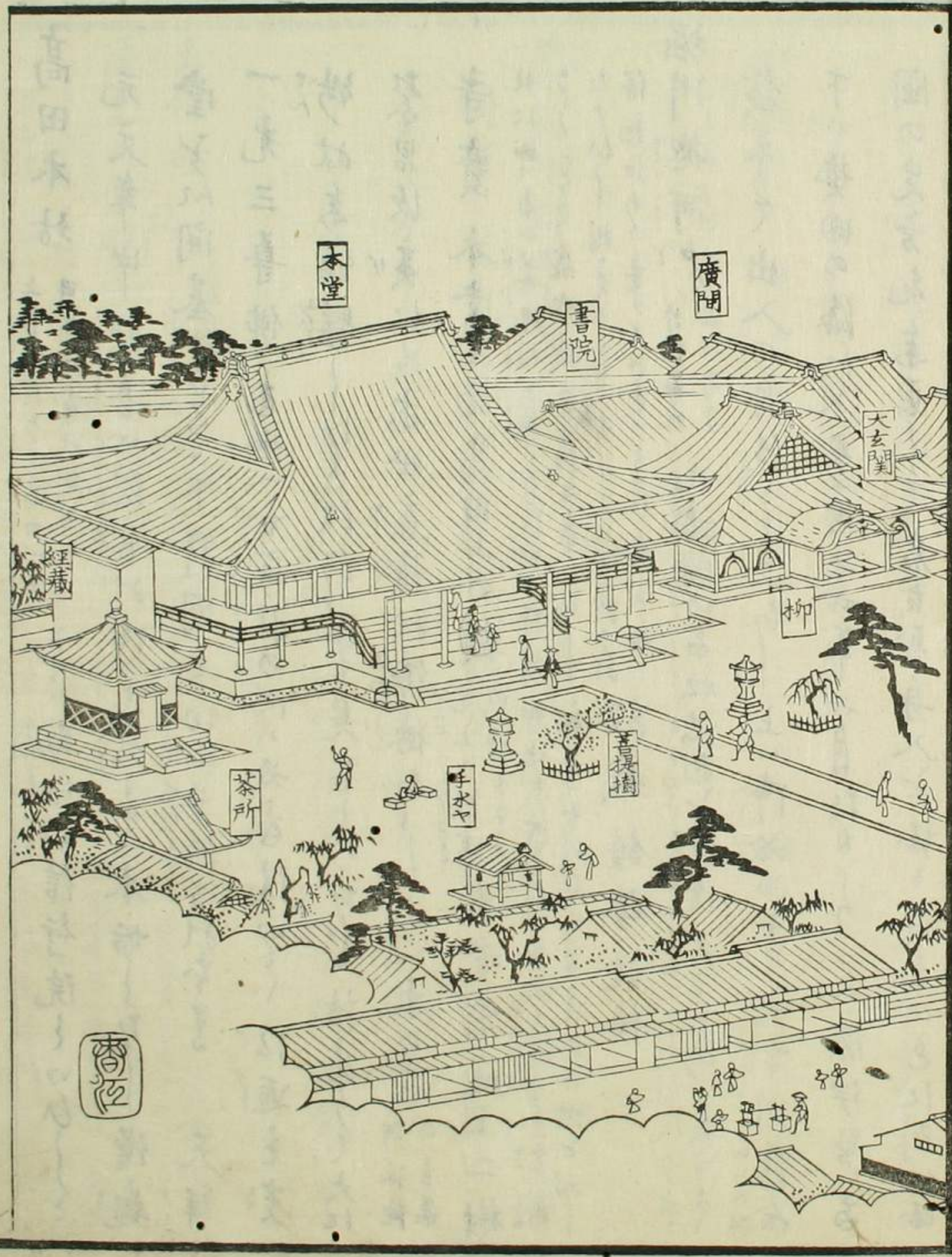
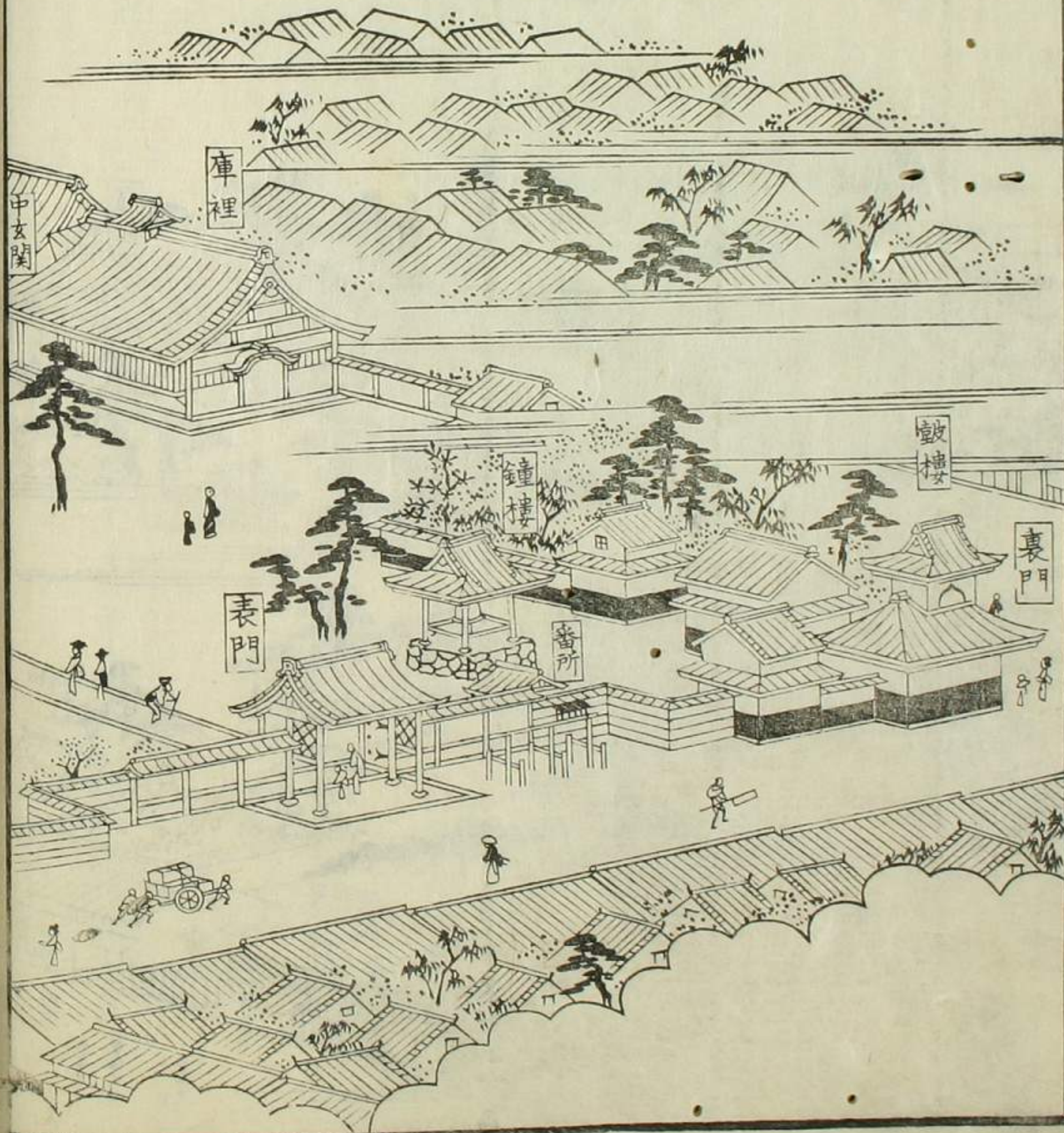
風は

日

柳の

ひ

れ



高田本坊

上島裏にあり高田一身
田專修寺北無西

臨江山信行院といひ

元文年中歡喜心院宮北清志致とて本坊より僧魏

堂とい開基とて下野國言田山寺修され本坊 天拜

一光三尊佛当地へ本開基の時必由院より弘通とて

妙此糸治野一けははりゆも見せとのやと持来りて大に

繁昌次第にも末世慈愍此佛徳あり ○本尊 所法院
の立像

寺寶 本堂正面高田山の額 元上院
の傳をう 本堂前庭上二樹

北に柳南ふ善提樹と桂より山樹ハ野州柳語も修され二樹と名木とて
うりこく虚空藏菩薩天童に化して親善聖人に伽藍造建の地と云

堀川惣河戸 片宿筋北
西にあり 凡諸國の志弘法おと運漕とるとの

後来りて出入の舟絶多りあり上ハ津城西より大幸川

下の埜田の海に入受長十六年五月朔日より美濃伊勢も

國の先方元系とて名古倉舟入と堀る白木の色に別に堀

川と接ハ福清とて交正則とて後すつと今も交

尾州舊話畧に見えり

延米會所

堀江町北西側にあり元和年中舟入町の大指助を寄とる者此家に分分に
て田庄に長年米穀の豊凶と量りて米と買れ大指
の土産と借て米を米穀に思ひの外利潤と得或ハ買ひ或ハ
賣て米とすにいつくも利倍増せり法人も米と習ひて後ハ終り令米
て今所と名建今れく日際ハに寄る

學館明倫堂

片宿筋長嶋町より長者町にあり東ハ 聖堂御門
北ハ 國君通御北御門西ハ 學館の御門あり 源敬公初々學

問所と當り流ハ大津町にありと後中下御門の西へ移

寛永年中 小明倫堂と改り 國君御筆此額と掛ふ又天明年

中今れ地小移ハ 聖堂 先聖殿の沖額ハ
源敬公御筆 講堂及び學館庫倉にあり

とて新に造る二仲の御祭事最重なり

五條橋 京町通の西堀川の橋あり清波の御門の橋也名津城橋といひと
くつて後ハ擬空珠の流に五條橋慶長七年壬寅六月吉日と見えり

法雲山金剛寺 杉の町清園町の東あり南側にあり臨海家系心寺未信山
堂建三つ中島郡日下村に在りと榮文長年中今の所に
す此寺是利家本殿の創創り信長公の時寺はあり一ハ山堂公れ五十年
忌と申りて存念せり

寛永八年六月二日を忌修り

とて

上自乗
天王祭造り物

此處所く六月一日より
牛頭天王とあるに儀の造
りお大仕然りて他に於
あき夜あきなりあひ附
れ所しきりハ大あつ酒
桶の中にとりあつ男
のあんの積真禪
きりし教十人
たぬよ
らふし
く尻と
握りて居る
ま看被に於て居る
けりしと沈むるわいの教



あり曲亭馬琴が漫遊録に以
てう豆此画とあるに江戸の夜
宮の造りおと見よは及バ
びらうとくひに
くに國せらハ三十三所此
観きと宮一幸香の
幣りに鋸屑と焚きま
蚊まうとせも亦一笑
まにとらり



行勝にかきり方と云ふはありぬ所流中村愚溪寺に若屋に鑑りてい
傳くより山堂明應四年八月の誕生少く、寛永八年八百三十万策の時より
西観音の位
夏大師の位

材木店

堀川東岸に材木を竹を薪を貯りてありて、内余國の材木を山名産
の檜木の良材多し昔正万寺町に澤井を傳とてそのまじりて罪科と
犯して死刑に定められたるに、國君の命を乞ふに、名産の材木を
あつて、その材木を蕉の門に、社國又万菊か、おとす、と、
の歳旦に、蓬萊や清國のかりひの木山といふと、
せ、作らまう、死罪と替らぬ、ひの、
て、

白山社

上材木町堀川の東北角にありて、此地に梅の古木ありて、豊臣秀吉
公朝鮮征伐の時、木を、
多く、
張州志畧に、
菊理
媛命例祭 八月十日 古金燈籠
錦に白山権現奉掛御神前天正三寅年

護国山清水寺

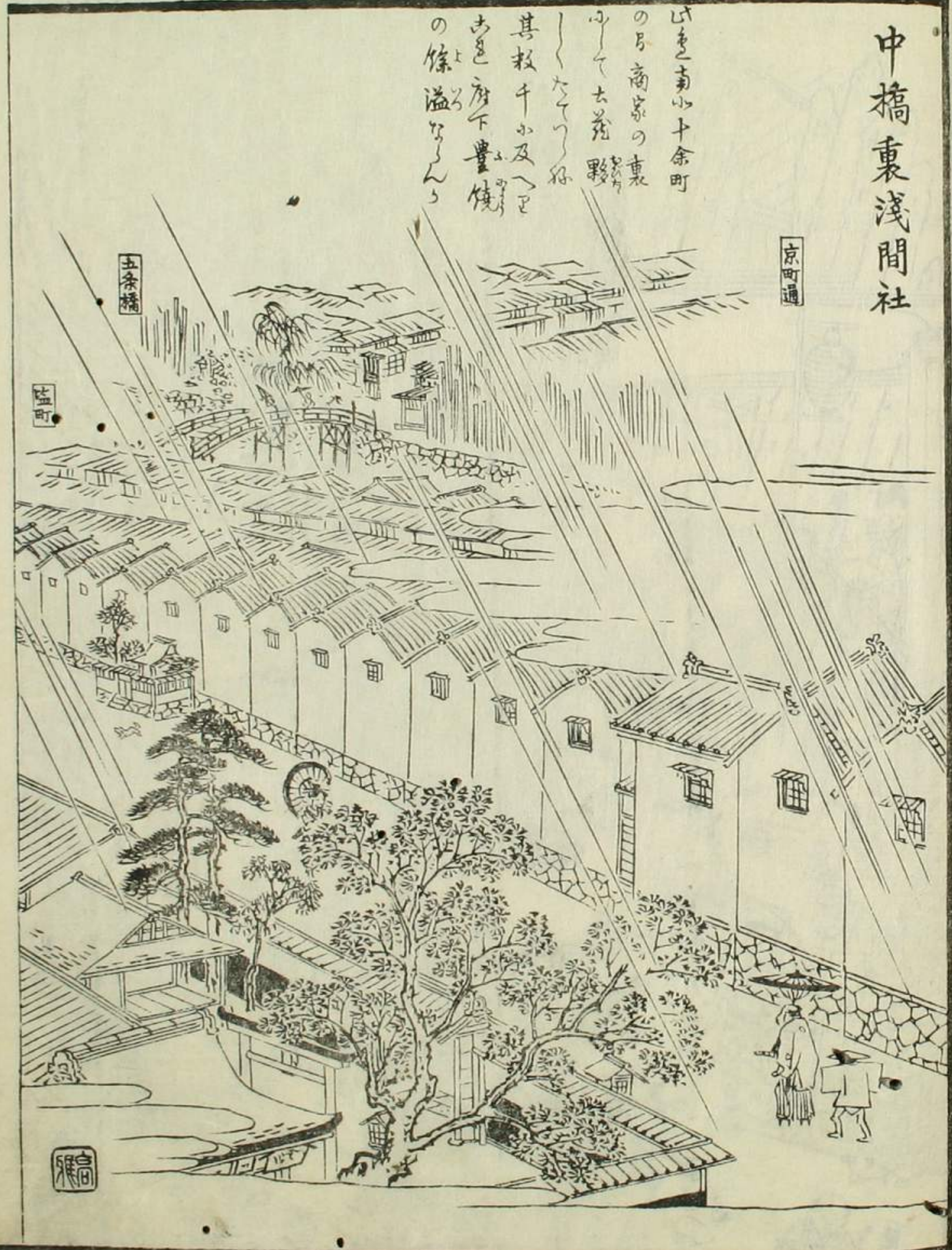
小橋町傳見町北側にあり、浄土宗格承寺末より、
了其功と終む、清水寺の教者に祈り、
府に一寺と建ま、
引松寺末より、
洪仙比丘尼住持あり、
堂宇焼失せ、

本尊

千手観音及び飛龍
の像と女坐の飛龍
堂にありて、

中橋裏淺間社

比叡南に十餘町
の町商家の裏
にありて、
其教千手及び
あは下豊饒
の像あり



土奈橋

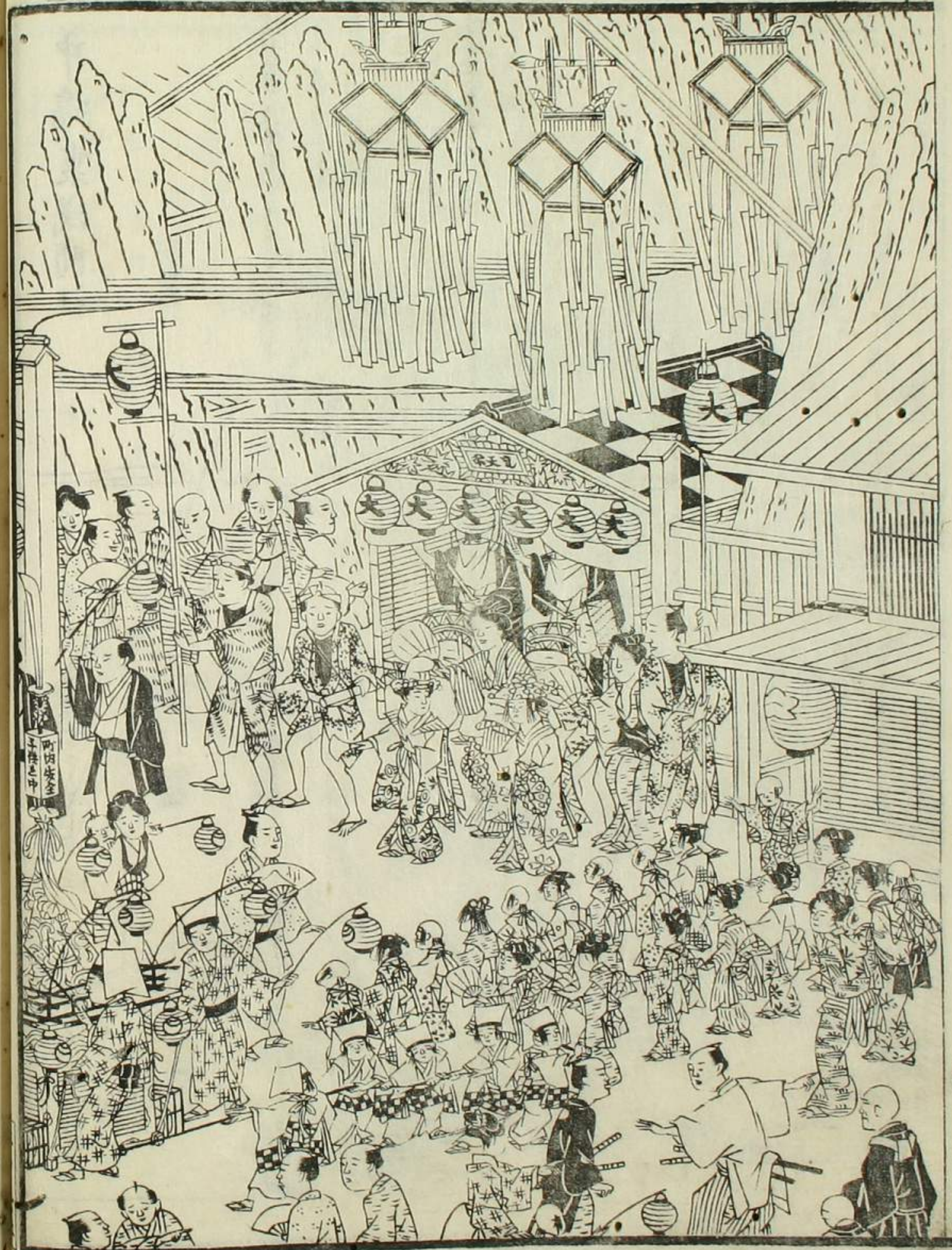
京町通

高橋

當府の祭品を
 中町に於て
 車をうりつ
 移し中央に
 祭壇を築き
 引あはせと
 天を祀り
 幣帛の類は
 一々修験の
 赤に用ゆる
 中央の祭壇
 之を以て
 八幡宮と
 法王年中
 梵天王の
 又上村木
 紙燈籠は
 て是れ一
 のなり



宵夜



まのこは寺に本を列壇へうつし飛華師
と名前に安をせしりしは後へも其師あり
六月願主貞
三河國比志賀郡若宮社
鯨口一面室徳四年壬申

荷上山興善寺

清水寺北白にあり西

海西郡荷上村にあり

天台宗

桓武天皇の勅願所あり天文廿三年甲寅圓

正律師今れ宗に改りしは後へあり中興山と蓮如上

人又尾陽雜記に甚め上人の子其志其子正經本山に

りしは後へあり中世寺と法法にあり

寛文中東派より西派に

改む○本尊

阿弥陀の立像

浄教寺

同町赤名所北東の南側にあり西本願寺末之大永四年本尊
佛法教建主一清法にありしは後へあり
字も清法とありしは寺とありしは後へあり
今も川家北派君或は庵中ありしは後へあり
寺傳いしは後へあり

尾瀬浄教寺に
其角

四寶山珉光院圓通寺

同町長崎町の東北側にあり
東本願寺末の院家あり

伊勢國桑

名郡長嶋にあり天台宗乃圓通大衆寺

増照慶哉の建主

貞永元辰年海東郡上菅津村にあり嘉禎元未年今れ

宗に改りしが兵乱にあり衰廢せしと延徳元酉年僧西善

再興元和七酉年今れ所に遷せり○本尊

阿弥陀の本像惠心修那の作あり

親重上人本像甚上人像も法然上人親重上人連座の

笹島焼磁器

廣井あり笹島あり製す近來に新製あり

廣井八幡宮

袋町神園町の西に北側にあり

本國帳に従三位源江縣天神とあり是之

○本社 祭神 應神天皇神

末社 神明社 熊野社 熱田社 洲原社 三

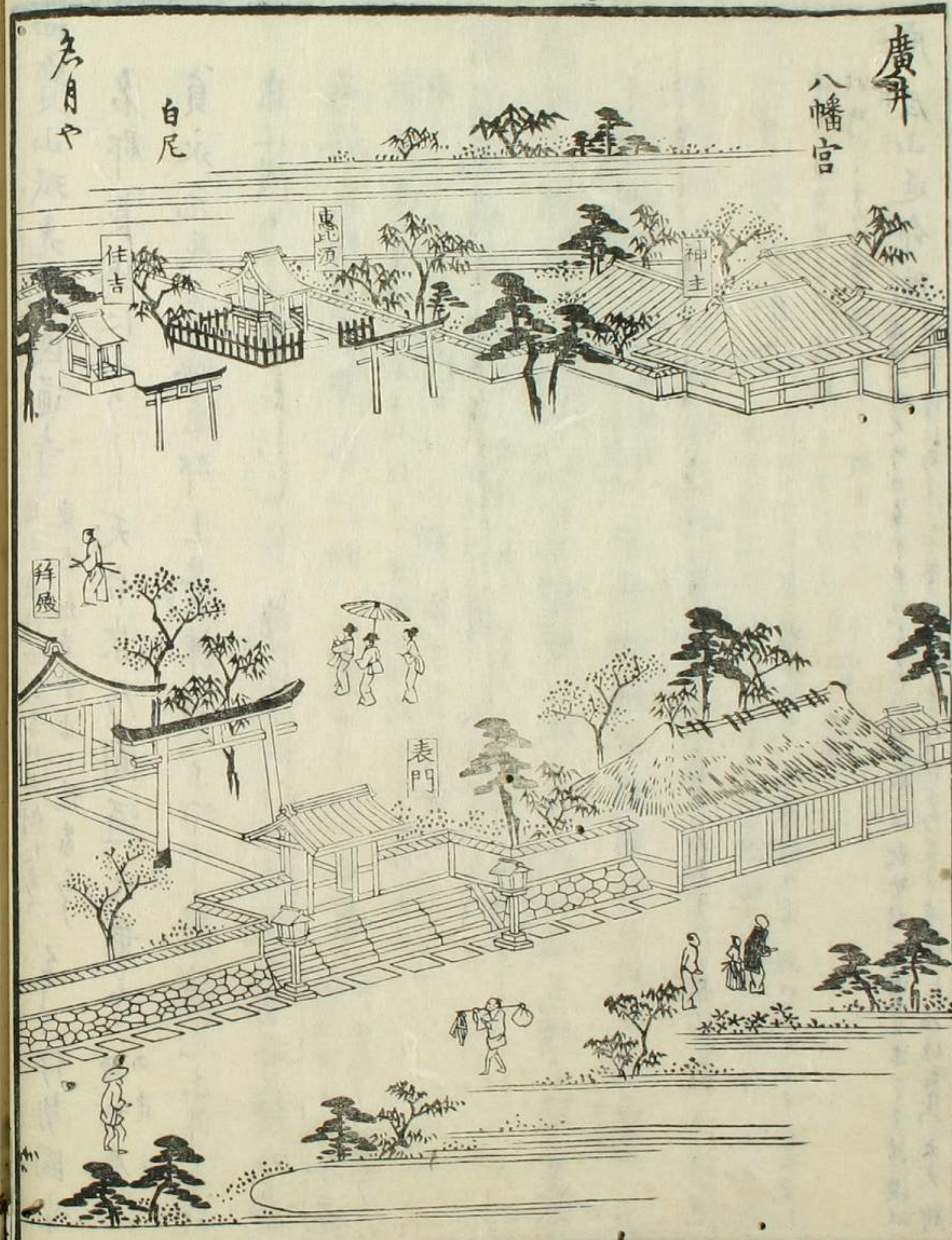
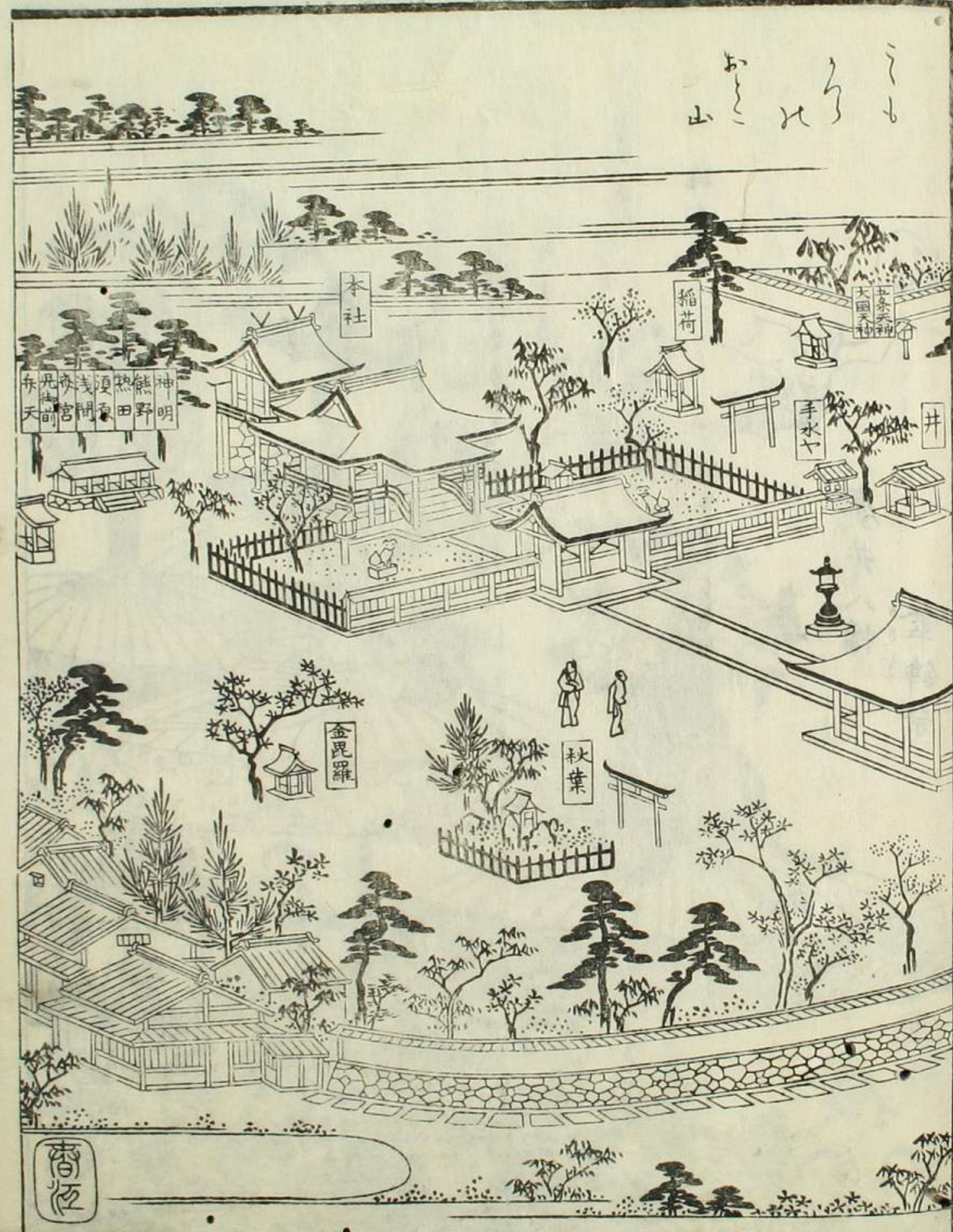
狐神社 淺間社 兒御前社 惠比須社 其外小祠多し

一字 例祭 八月十四日武樂日十五日を祀神輿材木町白山社を

山車焚失せりしは後へあり今ハ近き 祠官 安井

摩屋山延命院

同町休又町の東北側にあり真言宗長中村万徳寺末と法源此
北市場にありしは後へあり





廣井八幡
傘鉾祭

此の内に建立せしめて文禄四年正月四日延命寺と名付の年貢米と用持也
 此正則の古流文とひらに西の寺をいふ延命寺といひて今ハ院号と用也 本尊
 兼師の木

寺寶 西界曼陀羅 北殿司の像也 文珠菩薩の画像 法倉啓
 正則の寺附 書記也

陳元贊 寓居跡 兼名町通袋町北の良学院の巻に 元贊ハ明の虎林縣に
 治居し九十軒町といふ寓居也

人ありて明季の乱をきて 日本に來り 國祖君の寵遇小なり

當府に在りて寛文十年六月九日卒八十五にして死す深草に

元政と方外の文と傳ひて詩文の贈答元と唱和集あり墓ハ建中

寺小にありて碑面に大明國武林既白山廣學陳元贊寬文十一

辛亥年六月九日没とあり其傍に白羽道元の碑あり是則

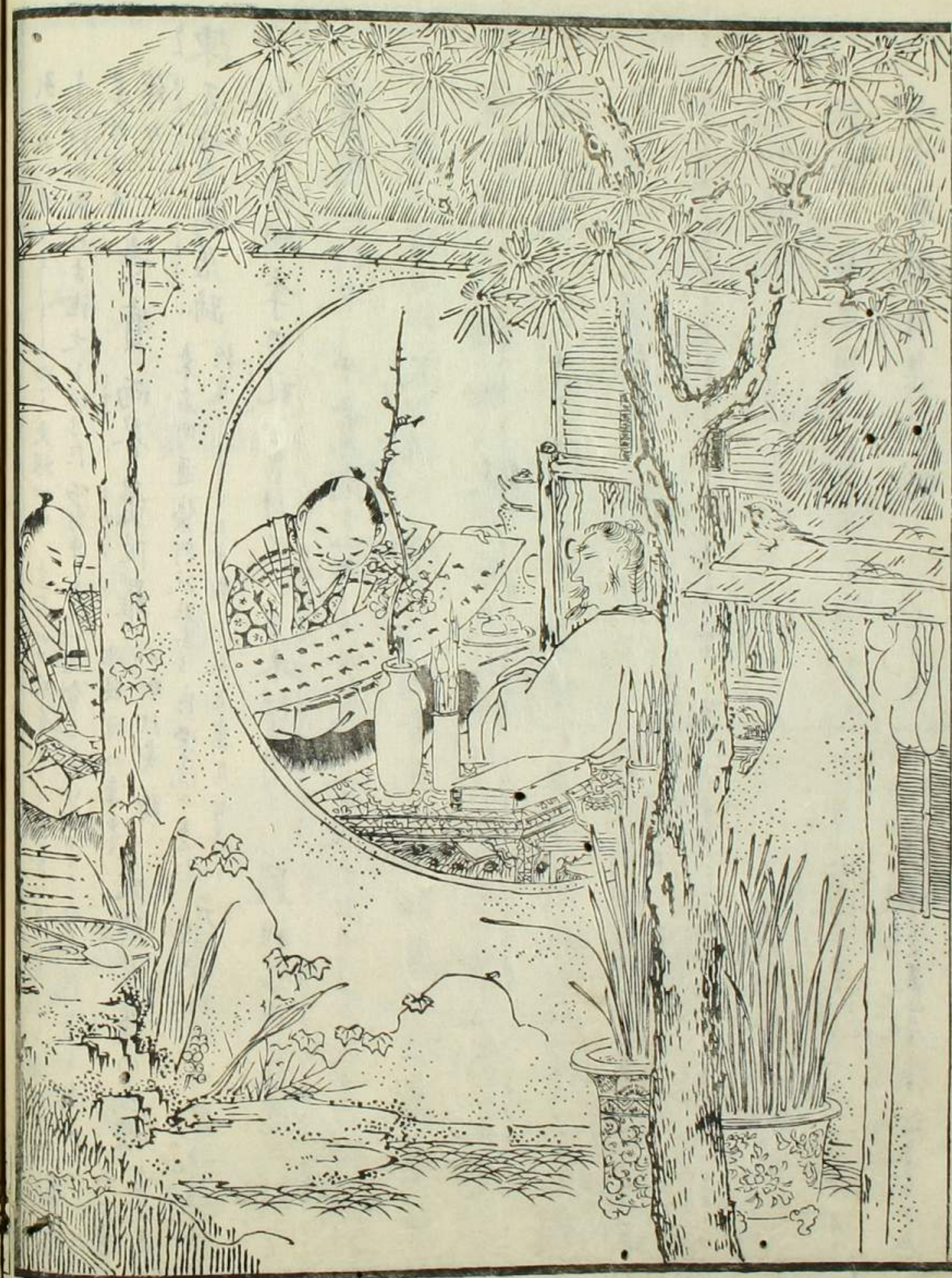
元贊の子俗稱源太郎の墓あり宝永二年九月二日没とあり

了防丘詩選の詩人爵里の條に陳元贊字義都別号既白山

人又稱芝山并菴等明虎林人崇禎中下第流落江湖遂越海
 歸化 日本後仕張藩 敬廟寵尤厚寬文十一年六月卒年
 七十有餘有集未刻といふ

卒年七十有餘 又奉法秘書小云

陳元贄
寓居の圖



元寶江ノ麻布の國正寺に寓す。時福也七命也。改貝也。多為
三浦と改ちあつて三人の浪人あつて目下彼寺に寄寓せり。つ
元寶らに是に語するハ明部小人と捕術あり我も技と見ふ小志を
しつ三人終小工夫と凝して、捕術と習り、是即起倒流の柔
術あり

伊藤玄澤施藥

代々御園町六丁目に住居して年々山野醫術の至境僻地
まがに丸散おと製して、廣く施す。來りて、國君と通じ、
室曆五乙亥十二月より年々茶枝料と賜ふ。尚子孫を授け、
作と著し、今に於て、流す。施す。近ごろ、雲、袖、順、禮、
近國、い、を、國、を、土、ま、て、傳、を、と、求、て、施、
上に看版と掲ぐ。其又とたに記して、い、
右ハ、の、身、を、い、ん、か、つ、び、や、き、の、せ、ら、よ、も、あ、く、
せざる人に、近來、茶と、い、
されり、あ、い、
あ、い、
但右の、
雲水の出家、
ゆる、
再生堂
伊藤玄澤

寶曆乙亥十二月

慈雲山福泉寺

東名町六丁目西側にあり天
台宗也田村岩菴院末

本尊

千手觀音慈覺
大匠の作
戸隠

明神社

安永六年四月の節清
創祭九月十四日

妙見堂

在年の
建

醫學館藥品會

毎年六月十日して山海の禽獸魚鱗介草

木玉石銅鉄これあり、奇品を、
物産までと一万餘種集り、
おの貴賤光弱隣國近在りも、
都督より、
平安より、
小部より、
浅井賜宅ハ、
西の方山
上あり

廣白山永林寺

極切節中、
全隆寺末、
地、
佛工春日の作あり

藥師堂

不動堂

白山権現社

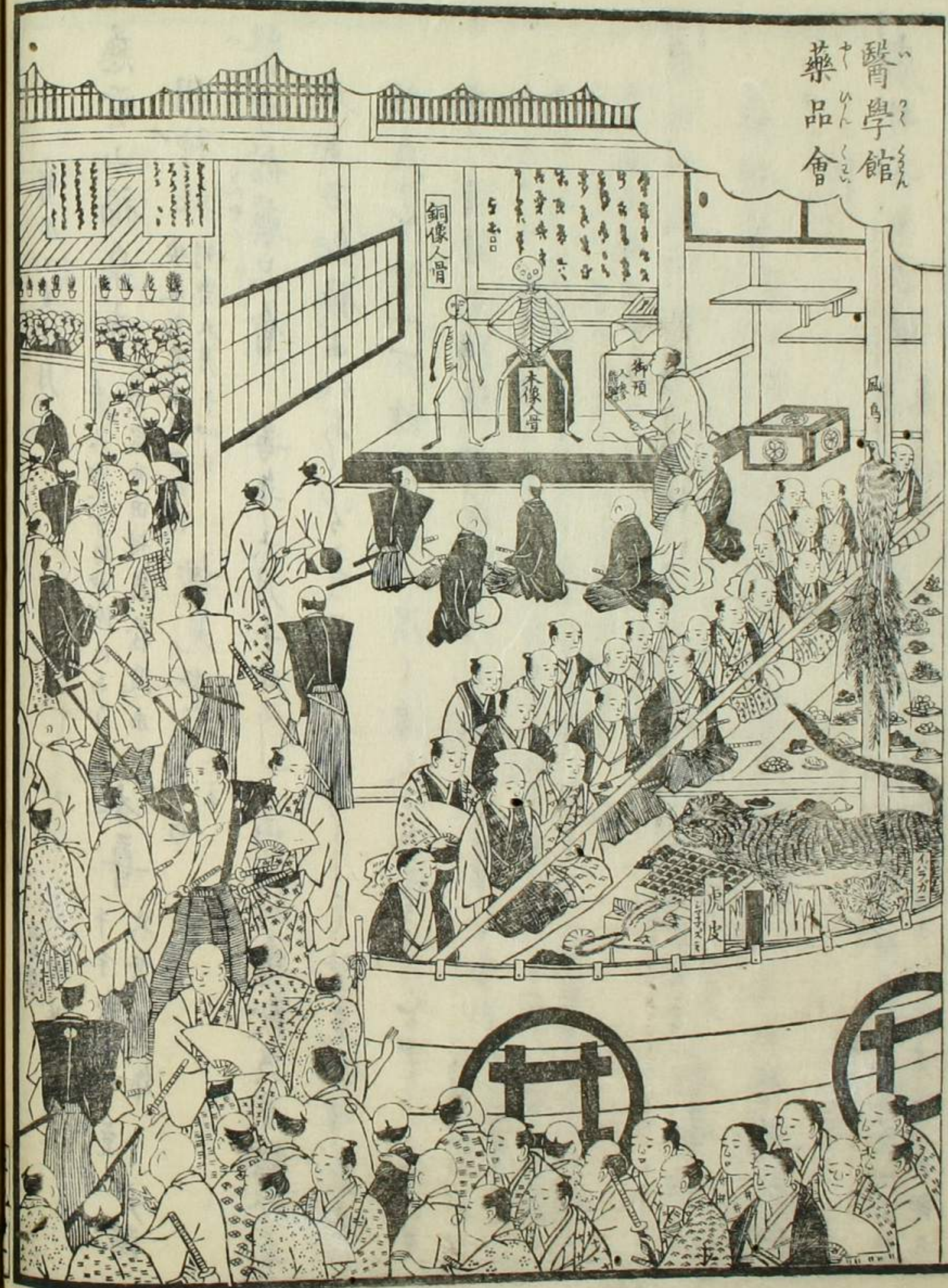
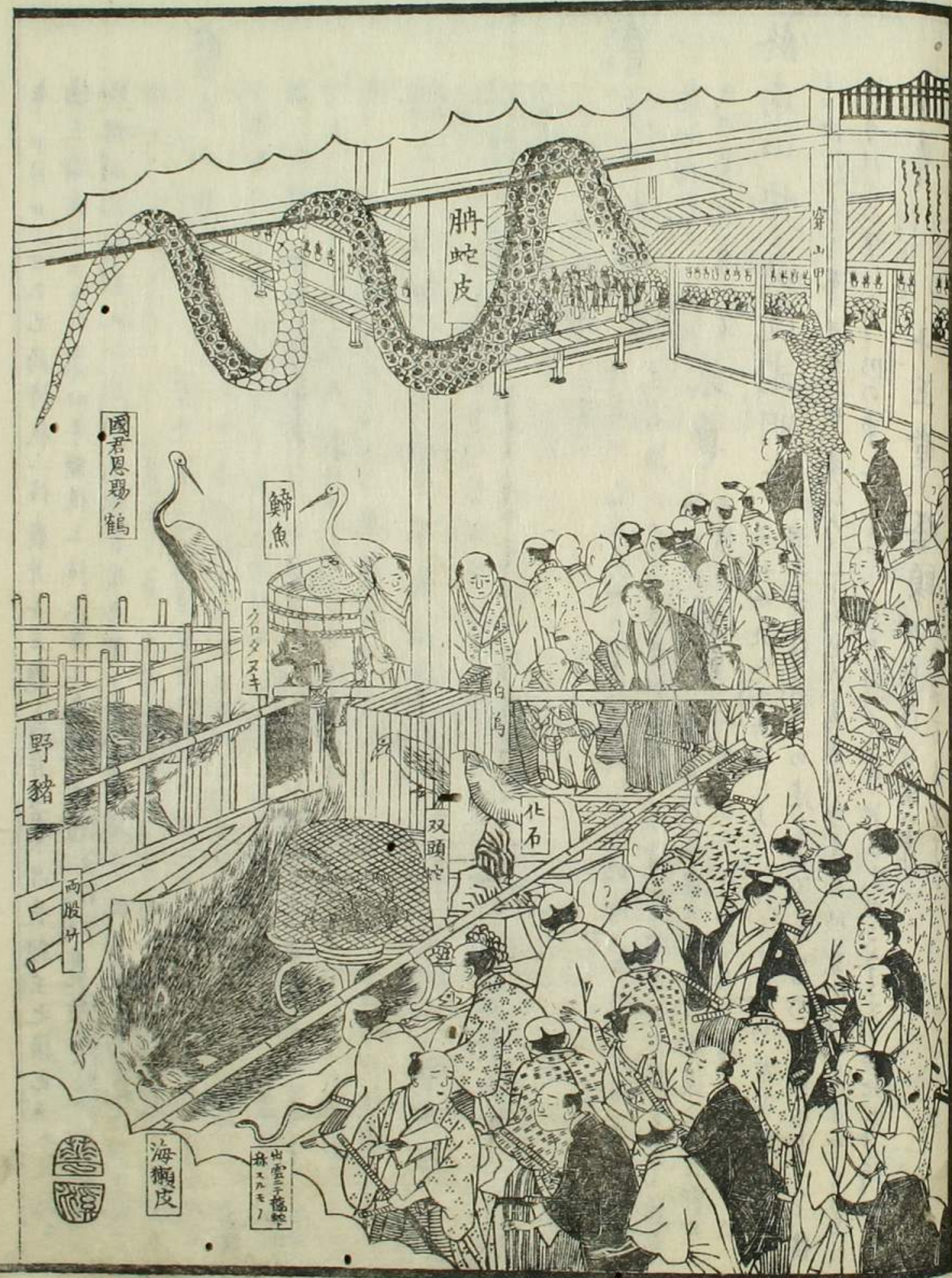
殿、
の画像

廣井女王古墳

廣井、
墓の、

廣井女王古墳

廣井、
墓の、



醫王山東光寺

年十月廿三日乙巳尚侍從三位廣井女玉薨廣井者二品長親王之後也云云父從五位上雄河王云云仁壽四年授從三位天安三年轉尚侍前官權覺時八十有餘廣井元修德操奉勳有祀以能歌見稱善權馬樂云云好事者多就而習之鳥至于殂沒時人悼之云々

廣井横三三孫津園所の西北南例にありて志々宗天王坊未天平元年泰澄法師の建立せり古刹ありと元和二年契田の地蔵院の信長院中尊へ移徙す處に以寺此室

本尊

善師の細像兼針せ善師と稱せり世後より一尊花のやくと心作

あは良院が誓願より移徙す處に以寺此室

鎮守八幡社 ○寺寶不動画像

契田八幡宮の本比佛 熱田宮勸

化書一卷

文明十一年三月撰書記のかけ巻ありと云々 蛇玉一願院

曹溪山大林寺

伏見町通花屋町の西北東例にあり臨海宗末少心寺未定永五年十月院川をさき忠征法号大林寺宗機居士の建立あり信長

龍ヶ岡山 本尊

秋迎の 塔頭 逢春院享保九年三月美濃の可兒郡中

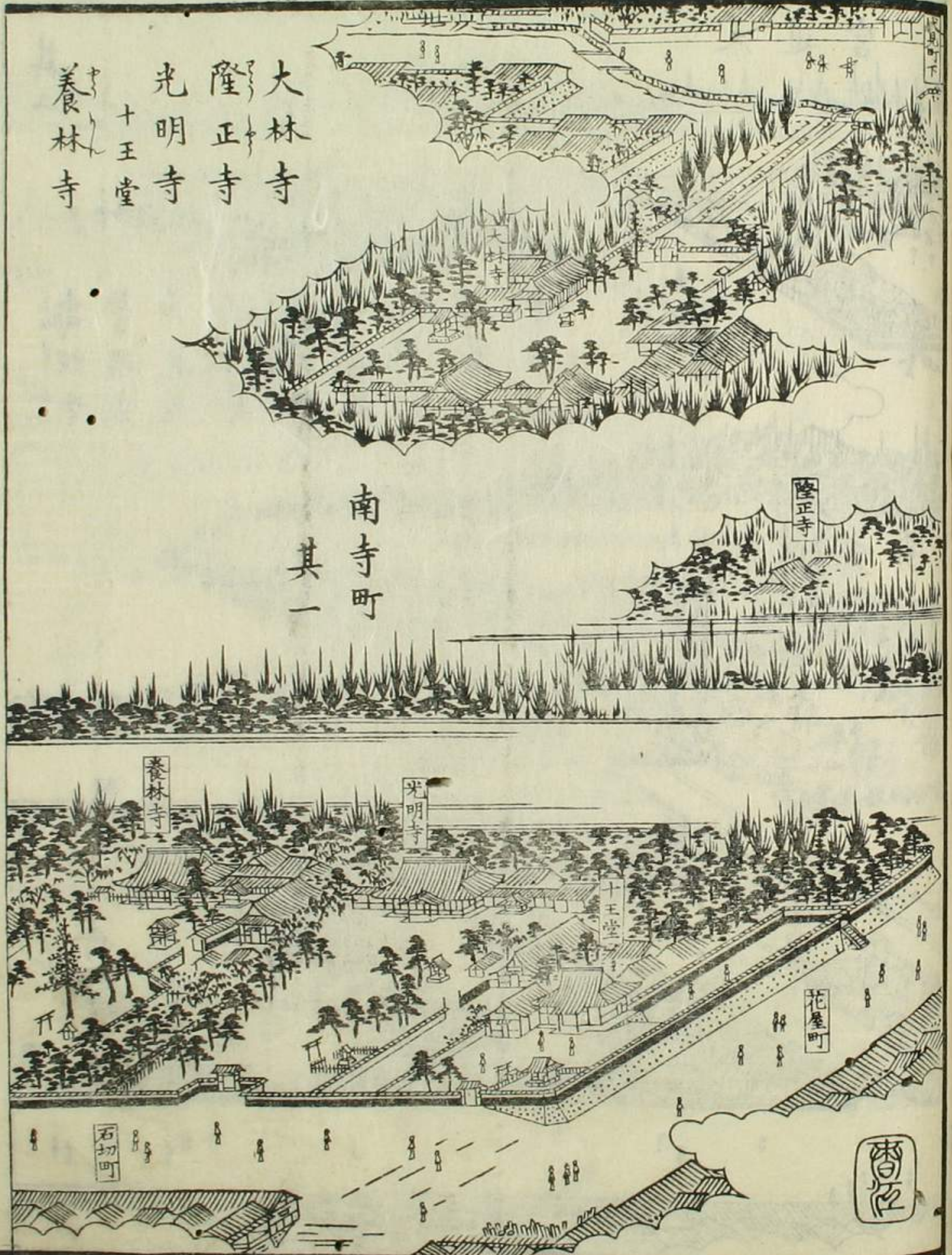
終南山悟真院光明寺

石切町北の端西例にあり浄土宗末初智恩院未定永廿五年信長井の建立あり是名郡中村にありと後

信長にありと云々年中再びありと云々秀吉公幼年の時此院ありて信長と云々

本尊

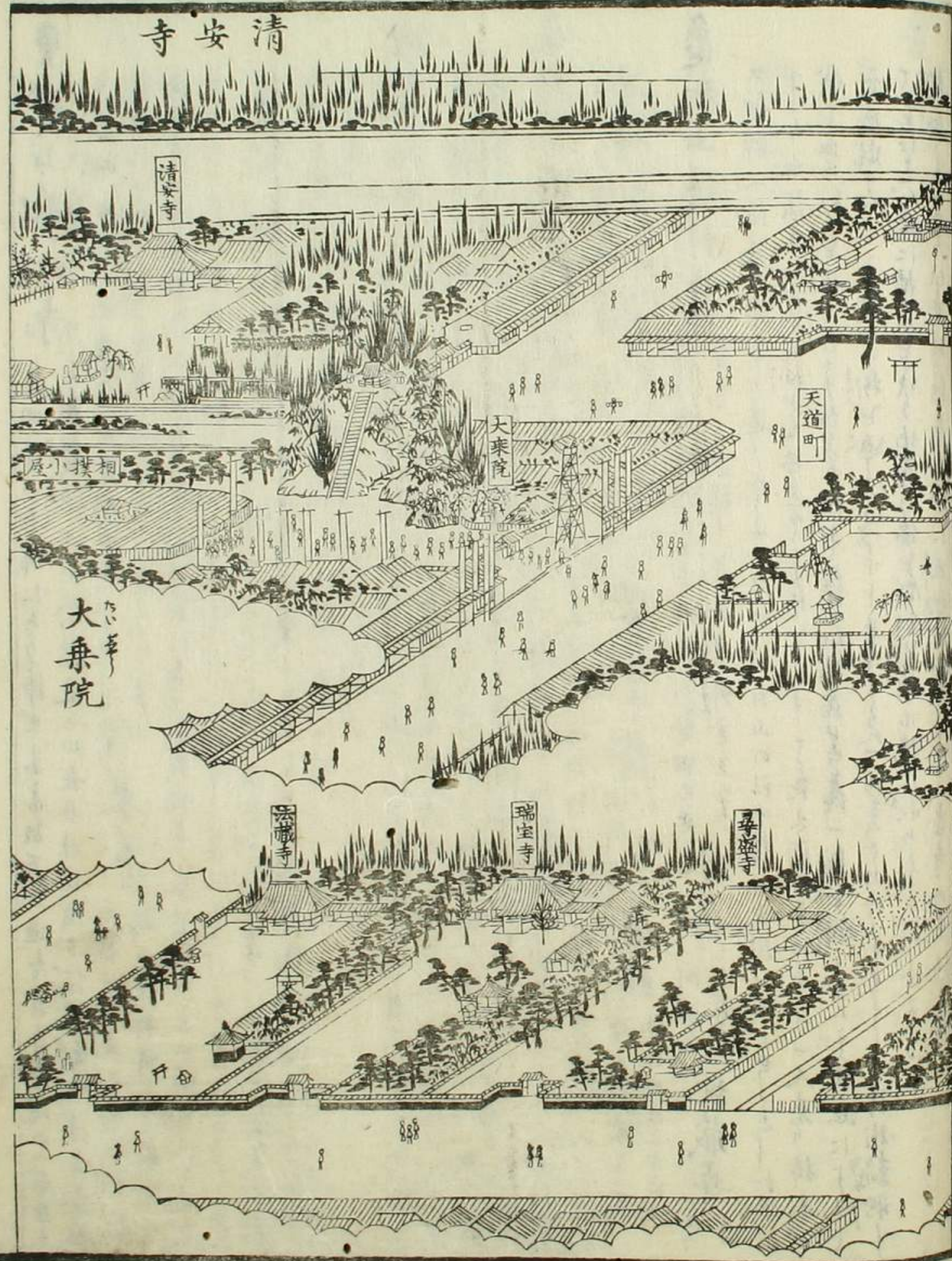
阿彌陀 塔頭 吟窓院近室八年十二月十一日再定す



大林寺
隆正寺
光明寺
十五堂
養林寺

南寺町
其一

曹溪



重寶山養林寺

光明寺の南隣にあり浄土宗末流百萬遍智親寺末開山ハ智忍寺
寺泰雄玄規の建立之ヲ美法園波阜に去リとのラ
法依に去リ一變名年中工多びに去リとのラ
海方不幸の後契田大官四季範の家去リと義経平家退討上赤の時乞ひて
まうが法然上人へ依りとのラ後後長に依來して此寺に本尊を置くありとのラ
寺宝 阿彌陀画像 平敷盛の母家きぬに法然上人自身に画きて然名を
此寺の宝あり 塔頭 攝取院 正保二年
せしむあり

法喜山誓願寺

法喜山にあり浄土西山派多額禪林寺先師寺末元龜三
年信空範生立して法依にありとのラ
花が蔽山より樹ありとのラ樹の大樹ありとのラ
通稱せしむあり

永照山西光院護念寺

多額寺の南隣にあり宗派本山も誓願寺に因り大永年中
僧文悦生立して法依にありとのラ
本尊 阿彌陀佛
塔頭 室珠院清峯院
仙松院の三宇あり

龜松山徳林寺

天道町北側にあり浄土宗契田の正
本尊 阿彌陀
地蔵尊 秀吉
公朝鮮へ後海の軍船と造りて度井村白山の社の樟の大樹と伐らせしむりとのラ
下り血流是かハハ社と名せしむりとのラ
伐て血の如くと怪むりとのラ
致成就夫ハハ社と名せしむりとのラ
て在はしと速に樟木と伐り地蔵の像と彫刻し極示院に収めしむりとのラ
願察しむりとのラ

愛宕山大乗院

徳林寺北側にあり當山派の修持地伊國の根末同行の
の朝日村に在り大圓坊と曰ふ年々三に改む凡名直彦少相撲と
劫進し多しハハ社と名せしむりとのラ

愛太子社

飯縄院と合名あり

天道社

ねふ町にあり今ハハ社ありとのラ天道町と名せしむりとのラ
天照大神月讀命の二座あり

末社

八幡社 天王社 稻荷社

牛頭天王社

南ハハ社ありとのラ天王寺と稱すとのラ地東北ハハ社ありとのラ
度川ハハ社ありとのラ

本社

素盞烏尊 稻田姫 攝

社 泰産社

伊弉諾伊弉冊の兩尊 豊玉姫と配祀し伊弉諾伊弉冊の兩神ハ
遺傳の又母豊玉姫ハ産むに依り神あり泰産の社とすとのラ

船玉社

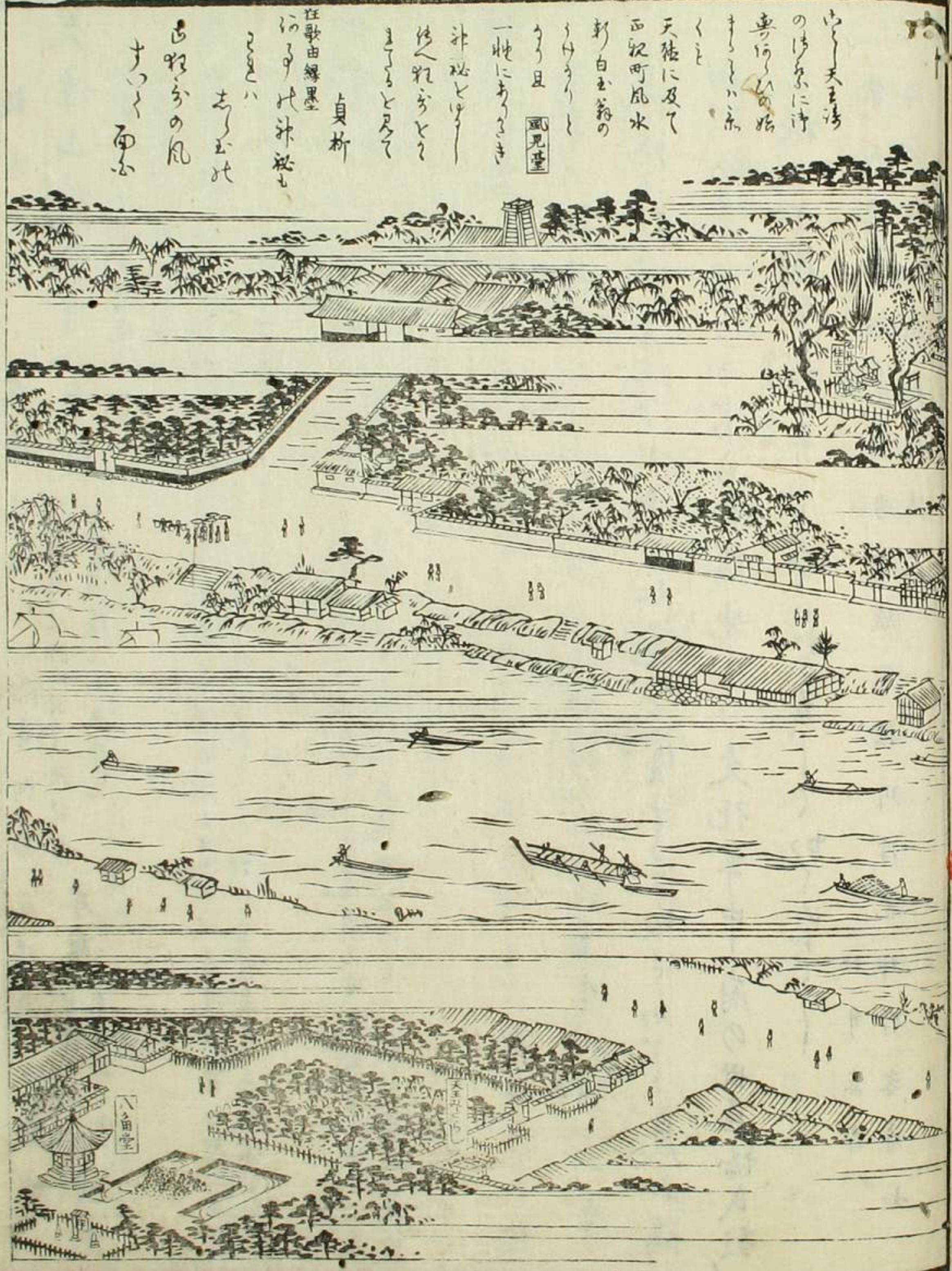
杉は西佐吉郡船玉社と曰神ありとのラ
己あり 船玉社 後日ハ紀天平宝字七年壬午の條に云る國ハハ社ありとのラ
あり 船玉社 後日ハ紀天平宝字七年壬午の條に云る國ハハ社ありとのラ
あり 船玉社 後日ハ紀天平宝字七年壬午の條に云る國ハハ社ありとのラ
あり 船玉社 後日ハ紀天平宝字七年壬午の條に云る國ハハ社ありとのラ

社家二人

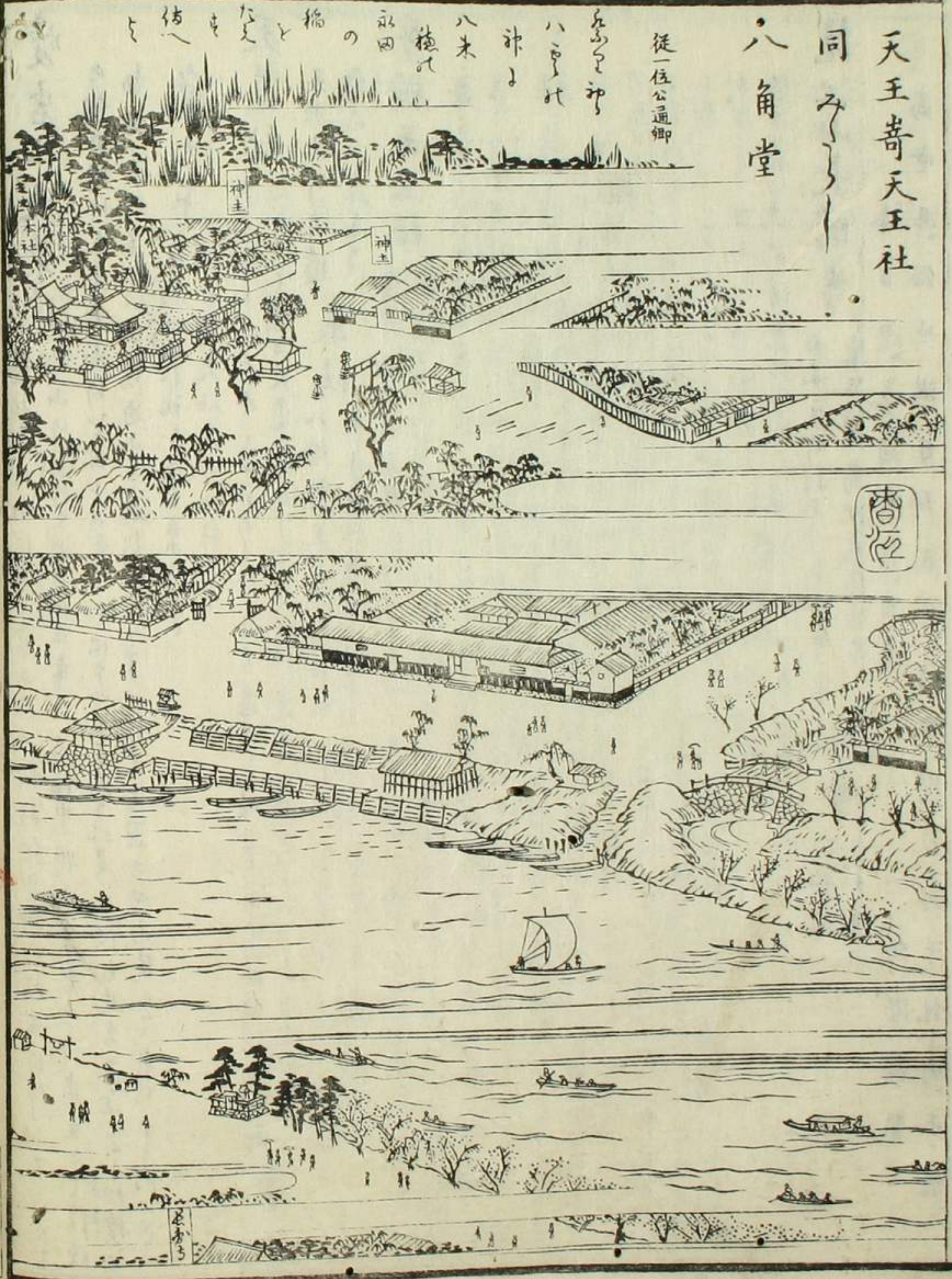
永田氏 吉川氏

龍江山長圓寺

西水玉町にあり本教寺宗
本尊 阿彌陀
の玉像
春日遊長圓寺得借字
高堂 非俗地 滿目百花 佳萬點 開風外 千株列水涯



天王湯
 の湯系に汗
 垂るるの始
 まるるは天
 龍に及て
 西沢町風水
 新白玉翁の
 一姓にあつき
 神祕とせし
 傳へられど
 まゝと見て
 眞析
 狂歌由縁墨
 河の神祕
 玉の
 西沢町の風
 土の
 神



天王寄天王社
 同み
 八角堂
 従一位公通御
 左の神
 八の神
 神
 八木
 極
 永田
 の
 橋
 と
 な
 と
 佐

香

疑者曳曳、還聽鳥啼、永晝何知、永優遊、与客偕

久住山法藏寺八角堂 長田寺北にあり天台宗 本尊 甚師心末法 清水

門前にありありありあり

日秀山聖運寺 東水主町にあり日蓮宗安房國小湊村誕生寺末車の町に多門寺と云々一因土年今此山号寺号に改りて天和三年ありにあり 本尊 法華三空

日置 延喜式東鑑等とあり古書にわら地名あり宇治左大臣頼長公もわに延喜式固ありて台記の久安六年七月廿三日の條に尾張成重と召て尾張國日置と檢注ありありありとせり

堀川の櫻 兩岸日置橋より北の方西水主所まで数所の有る数

百本の櫻樹ありて流生の流はき砂神をつらぬる岸に流るる

集水は舟と流る上下に花と賞するをゆきあがらん山隅

田川の春興も若らぬ勝地あり文化年中府の世臣堀氏數

百根の小樹と栽並べ今ハ繁茂してわくのぞく

第五橋遠兩岸頭香雲暖雪擁川浮花神引客春如

官櫻兩岸屈川灣謾弁芳菲幾往還春思在人猶在

我相逢不語步花間 僧一遠

門外漕江春未開岸櫻捺乱映波瀾橋頭一望花千

畝麗日渾為雪後看 水野柳齋

第五橋西春色加清明節後話櫻花青帝乍被香雲

鎖不得遊人到酒家 中川西岸

月照花林雪糝湖江涵花影月輪孤懸 蕙多謝東皇

手画作春江花月圖

くささかた桃もさくのの花の雪もささかぬのさかきん 成瀬正忠

笑つたささかきの花のさかきんもささかぬのさかきん 深田正詔

房そりの花乃あそむをささかぬのさかきん 木村千齋

けふもささかきの花のさかきんもささかぬのさかきん 間嶋正盛

ゆくもささかきの花のさかきんもささかぬのさかきん 岐巻

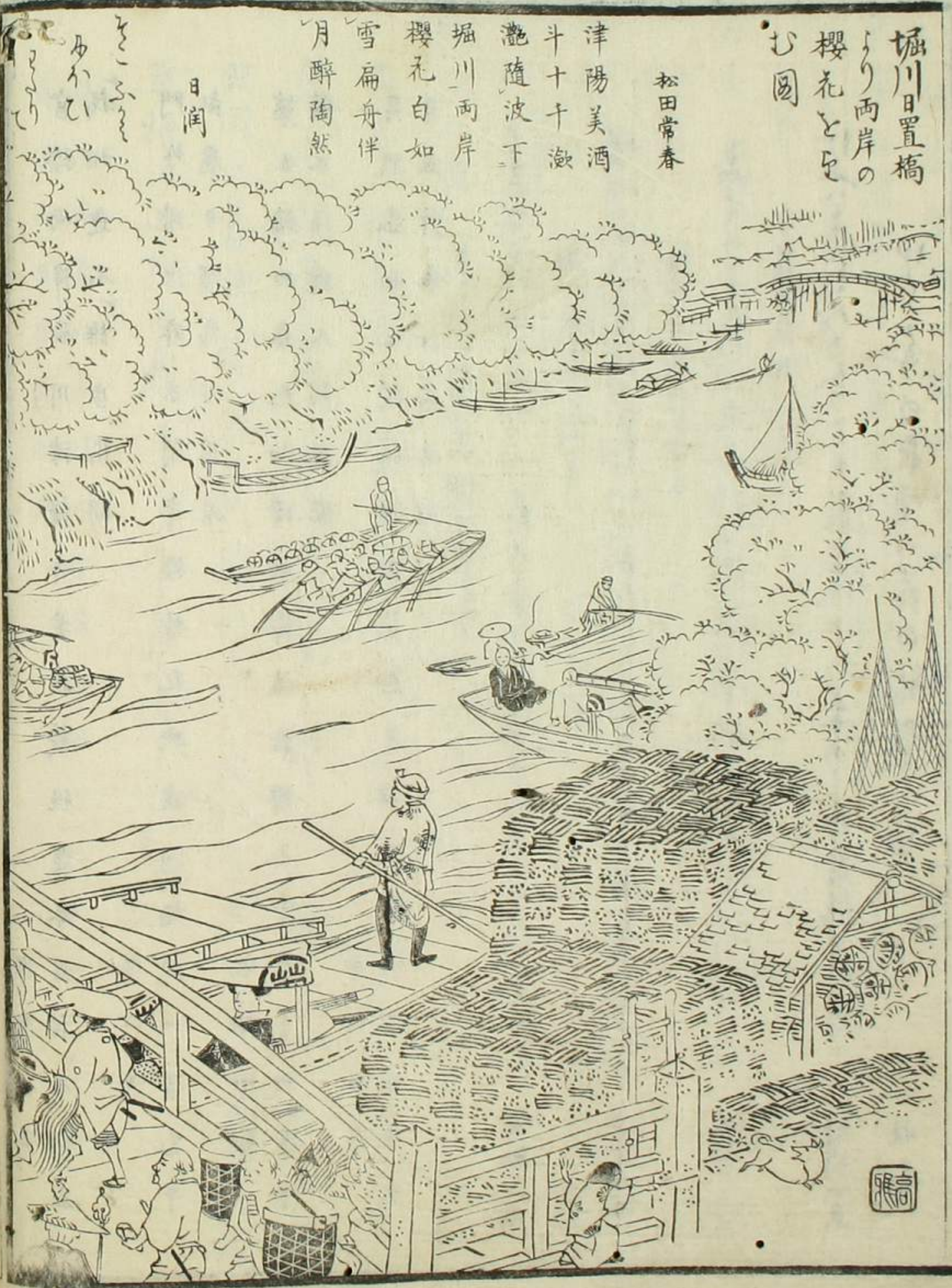
堀川日置橋
より兩岸の
櫻花とを
むすむ

松田常春

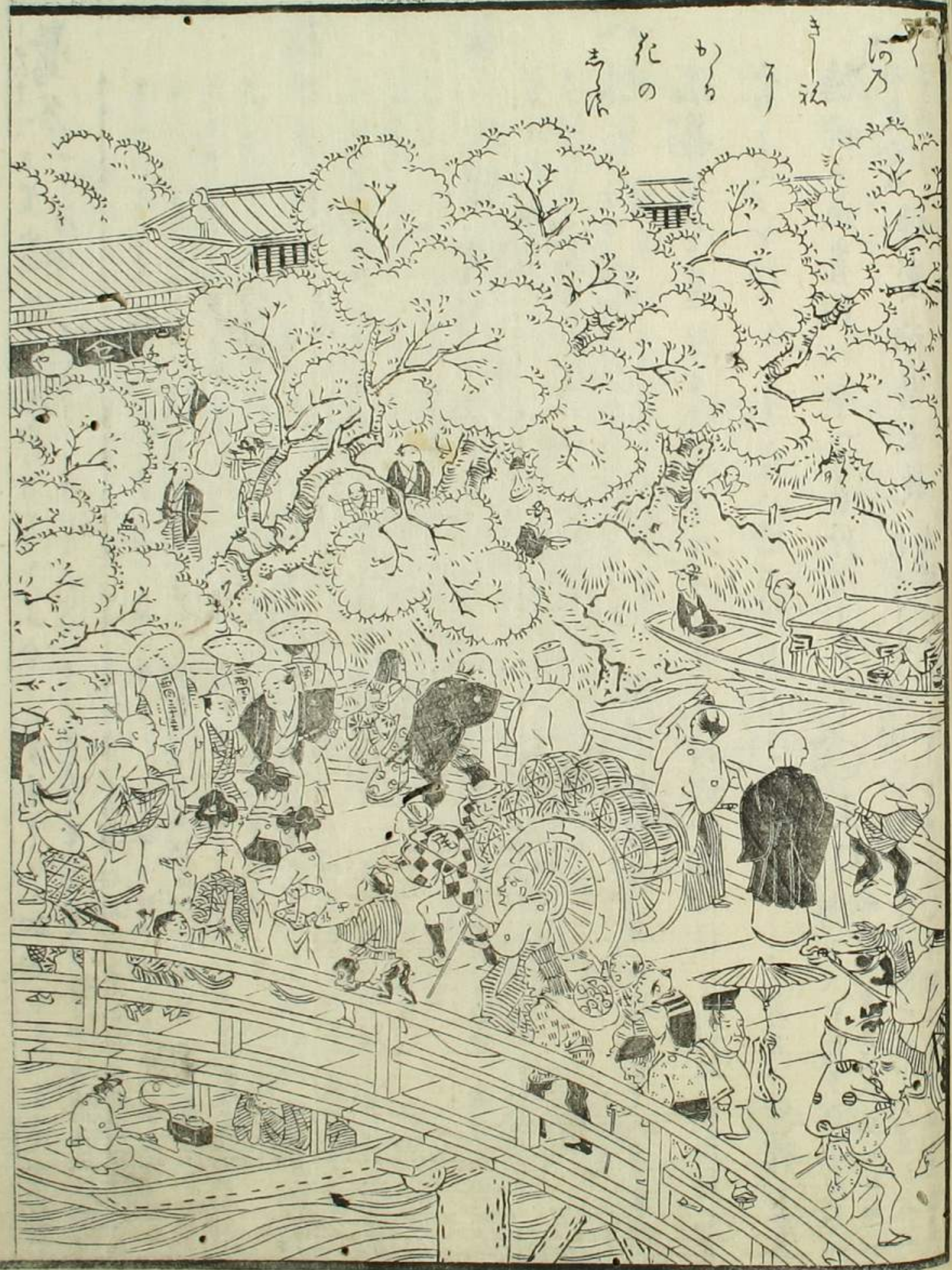
津陽美酒
斗十千激
艶随波下
堀川兩岸
櫻花白如
雪扁舟伴
月醉陶然

日潤

さくら
の
は
な
の
は
な
の
は
な



い
は
な
の
は
な
の
は
な



了義院

三日月塚

大方松の杖院

とせ

治船集

香しく

三日月の月



香

福寺の太鼓うらやま 例祭 正月十五日 五月十五日 九月十四日 同十五日 祠官 今八歳 田氏

弘法井

同所坂下にある弘法大師聖田宮より龍泉寺へ至る途中にあり 渡摩と修せしむ阿伽の水を汲み井にいとくはしむ

妙見堂了義院

日峯抄は國形勢の妙見と秘法して日蓮宗より定保の年の秋五條坊木見芭蕉の後白によりて三日月塚と境内に建てしむるの白の園上に出す

有に形をくくする三日月の月

曉堂

長尾山東界寺

出来町の東にあり真言宗大和國海部郡の池坊の末寺貞享保五年の建立より關山卓運法師の俗姓林氏 國君見禪院殿の浄実母泉光院殿の本尊 某師め来り 見禪院殿の浄実母

古鰐口

鎮守金毘羅の社にかけ長尾山鎮守鐘一口願主藤原行影謹為祈禱奉鑄應永十年癸未六月大吉日敬白大工助宗

福壽山大龍寺五百羅漢

新出来町北側にあり黄檗宗山城守治の萬福寺末享保十年の建立より 本尊 地蔵菩薩 春日井郡阿原村にあり 春地蔵といふ灵佛の木像と安置して 府下の一灵場なり

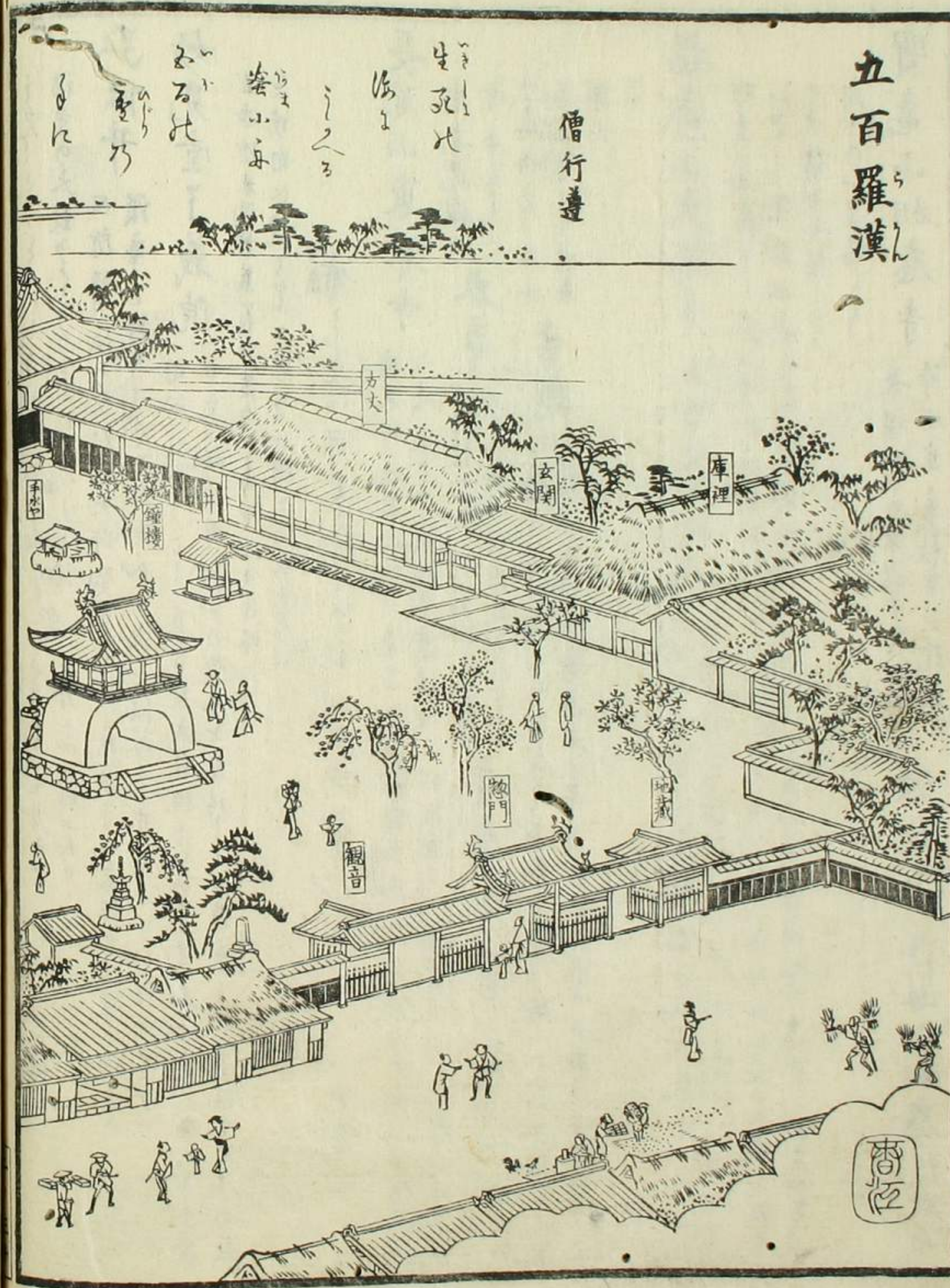
羅漢堂

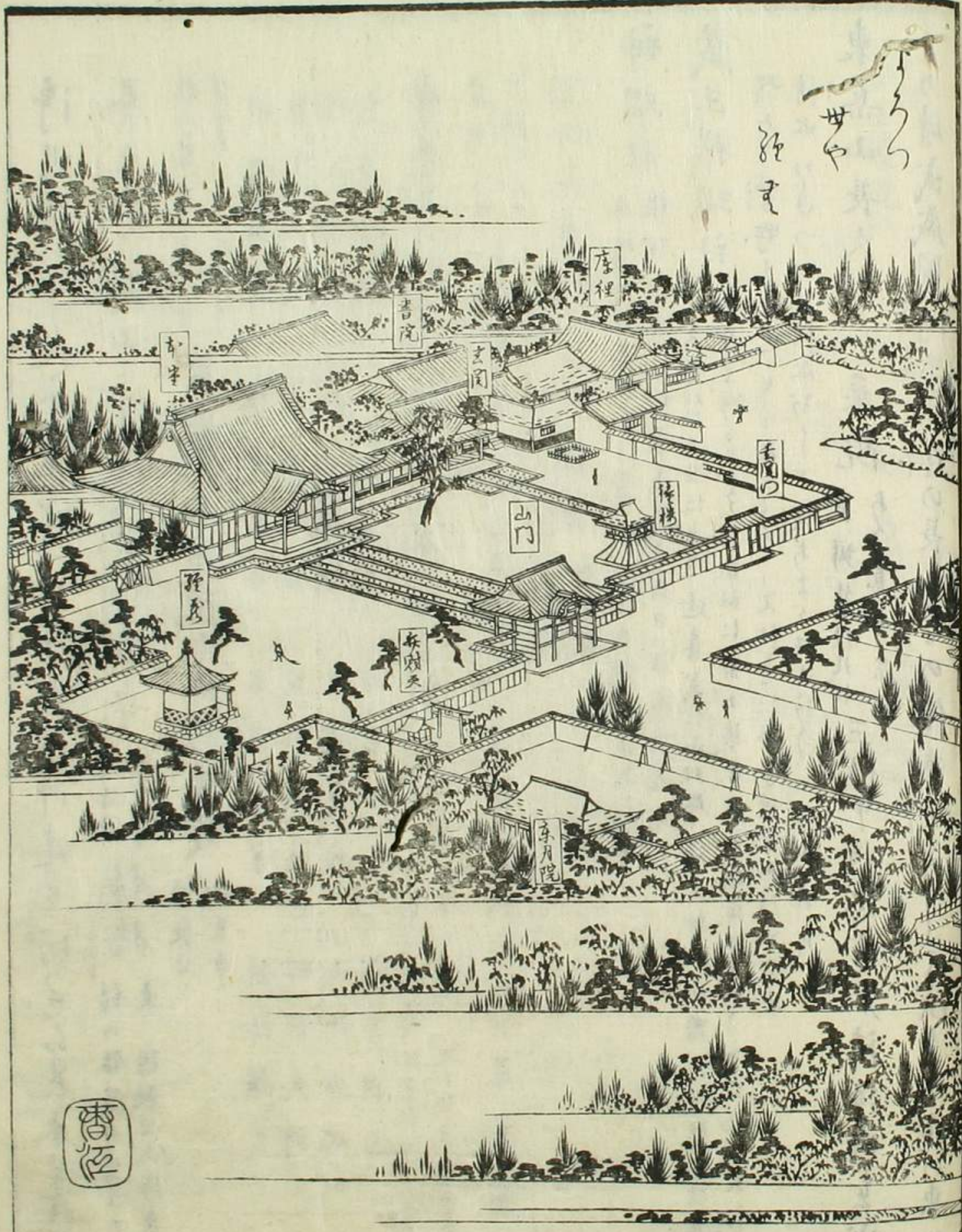
本尊丈六掛華の釈迦牟尼佛文殊普賢両菩薩両袖の高堂に五百阿羅漢

寶龜山相應寺

長堀筋の東北にあり 浄土宗末永長院末

源教公の浄母と相應院殿の





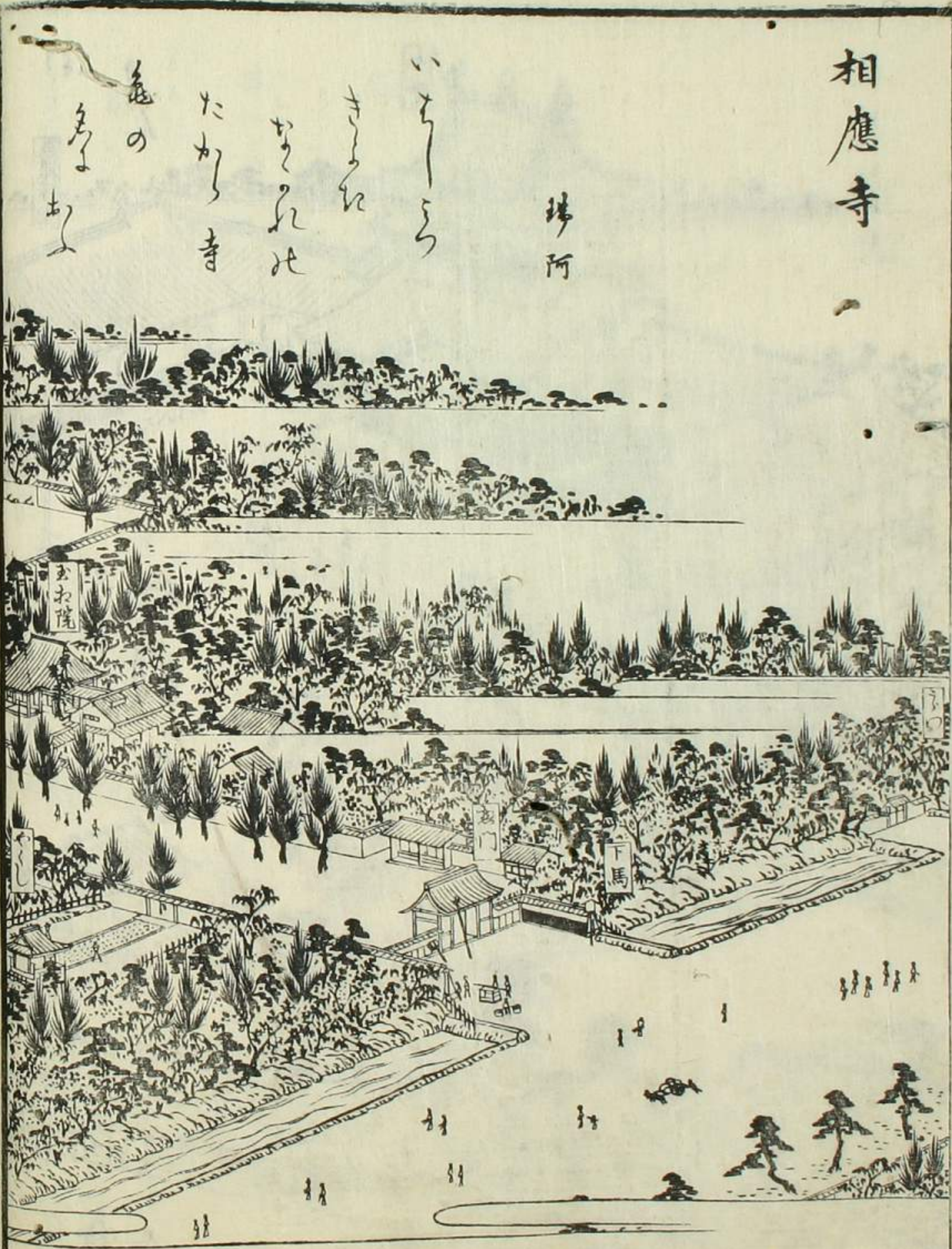
香印

山門
 本堂
 庫裏

相應寺

場所

山門
 本堂
 庫裏
 経堂
 法堂
 三昧堂
 三昧堂
 三昧堂



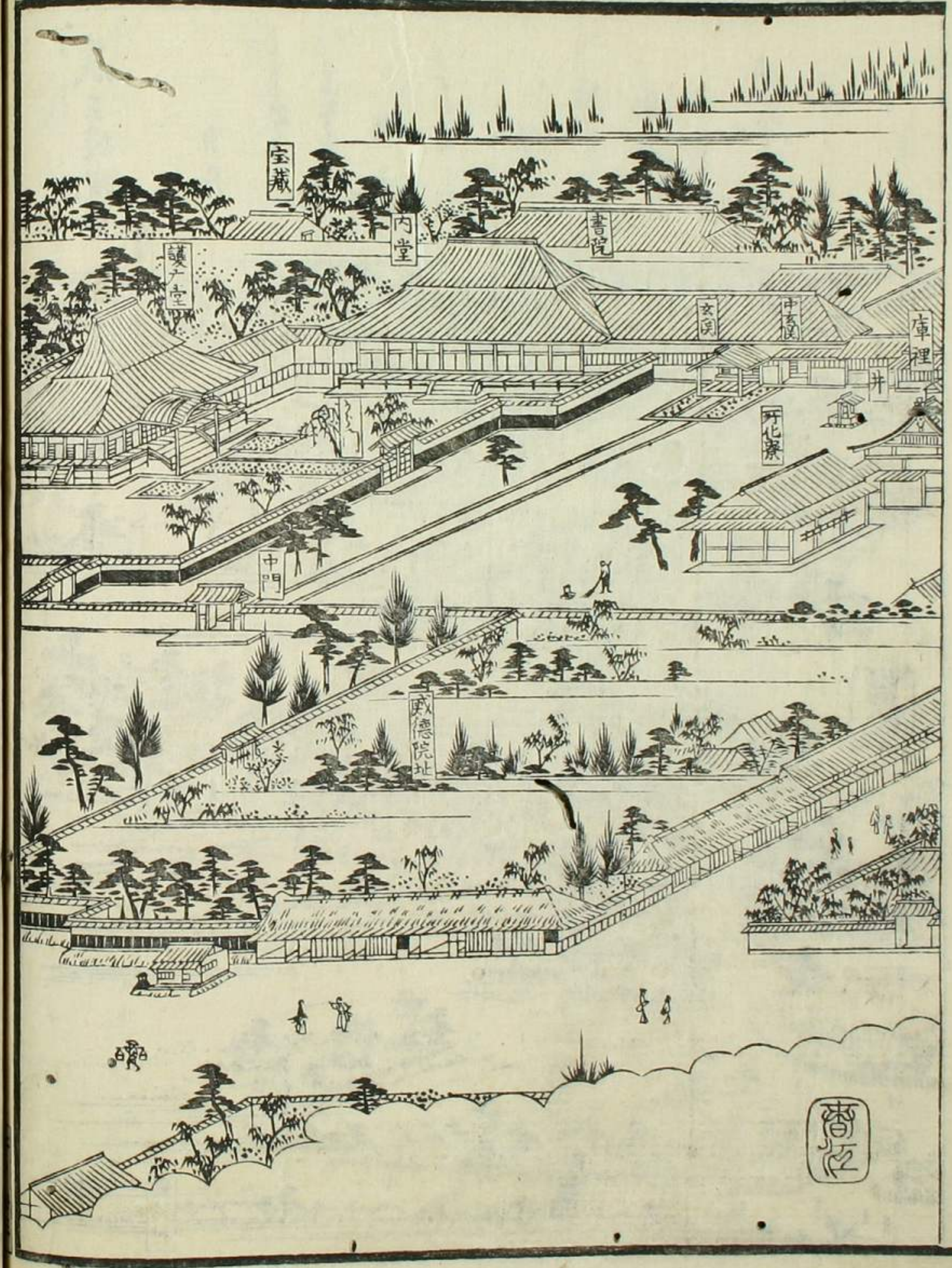
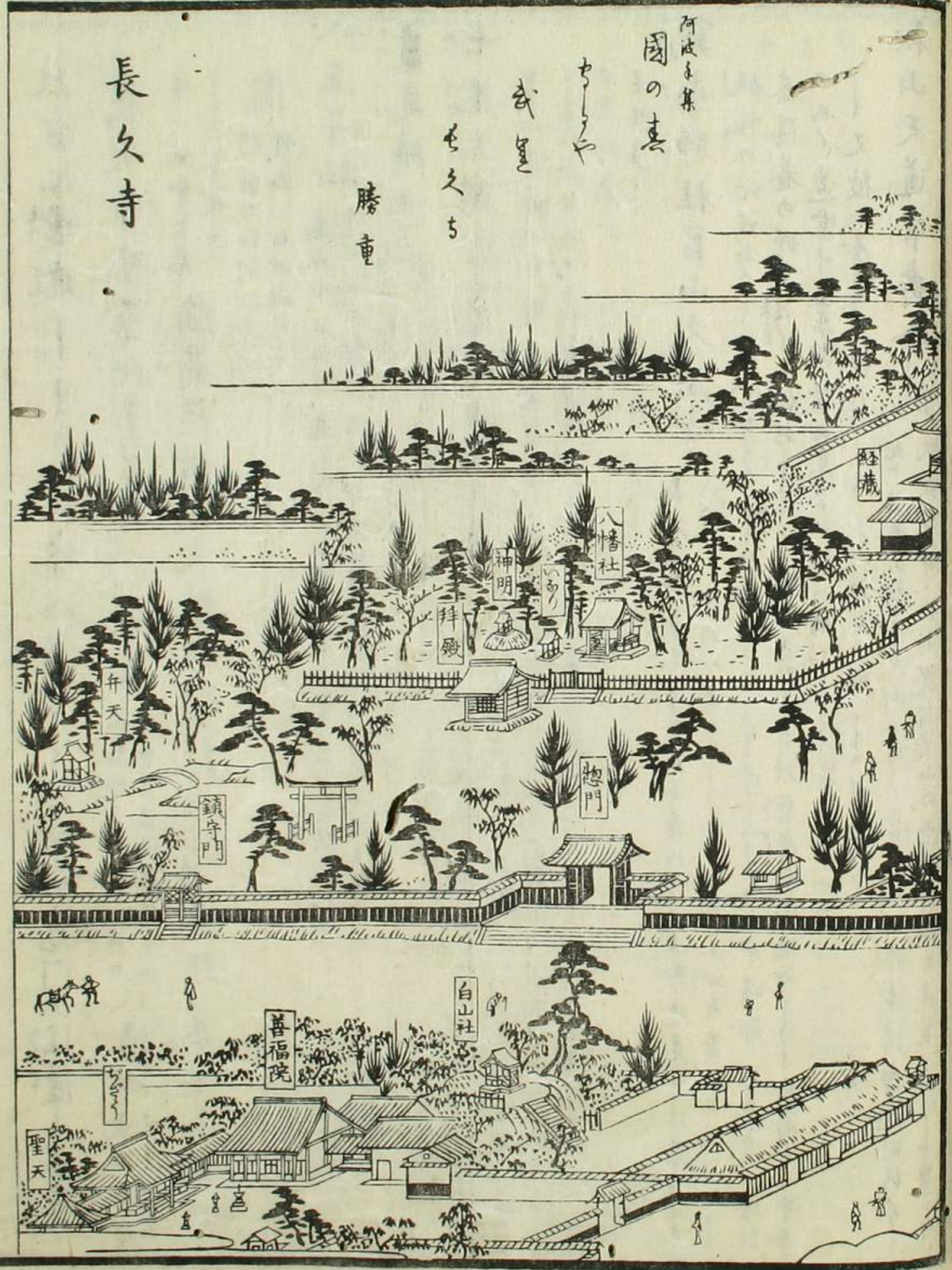
長久寺

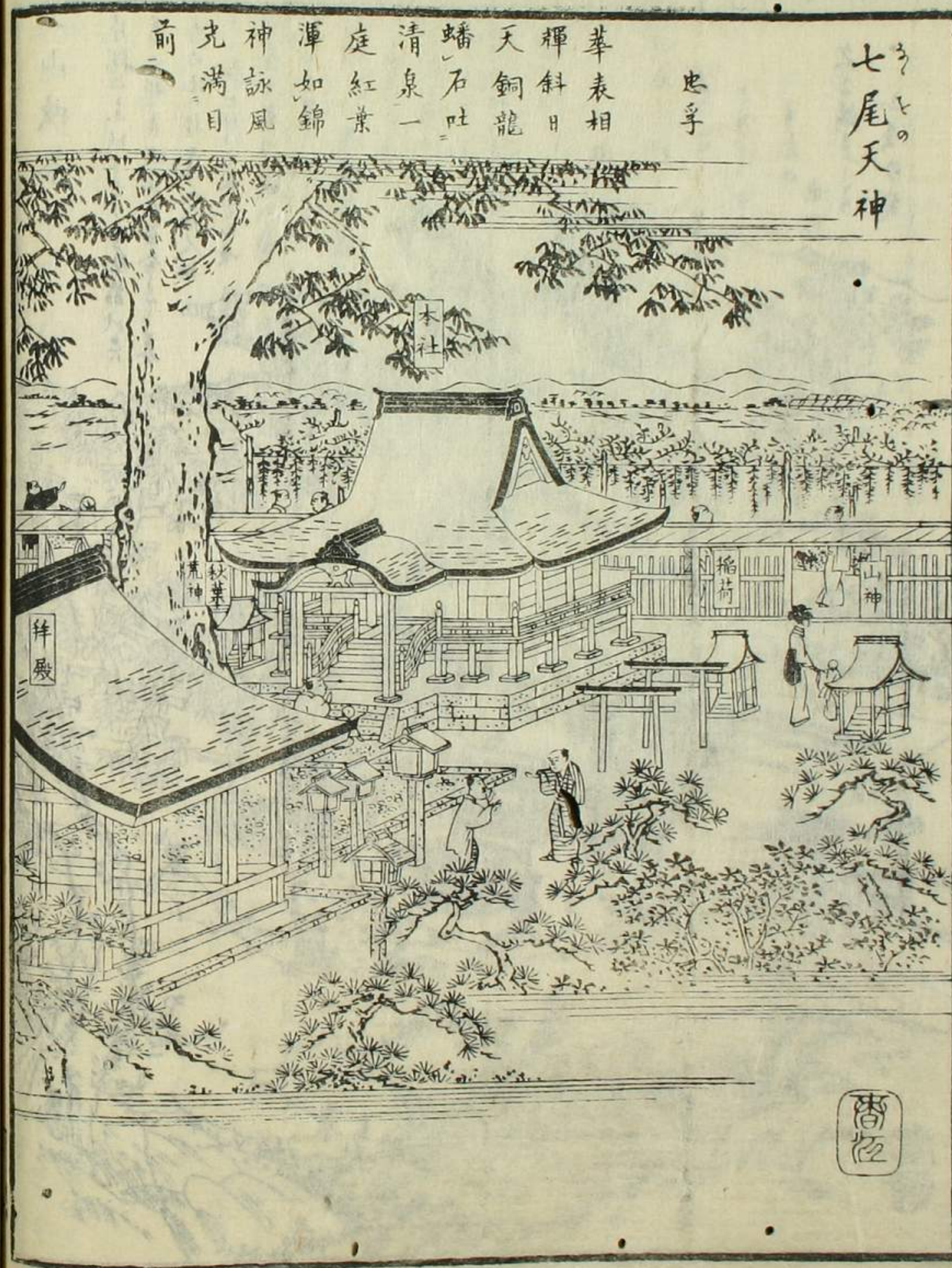
河波集
國の真

ちしや
武

もえち

勝重





文龜年中山山林に貴き
 隱逸の傍小菴を構ひ一面
 觀るに法を修りしり
 或時山林を巡りし尾
 七七有る灵龜管神の本
 像と甲小負て樹下に來
 るとを彼傍感得し存
 小菴と龜尾山永正寺と号
 一字と創建す本社
 とも當みは灵像と安
 す故小七尾天神とを稱
 せしと古老の口碑も傳
 らし傳と因せり

七尾天神

出現の圖



衰廢に及びしと元和年中に嘉余院美濃の久利より來りて興す
 本社天道宮左右ハ八幡と辨財天ありとの外境内に社多し

富永山養念寺

飯田町南例にあり東
 本願寺直末の院家

慶長二年僧賢誓れ建立賢誓

伊勢國負弁郡長深の城主富永筑後守五代の孫富永六丸の

の婿男久太郎より故に富永山と稱す

筑後守より道統の本尊
 阿彌佛

寺寶親鸞聖人影像

蓮如上人の真筆なりて裏書に舟子空善とありしり
 蓮如上人一代記聞書山科連署記にも見ゆ又圓

先大師親鸞聖人蓮如上人實如上人亦真筆也軸物數多し又教如上人より傳つる
 所此水晶珠數其外教品ありしり亦書ありしり一派の内當寺に
 限りし又國君御直末の書画及び葵御紋附の什器を多し
 泉も亦自ら愛賞す此池往古ハ大池なりて今北平若菜貞祖院ハ此庭中にある鳥
 の清水も同水脈ありしり性來隔るる人々も亦うき池面に紅蓮をうき
 て六七月の間ハ毎朝花咲む清淨の奇記なりしり林泉の石に法華飯細明神の祠
 あり○當寺前任威廣院聖曜ハ博學碩徳なりて本山の學寮擬講師なりしり遷化の後
 諸國の子が師恩と追慕しあり境内に石碑と建つ文清岡長材卿書ハ五辻豐仲卿より

- 池 以鳥為号宣謂水色玄而六七月際清連出紅蓮
- 涼晨花名我來棹瓜皮船
- 養念寺後園鳥池觀蓮賦古調一章精一

高濱山平田院

飯田町北東にあり淨土宗建中寺末より平岩氏の菩提寺なりて卷

廿一が慶長十三年親吉ハ山の城をうきしり此寺も亦南府にありしり片端の飯治屋町也に
 ありしが同六年再び今の所へうつりて親吉法名平田院殿越翁休岳大居士及び殉死本

養念寺

松山天道官

遊養念寺

挺之

數里城東路不
迷水如人字映
林樓高樓把酒
神仙侶丈室煎
茶法喜妻細
向屏中看孔
雀靜臨池上
對鳥鷺欲將詩
句酌佳景坐到
闌干北斗低

天乃宮



香印

同前

雲華道人

看蓮古寺正清晨
池上青苔綠作茵
大葉藏花不見
水中紅影浴佳人

鳥池

曙才

夜遊池邊景

夕夕夕

或元

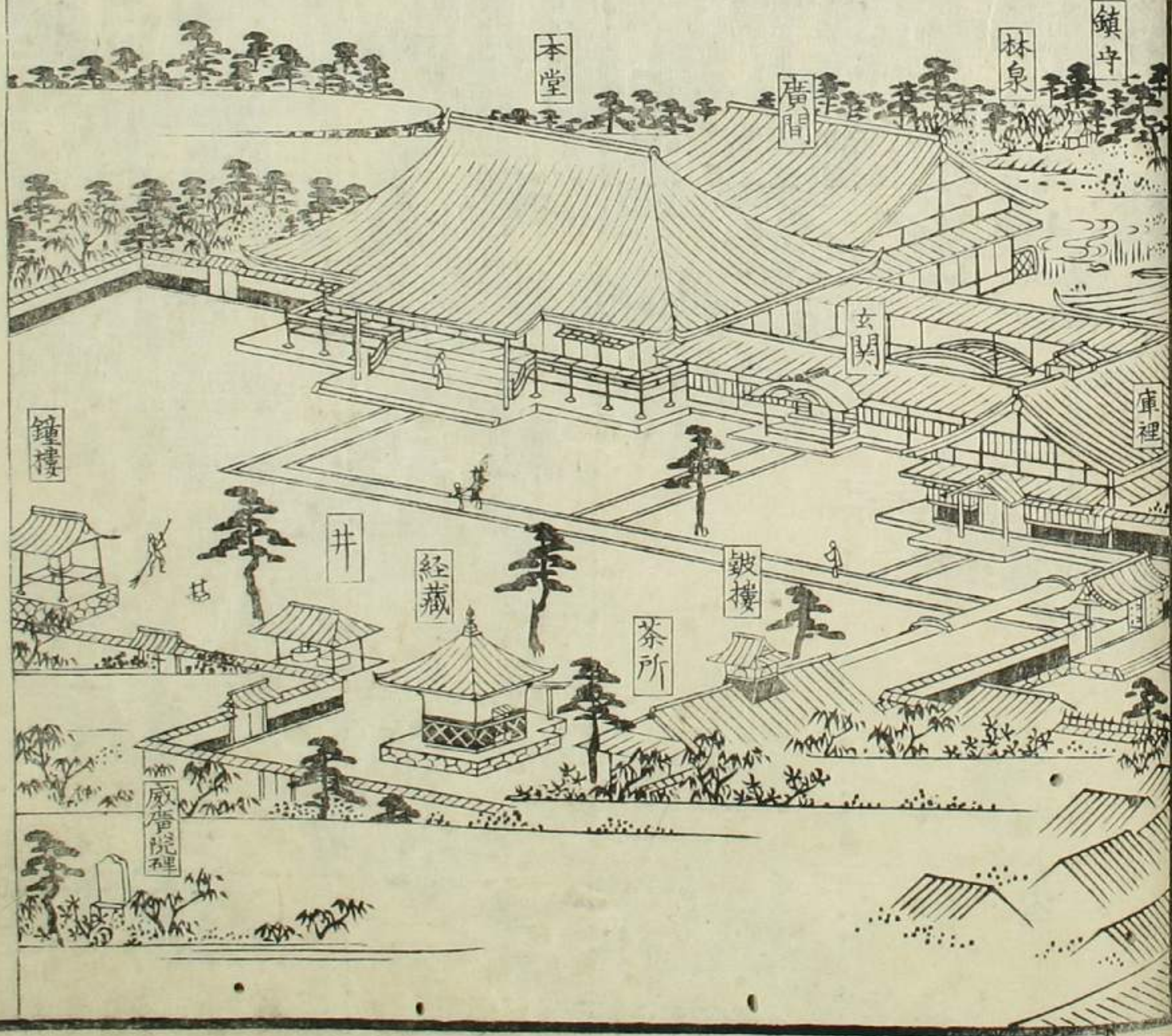
紀元池の

夕夕夕夕夕

夕夕夕夕夕

自多

居る水の月



鎮守

林泉

廣間

本堂

庫裡

玄關

鐘樓

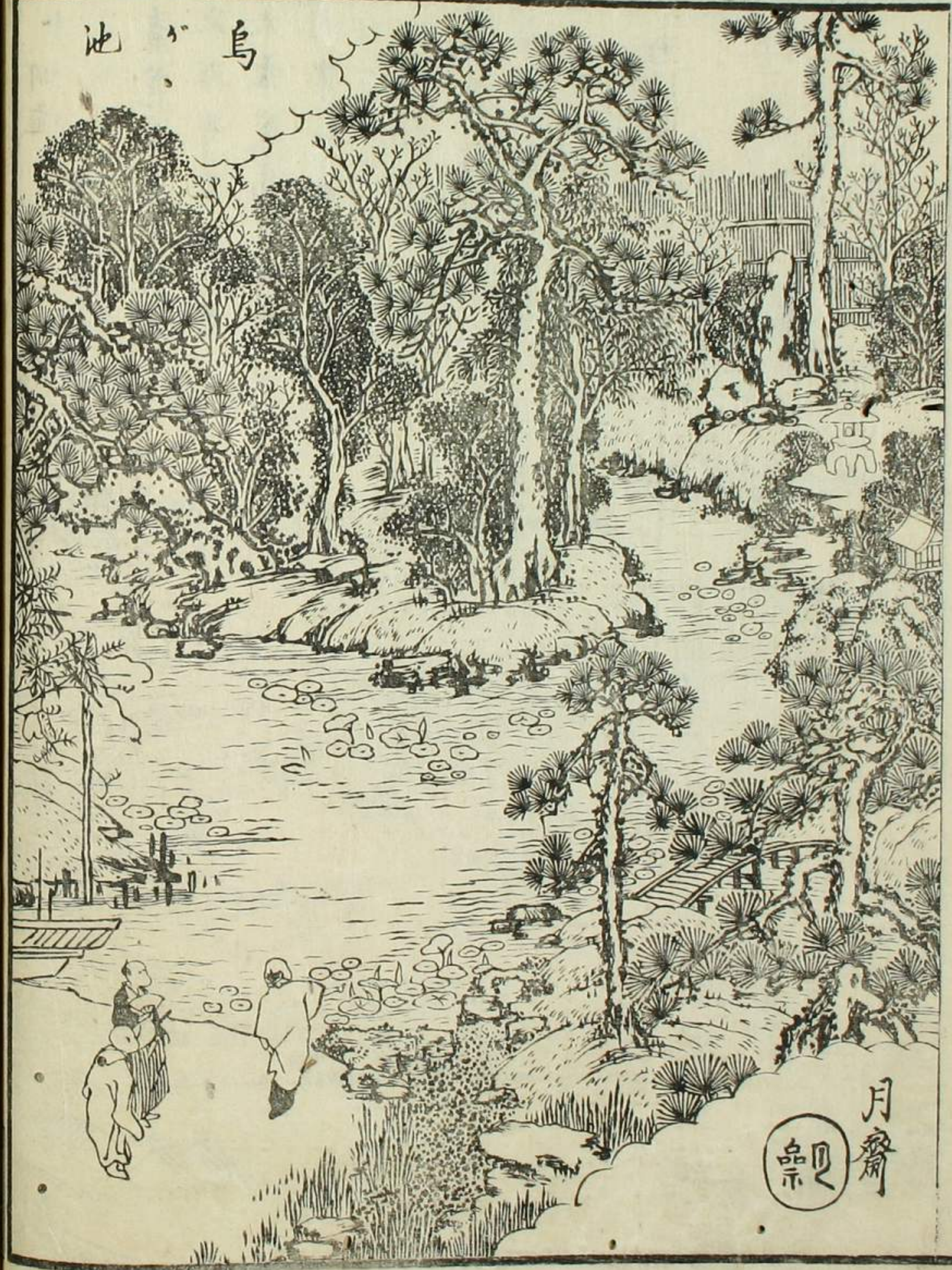
茶所

經藏

井

鐘樓

鳥の池



月齋
宗

多勅介親信の石塔有り、親吉東帯此
画像もあつて例年正月晦日に法會有り
本尊 阿彌陀佛
あ心の作

徳興山建中寺

京町通の東に在り、浄土宗無本寺
國君御代、此御菩提所也

慶安四年、瑞龍院殿

御父 源敬公、此浄菩提寺にて、浄建立あり、せらる下総國結城

の弘經寺、此廓吞和尚と招請して、開山あり、後同五年二月、經

管成就の後、廓吞上京し、六月廿二日、泰内にて住僧代、賜紫、

勅許の 綸旨と拜受し、つらまう境内廣大なり、國君御代、

及び 御簾中方御連枝方、此御廟御靈屋とあり、堂宇甚多く

善美と盡さば、後い又御寄附の宝物すまう、或は、此寺も忌諱を

犯し奉らんことを畏て、ことと畧す。○本尊 阿彌陀佛、鳥佛師の作、廓

聖徳太子曰、經藏にかゝる轉法輪藏の額、智恩院尊超法、鐘樓の洪

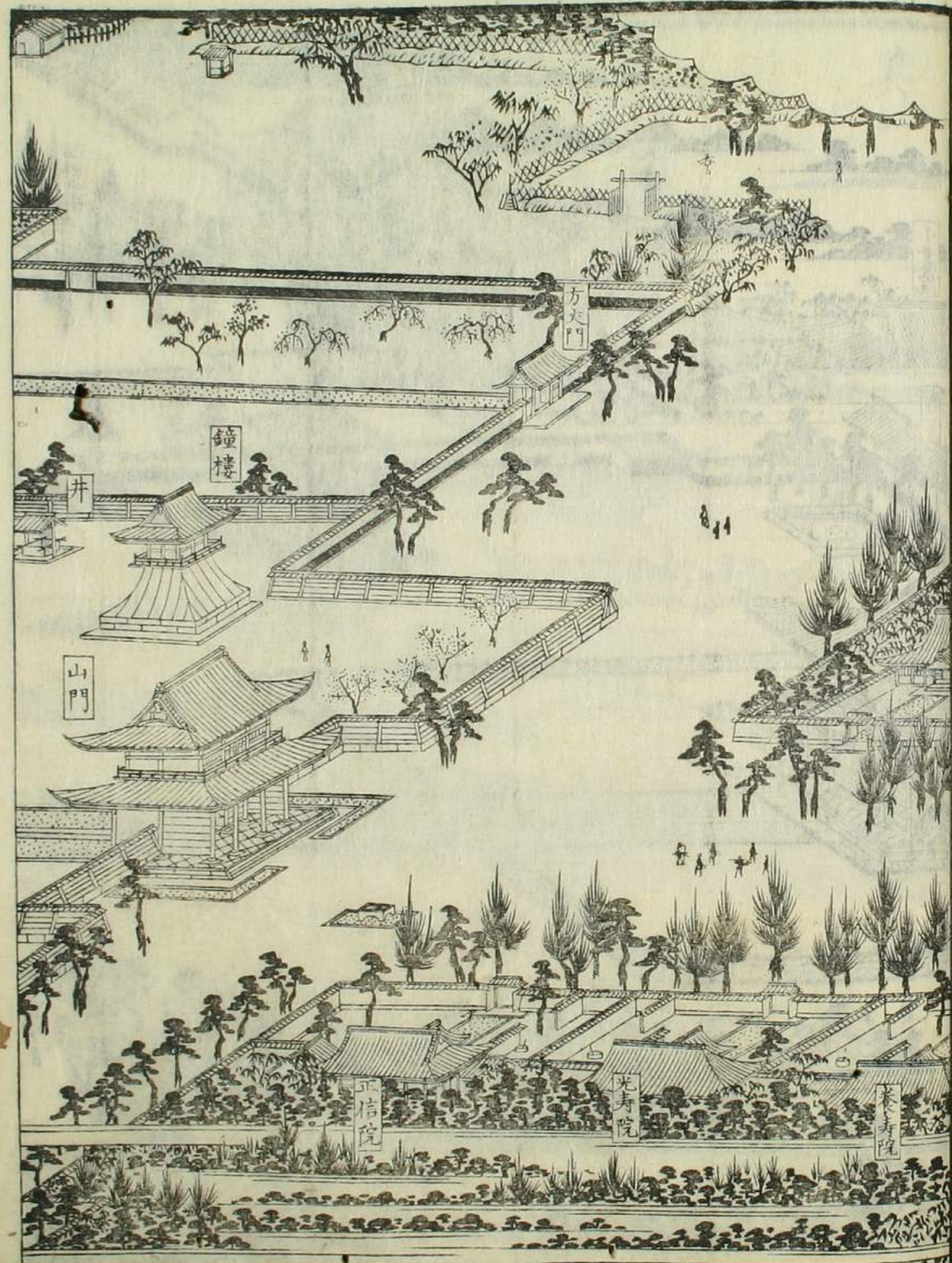
鐘、慶安四年五月七日、林道春の銘あり、羅山文集にのせり、惜哉、天明五年

正月廿三日に焼失あり、今、此鐘の跡、細井徳氏の作あり、文に畧す、塔頭七

宇、惣門と横門のあり、正信院、竹腰山城守、宗心院、成瀬隼人正、全順院

寺尾土佐守、甲龍院、志水甲斐守、養壽院、阿部河内守、光壽院、關宮大

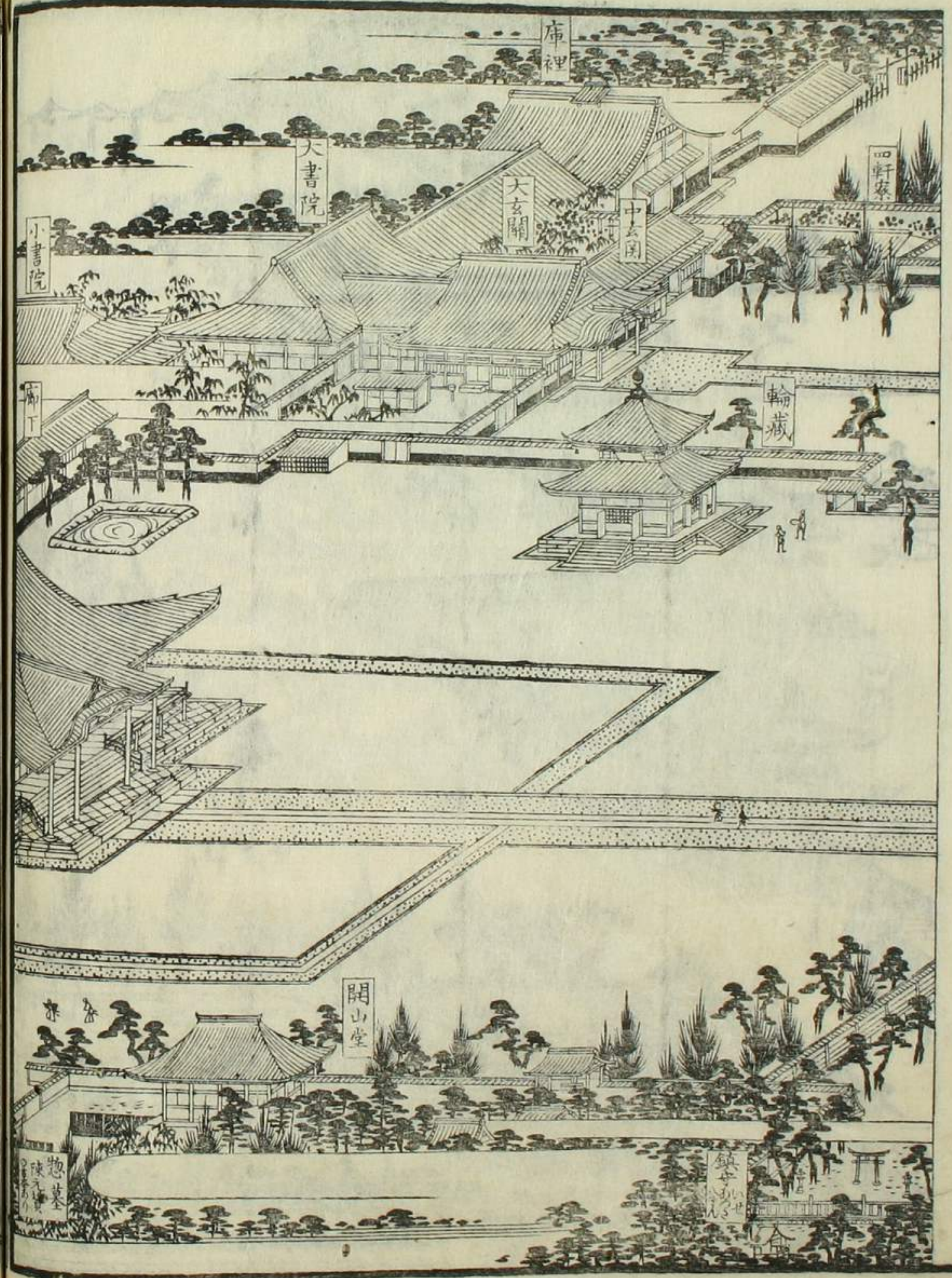
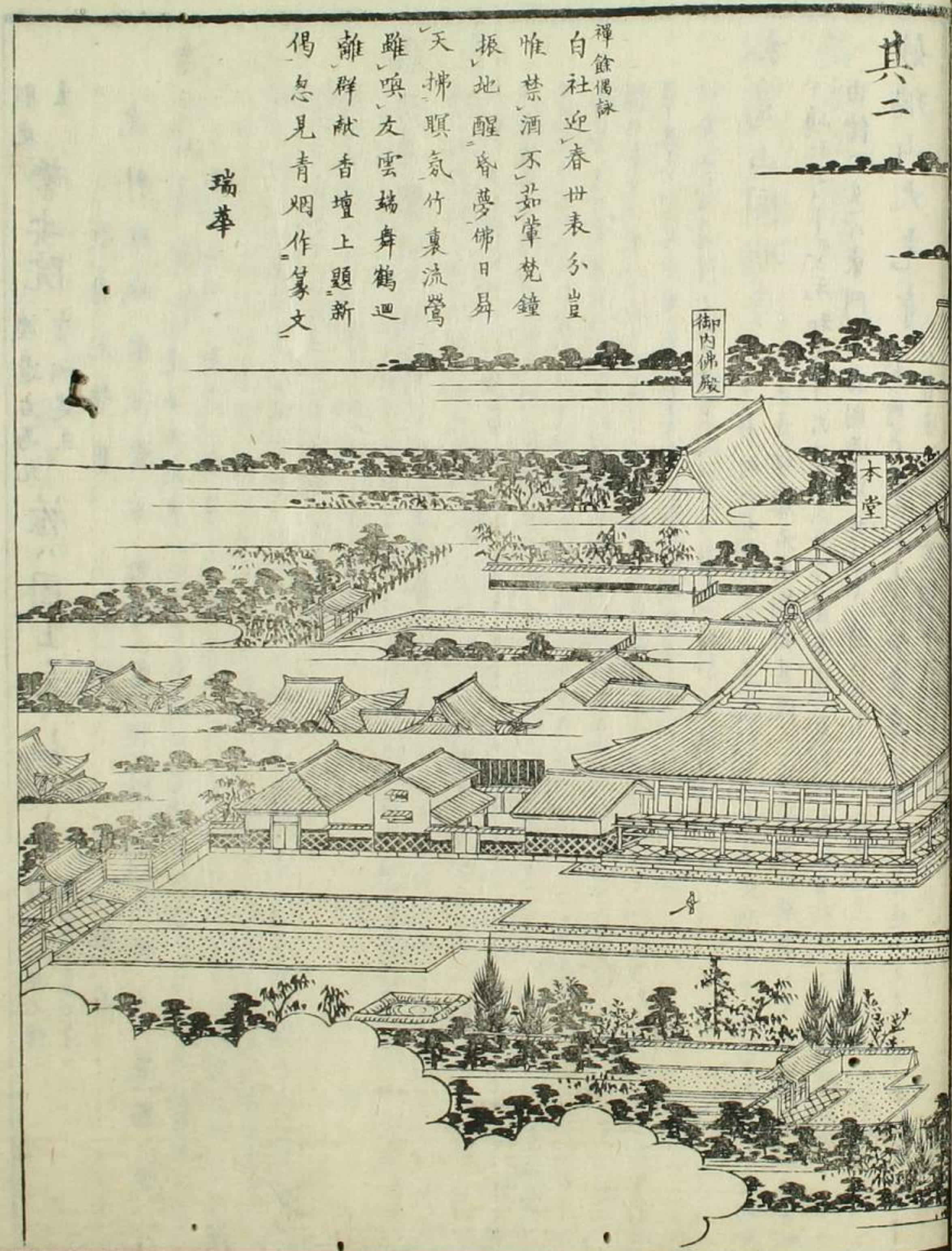
直龍建立、忠政建立、正典建立、隅守正

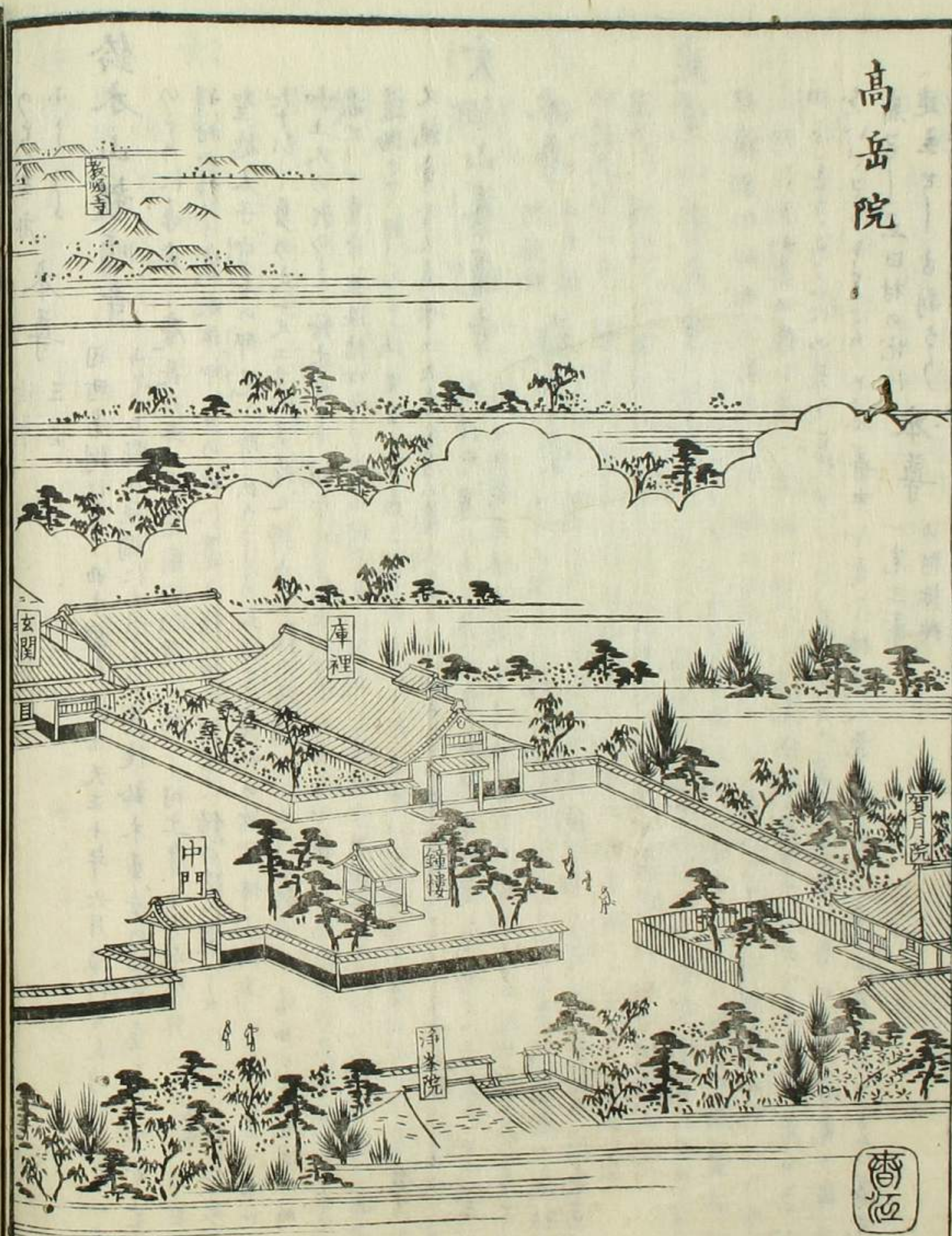
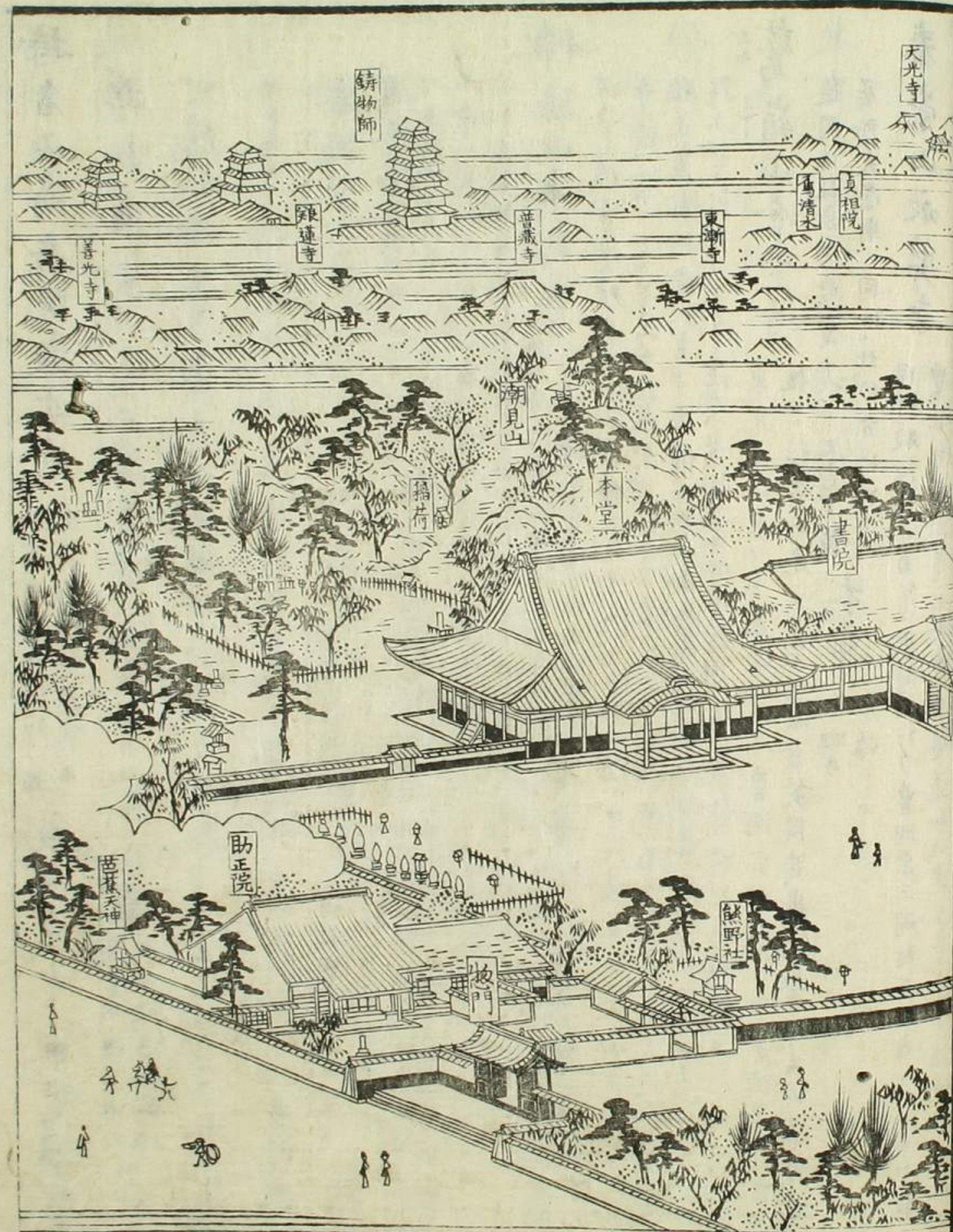


禪餘偶詠
 白社迎春世表分豈
 惟禁酒不茹葷梵鐘
 振地醒昏夢佛日昇
 天拂暝氛竹裏流鶯
 雖喚友雲端舞鶴迴
 離群獻香壇上題新
 偈息見青烟作篆文

瑞華

其二





高岳院

持名山高岳院教安寺

銅屋町の南にあり浄土宗系妙智恵院末

教安寺より甲斐國巨摩

郡新府にあり慶長五年三月七日仙千代君

神君の御子神母ハ相應院殿

世に御法号高岳院殿華窓林陽大童子より奉るとい寺に華

めもり同十三年平岩主計頭親吉清須小と相應院殿乃

本願寺にてにあり○本尊 阿彌陀 書院 相應院殿の寢殿と

國祖君清須の城門とあり鎮守熊野社 三社推現の本 鐘樓 塔頭 淨峯院

二宇ハ元和三年 相應院殿の父志水加賀守宗清法号淨峯院 賀月院

及び其母賀月院の爲に建立助正院ハ其母十八年の造立あり

佛法山東克寺 禪寺町法に所北の西側 本尊 阿彌陀 藥師堂 小牧山に

あり佛寺堂焼失りしは像の火災とあり敷の中は條葉の上に安座あり

寺僧にありてそみては條葉を名づく春向風來寺此本尊と因本にて丹羽郡

稻木庄杉御堂に在り古佛ハ今ハ瓜瓜葉所と稱し疝痛の症苦と故いせ

鷲嶺山含笑寺 東克寺北あり東側あり曹洞宗石松寺末享禄元年織田信

後園の村泉を愛賞す又あり隱 本尊 釈迦の 居所大榮軒ハ同町北の方にあり

泰崇山永安寺 同町駿河町のあり東側にあり曹洞宗三洲村正眼寺末木下肥後守

豐臣利直法号永安寺貞菴道松の建立あり海東郡木田村小

寺あり 本尊 聖觀音 の本像

本光山長榮寺 永安寺のあり西側にあり日蓮宗系妙滿寺宗寛文八年國

老成瀬隼人正正親の母宗壽院の菩提の爲に建立す所あり

佛力山本立寺 法華寺町の北の方東側にあり日蓮宗同町本正寺末文禄元年此

元禄九年十月六 本尊 法華 三寶

妙長山照遠寺 本立寺の南あり西側にあり日蓮宗系於本國寺末あり中

島の津村にありて尼妙長が開基あり時殊僧日蓮上

人の本像と携へ來り妙長に授けて去りぬ其像北目に文永十癸酉年の文字あり

至りしに上人の自ら彫刻の像なり本尊と知り享禄四年日珍影堂とて安

座せしに之に移轉しつゝ寺堂と稱してゆきは像ハ文永十年上人依

の國より彫刻あり日本三體の内此一軀也三輪に京都本國寺江戸谷中の感

應寺ハ照遠寺三ヶ寺に安座せり本 本尊 法華 三寶

啓運山法華寺 柳堂の南隣にあり同宗同末延徳年中織田華刀在處耐幸勝の建立

あり信日授と開山あり五世の信日陽ハ信長に崇敬せしは彼年招り

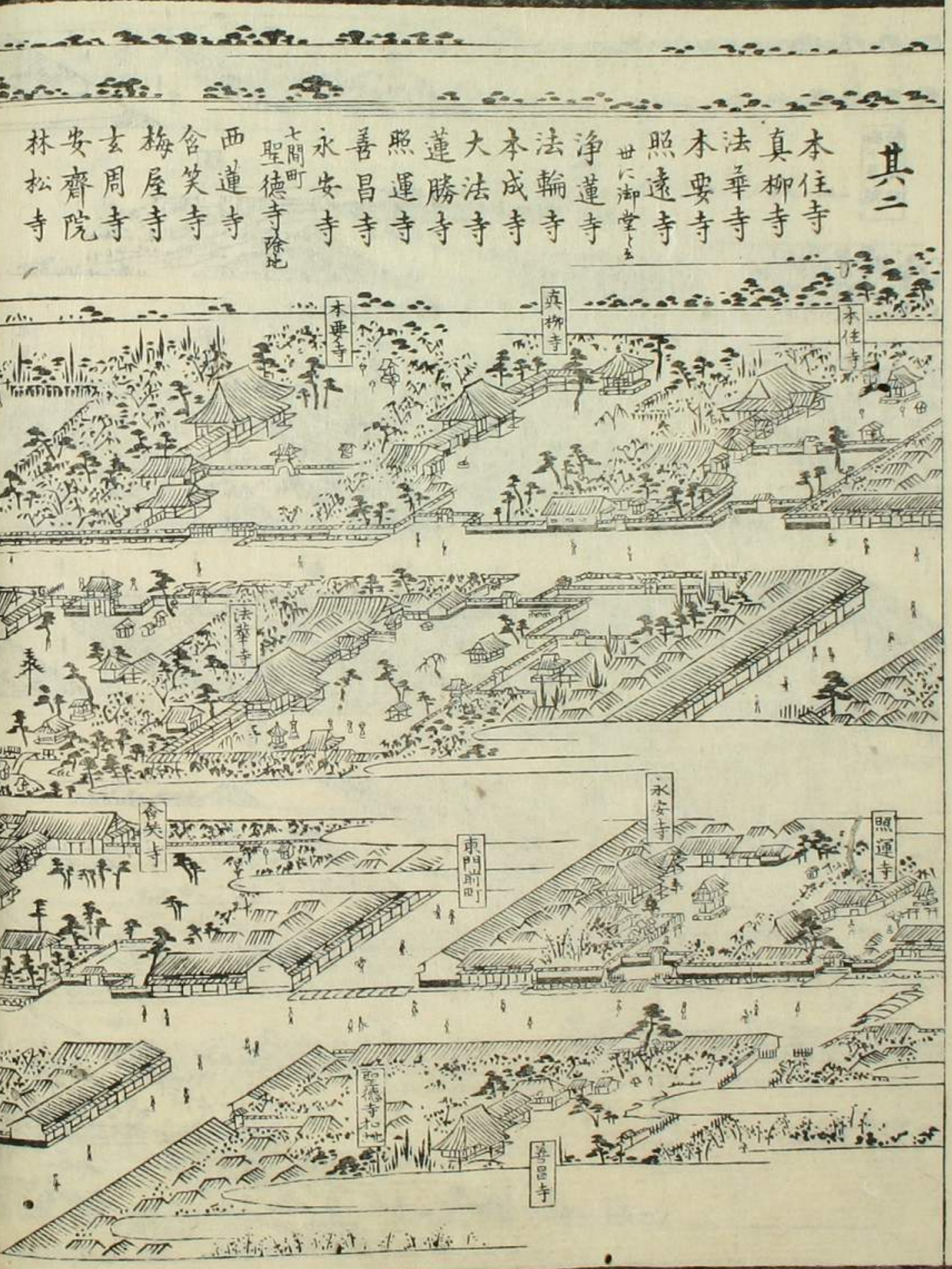
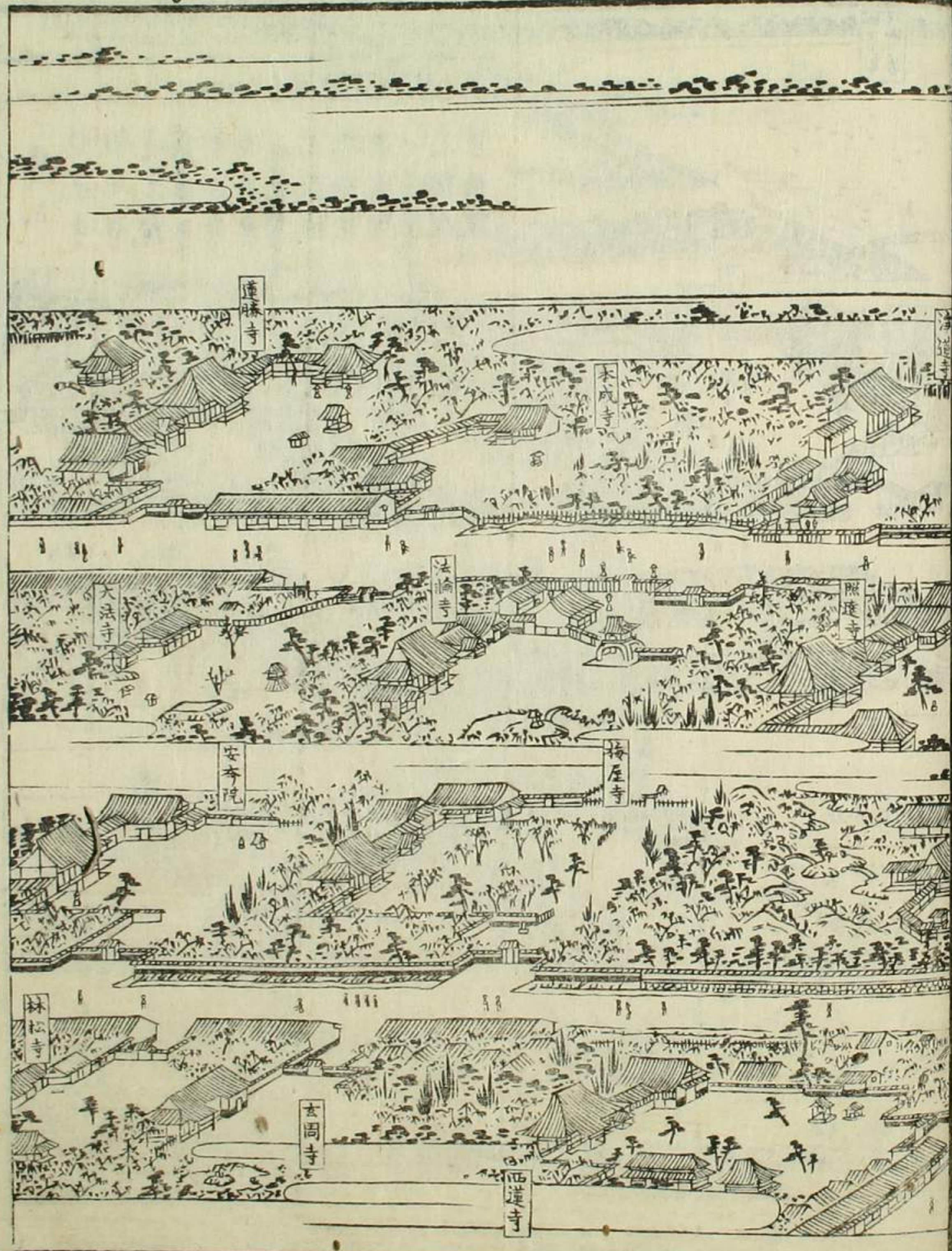
まじり彼地も法華寺と取立り公近江の女とありて後世に傳へり 本尊 法華 三寶

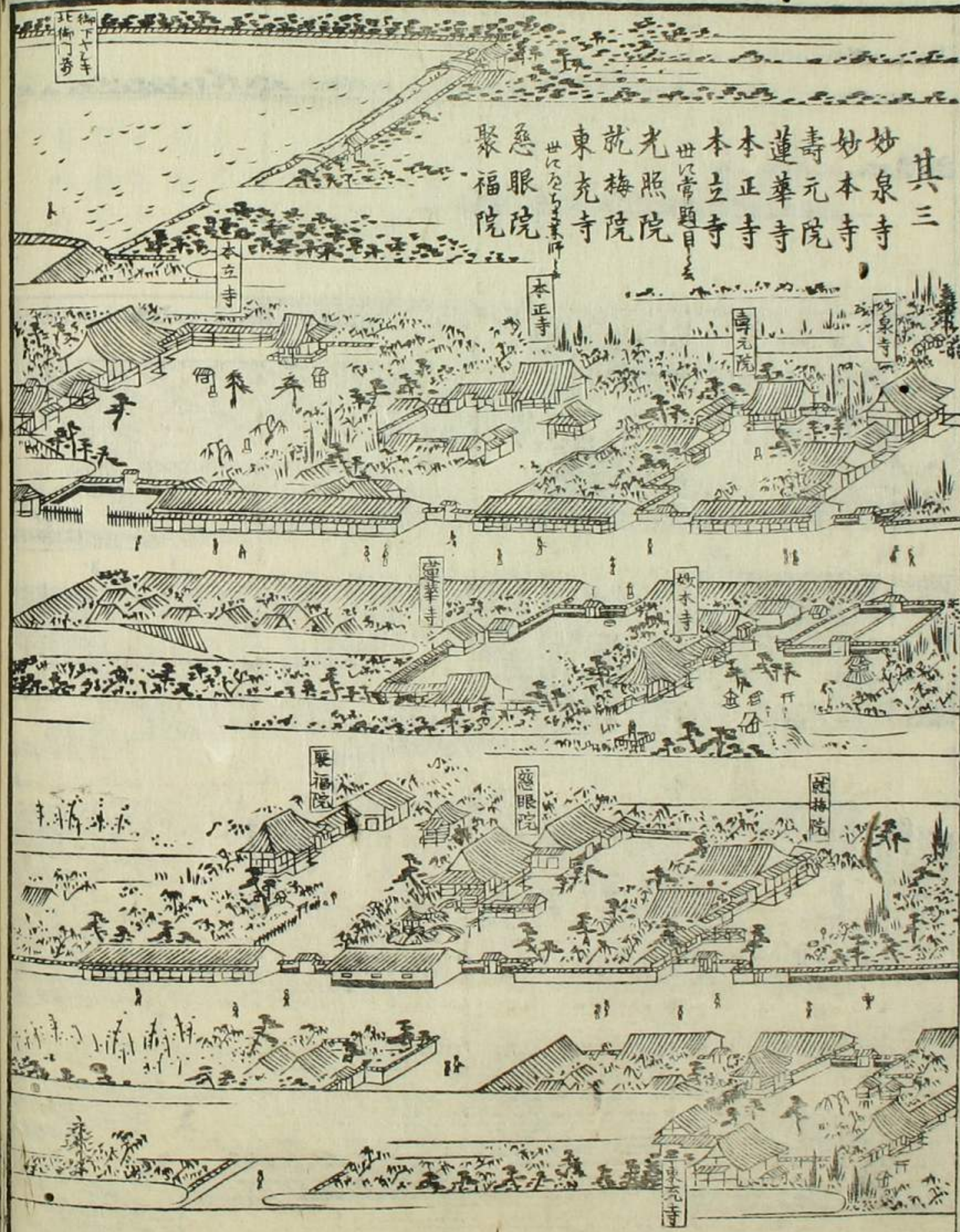
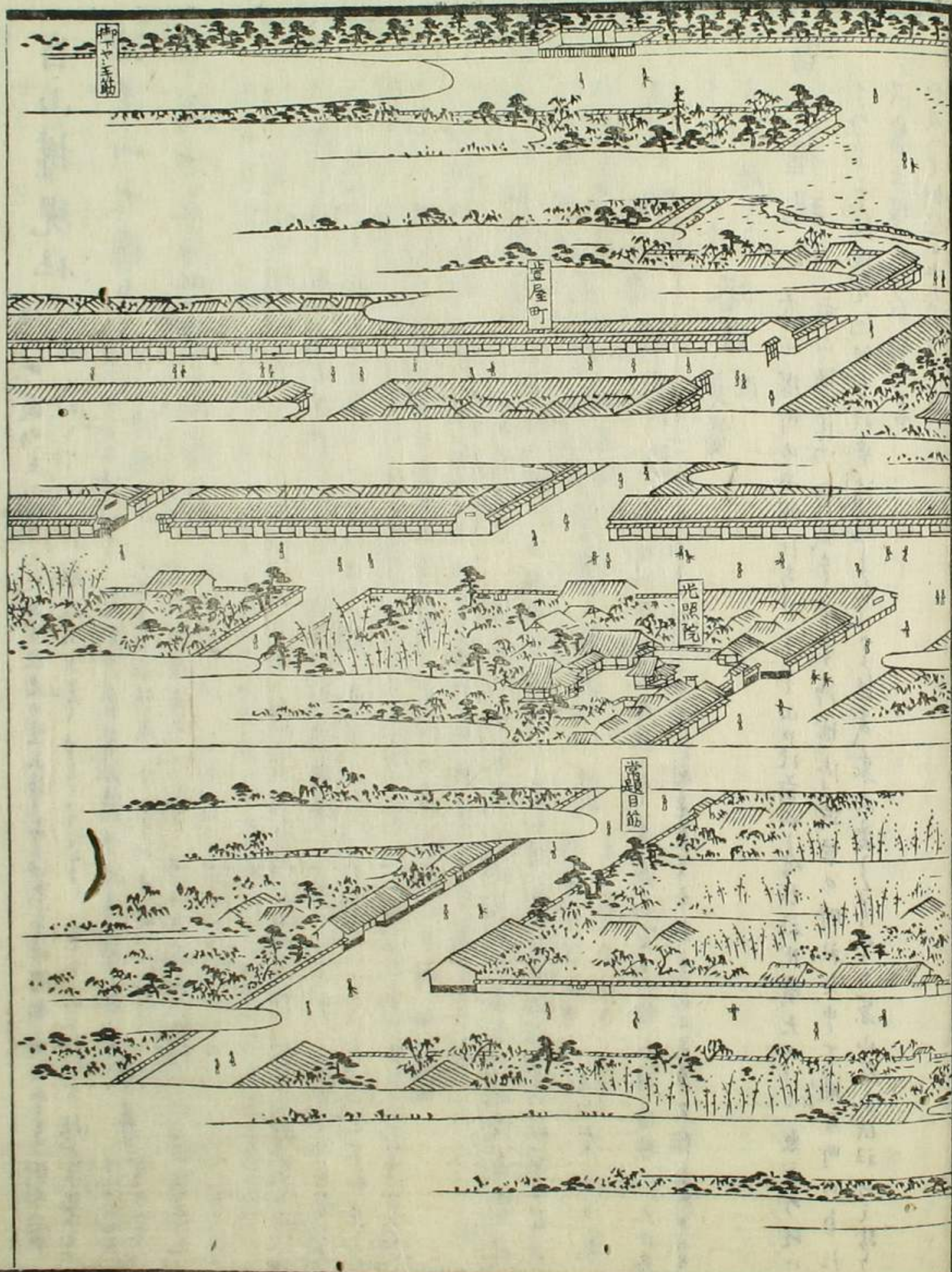
寶珠山常德寺 法華寺町駿河町通の南に西側にあり日蓮宗系於

妙満寺末文永六年の建立あり同十六年法改あり 本尊 法華 三寶

妙日山妙蓮寺 常德寺の南に東側にあり日蓮宗系於國小湊誕生寺末

文安三年の建立山号寺号ハ祖師日蓮上人の父母の法号にあり 本尊 法華 三寶





其三
 妙泉寺
 妙本寺
 壽元院
 蓮華寺
 本正寺
 本立寺
 世以常題目
 光照院
 就梅院
 東光寺
 世以常題目
 慈眼院
 聚福院

白山権現社

強行町通の東小山の上にあつたの生土神ありて本社神靈とせり例祭六月九日神ふあつて町に社神山上まですきりてはとあつては神集り

法榮山大圓寺

東田町北の例にあつて本寺は東派濃明の浄土寺未本尊 阿彌陀佛

片岡源五右衛門高房墓

東田町乾徳寺にあり 法名及勘要劔信士武家熊井氏今井氏より主赤穂の義臣四十七士の内の一人に身とせり

暹龍山西蓮寺

東門町の北側にあり 浄土宗智恩院末信長公の息女西蓮院貞盛淳松大姉の為小永禄年中開基す開山僧祖的武田信玄の族なり

尊一幅

定唐 信玄の旗 紺地四半幟小令泥して其疾如風其徐如林侵掠如火不動如山と云ふは半八幡と云ふは今教字のこころ又信玄此甲冑

富士権現社

富士塚町の西側にあり 山北前山に依り社地廣大なりて遠水の凡ハ前山に依り神職ありて清城清造管の時社と申下蛸屋町の南に

鷲王山瑠璃光寺

久屋町一丁目西側にあり 曹洞宗僧桂安の建立す清化に在りて元和年中中興にりて堂は本寺茶所は末の常安と云

玉林山誓願寺

同町袋町下西側にあり 浄土宗安田正亮寺未享禄年中の開基なり元禄二年十月十五日より興起す不斷念佛世に久屋誓願寺

公の旗

今の中絶す 本尊 阿彌陀の像 地蔵菩薩 弘法大師の地 寺寶平重盛

朝日山土方浄念寺

小橋町土方は西側にあり 清原の朝日村にあつて天台宗の古刹あり中興の祖慶惠ハ清和源氏経基王の孫大和守頼親の裔

蓮如上人

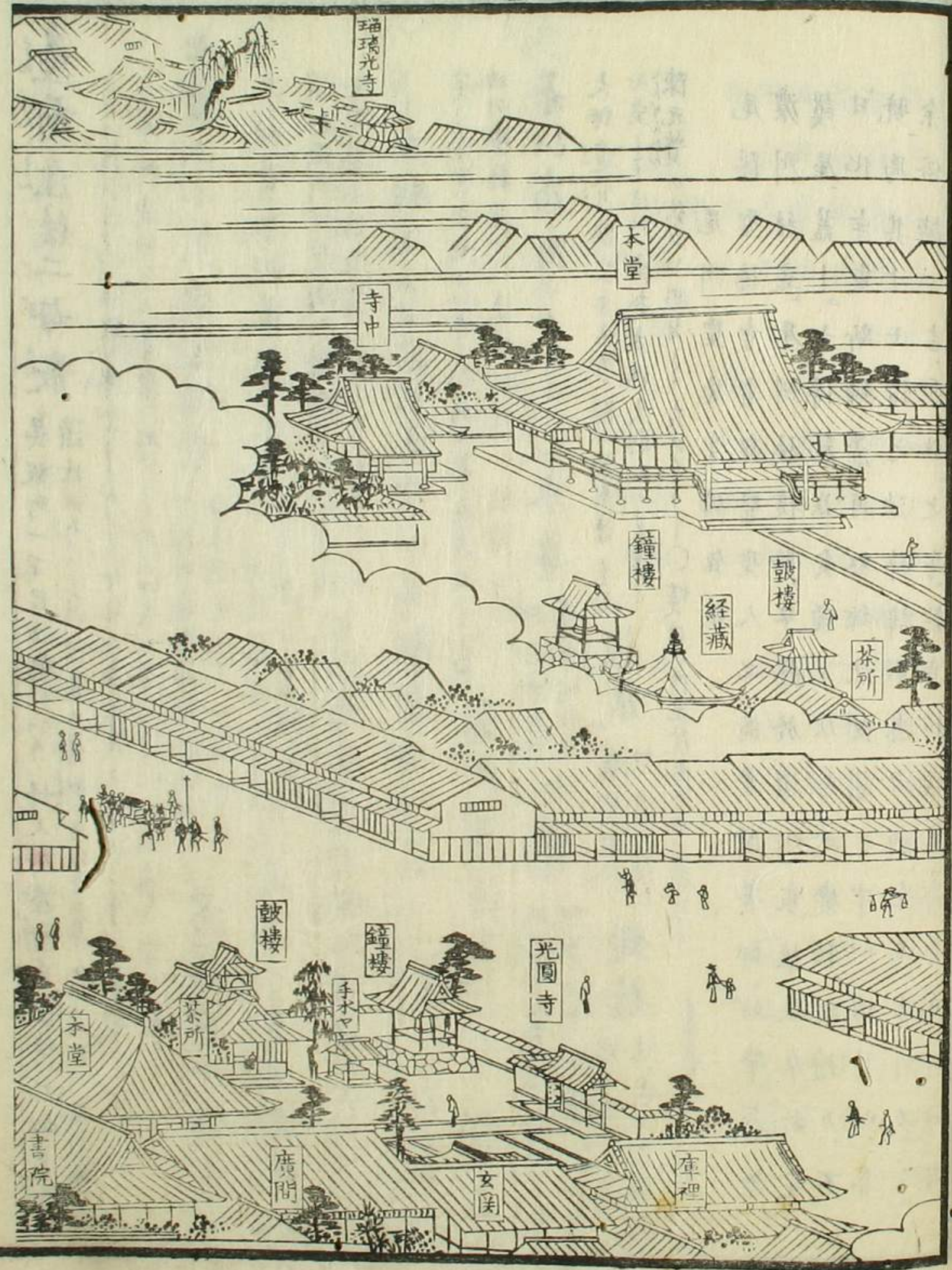
孫土方出羽守治氏の子左近丞時直といひり寛正年中出家す南まは

本尊

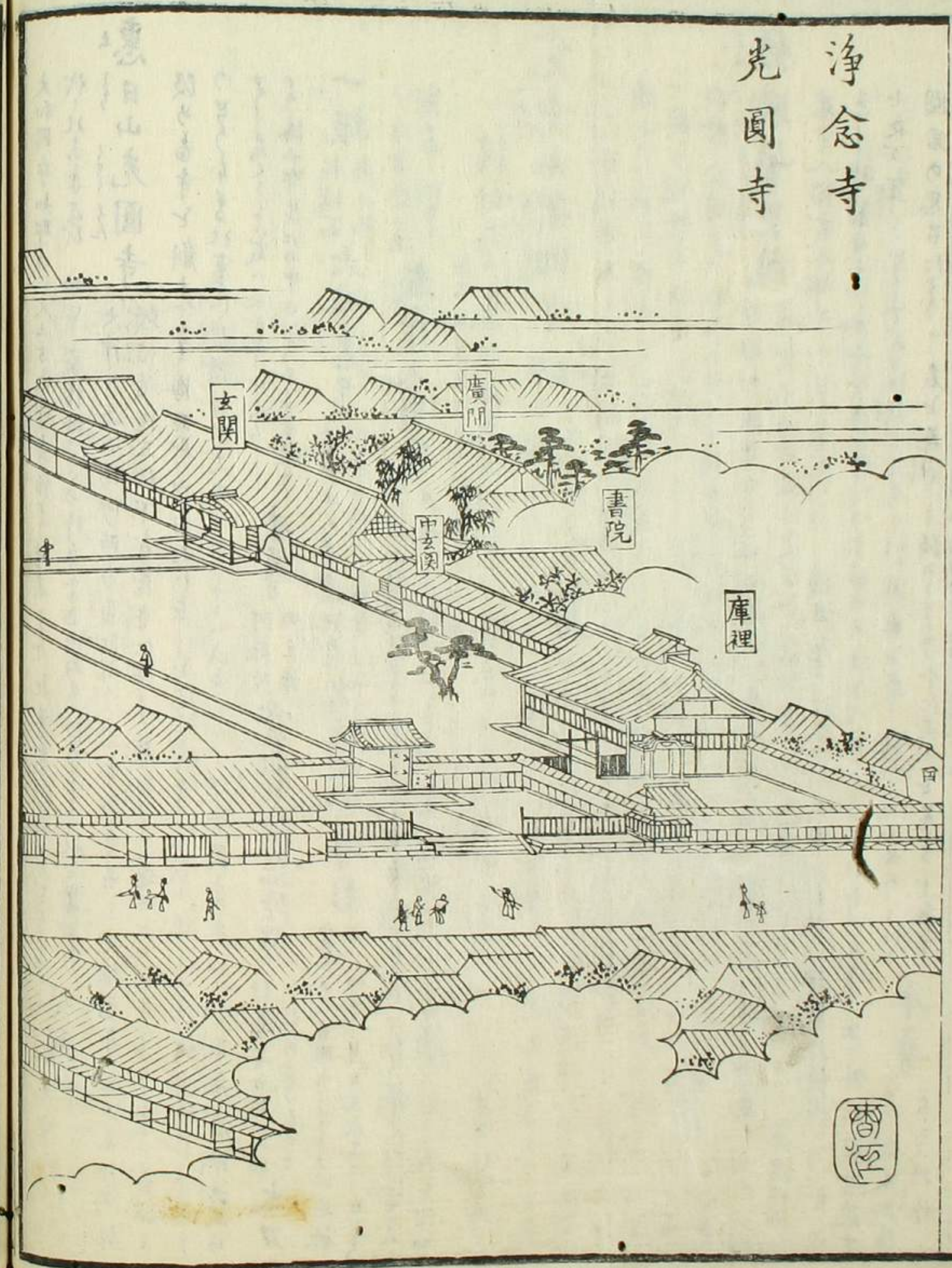
神君御守護の神像佛を現存す其の葵御依附の教品をて御守附ありて

告命聖徳太子黄金の尊像

神君より今に在るお札の後まは此尊あり



淨念寺
光圓寺



香印

産前産後二母散

吳服町一丁目西側に在り婦人科奈倉氏家傳此妙法あり清次にあり信長に因り太刀一振と稱する

七寶山小笠原聖徳寺

七間町通袋町下西側に在り東本願寺直末院家あり寛喜年中親鸞聖

人此寺と羽粟郡大浦

正十二年より美濃に在り天に建立一直中閑善

清和源氏甲斐國巨摩郡の住人小笠原

古刹ありと永正年中中島郡富田に在り

天文十八年信長云義道三ヶ富

○本尊 阿彌陀の木像

七寶 經藏 鐘樓

尾陽 聖徳寺 鐘銘叙

濃州 尾州 旋復 歸卓 錫於 濃州 取後 改卓 於會

護屋 蓋十七 傳於 茲矣 頃丁 灰却 之變 賴卓 檀力 不

曉馬 宇重 新鐘 簾再 整鏗 然闌 闌之中 四境 勢以 昏

余俗 諱一 言而 銘之法 孫諱 顯應 者與 余為 方外 友也

然方外良交不取以凡鄙辭謹布數言以答其意而

永揚善師之聲教云銘曰

聖德肇興善師開宗立法闡化權輿美濃

法無常住護屋是管運丁灰却再新琳宮

琳官司漏多乳鳴銅警醒旦暮震覺昏蒙

百千萬劫聖徳善功

寛文貳年壬寅季春上浣三日

大明虎林戴髮俗子陳元賢

練息撰 水野藤原政長

渡邊山守綱寺

任吉町南此に在り東本願寺直末の院家あり慶安二年國光渡邊飛騨守

守經菩提の所に在り其の始治經の建立少く僧者頗と開山と守

参河國加茂郡寺色ハ渡邊氏の領色あり守綱寺

○本尊 阿彌陀の主像

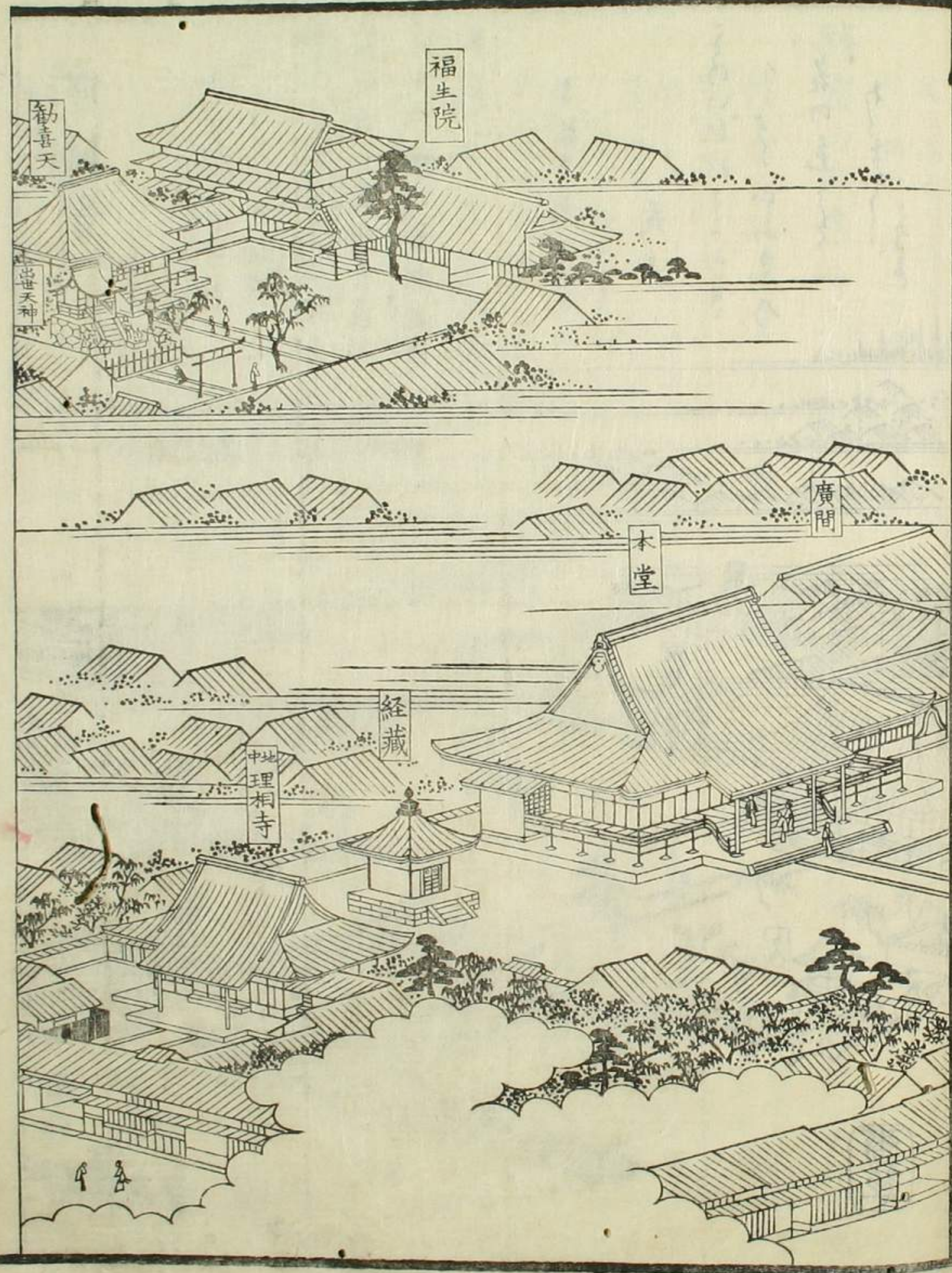
鐘樓 鼓樓

東海山白林寺

國祖源敬公寛永二年に神創

挽の為に

○本尊 釈迦の鐘樓



聖徳寺

火の見櫓

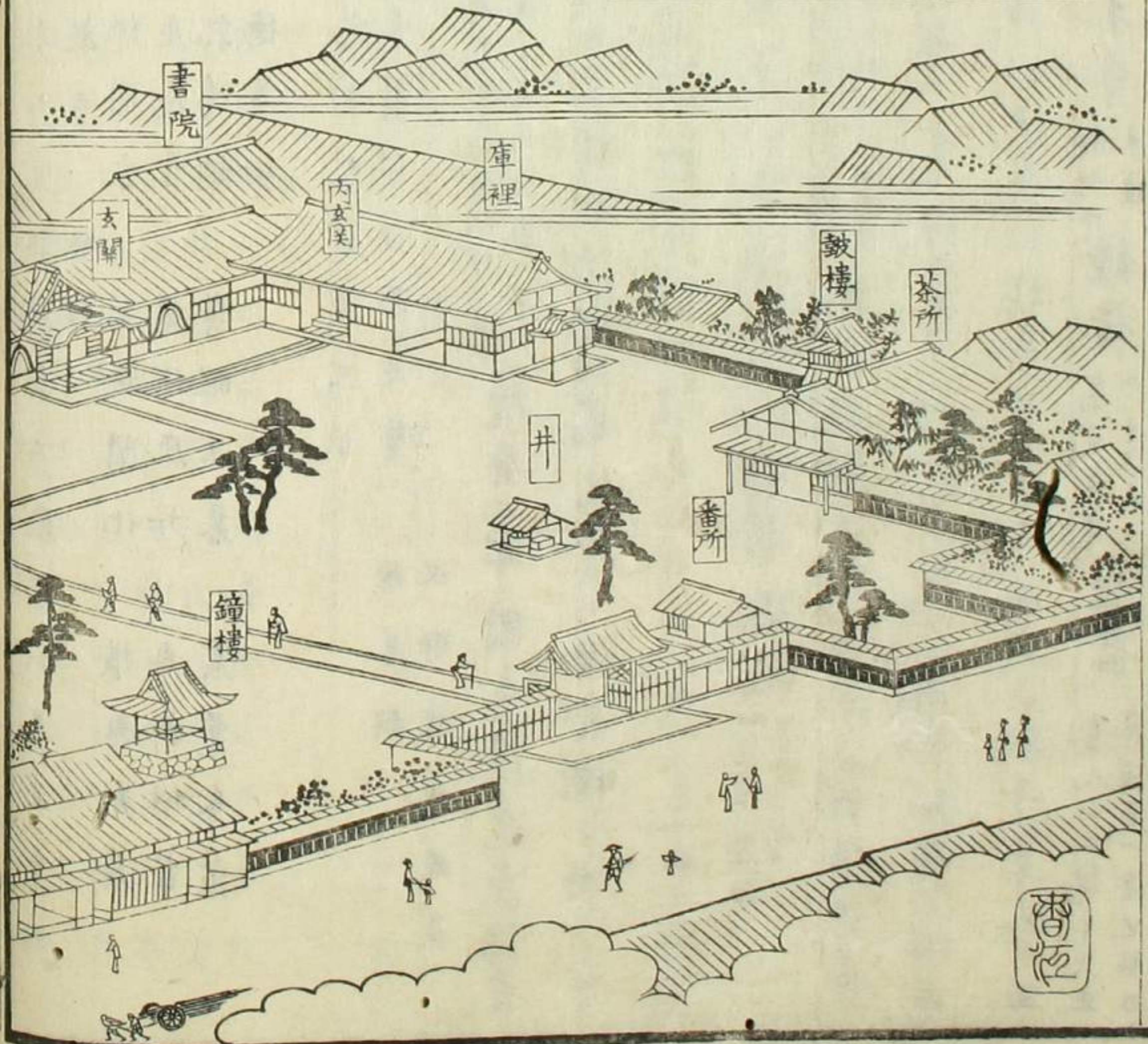
百非道人

珠網玲瓏七寶林半
空法鏡映東源最憐
暫尔曇華兩使客長
證不滌心

名古屋聖徳寺此
清室おとす

貞柳

きりあひしきまじり
こころはこれ髪
〜〜〜
流れ
少乾たのらん



守網寺

看守細寺棟棠花

乾堂

棟棠千畝著花濃葉上

黄葩萬玉叢繁葉遍開

前日兩嫩枝輕動晚天

風

ち源ちく山吹と

茂岳

このいひれさつふき

くよ山ふき乃

花の色こそ

あまき



為に梅花と造玉一清朝板の一切
経と納り一岳の肖像とも安をす

瑞雲山政秀寺

白林寺の南隣
りり同宗同末

塔頭 惠照軒

天文年中平手中務大輔政秀菩提の為

信長公此建立信彦を以て開山

と信秀雅は信長の及ハ衆之衆ハ蚕の爲にうららめしき人なりといふれども信彦を以て開山とす
衆の字と形ハ四十八の如く是佛徒佳兆とす我公此本名扶桑之傳に天下を得らるる
はひけがもさるる天下ハ掌握ありしは信秀の確向き堂よりハ四十八歳とす
命により稲葉山比城地井井を改め改年
又公に布武天下の印章と掛けしは信彦なり

鐘樓平手政秀墓

法名切菴宗
忠大居士

貞松院大夫人墓

織田左衛門尉信益の女
國祖君の侍継室なり

普峯院殿御墓

廣幡大納言忠
幸卿の御墓中

寂光山勝鬘寺

大津町の南にあり本教寺主末の院家三河國額田郡
針寄勝鬘寺の無常所なり天正年中の創建なり

本尊 阿彌陀
の主像

徳壽山清浄寺無量院

前津小林の支場町にあり
浄土宗末教無量院末

元禄十二年六月此寺を海

東郡津島より郭龍和尚に賜

○本尊

阿彌陀佛定朝
作照士親を賜む

地蔵堂

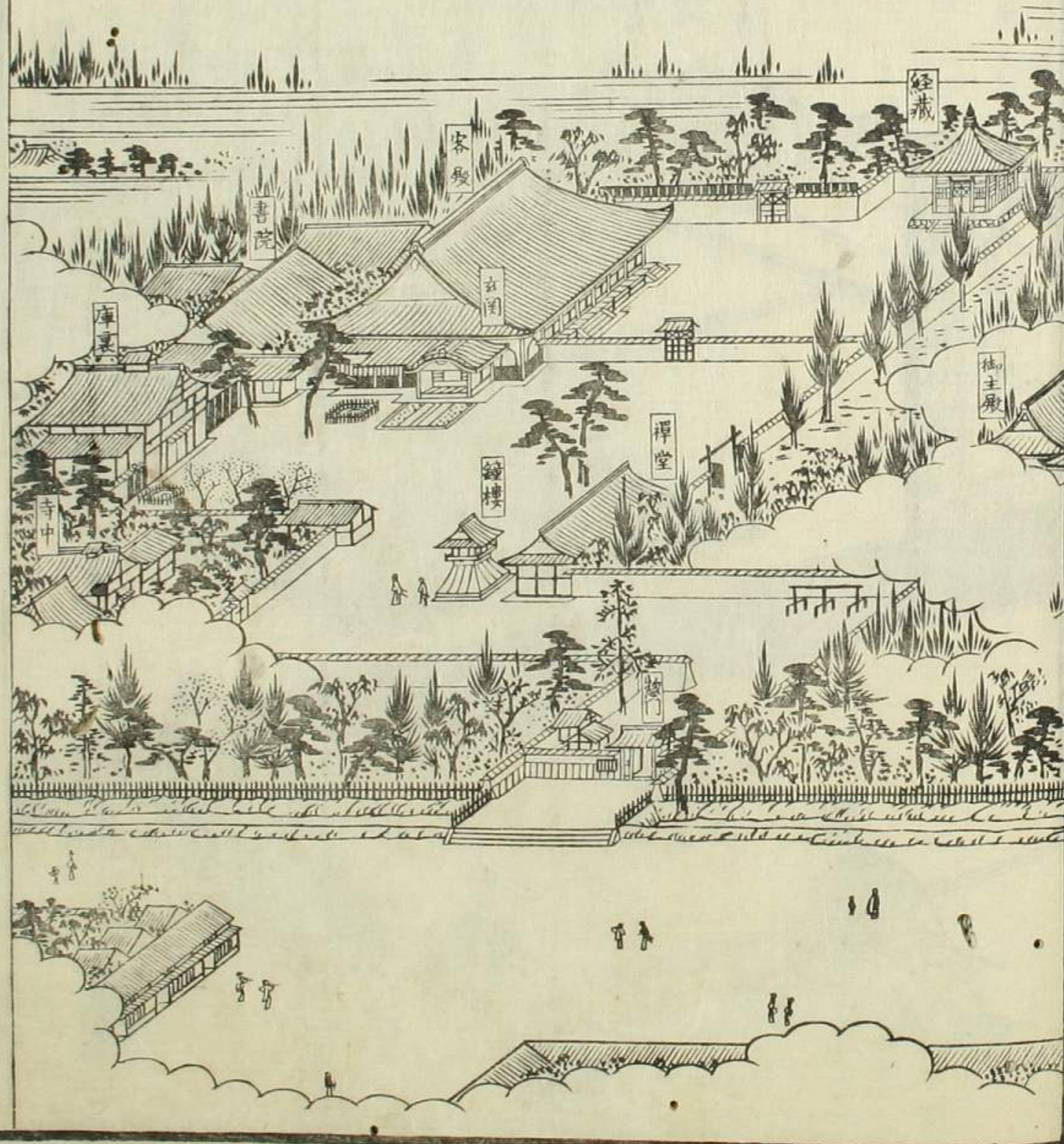
長清院梵阿彌陀
佛の地蔵を賜む

石塔
二基

元禄元年庚子 信徳院善行慧長大姉 八月十五日
碑面文字 誠くして 長清院 梵阿彌陀 佛 二月十五日

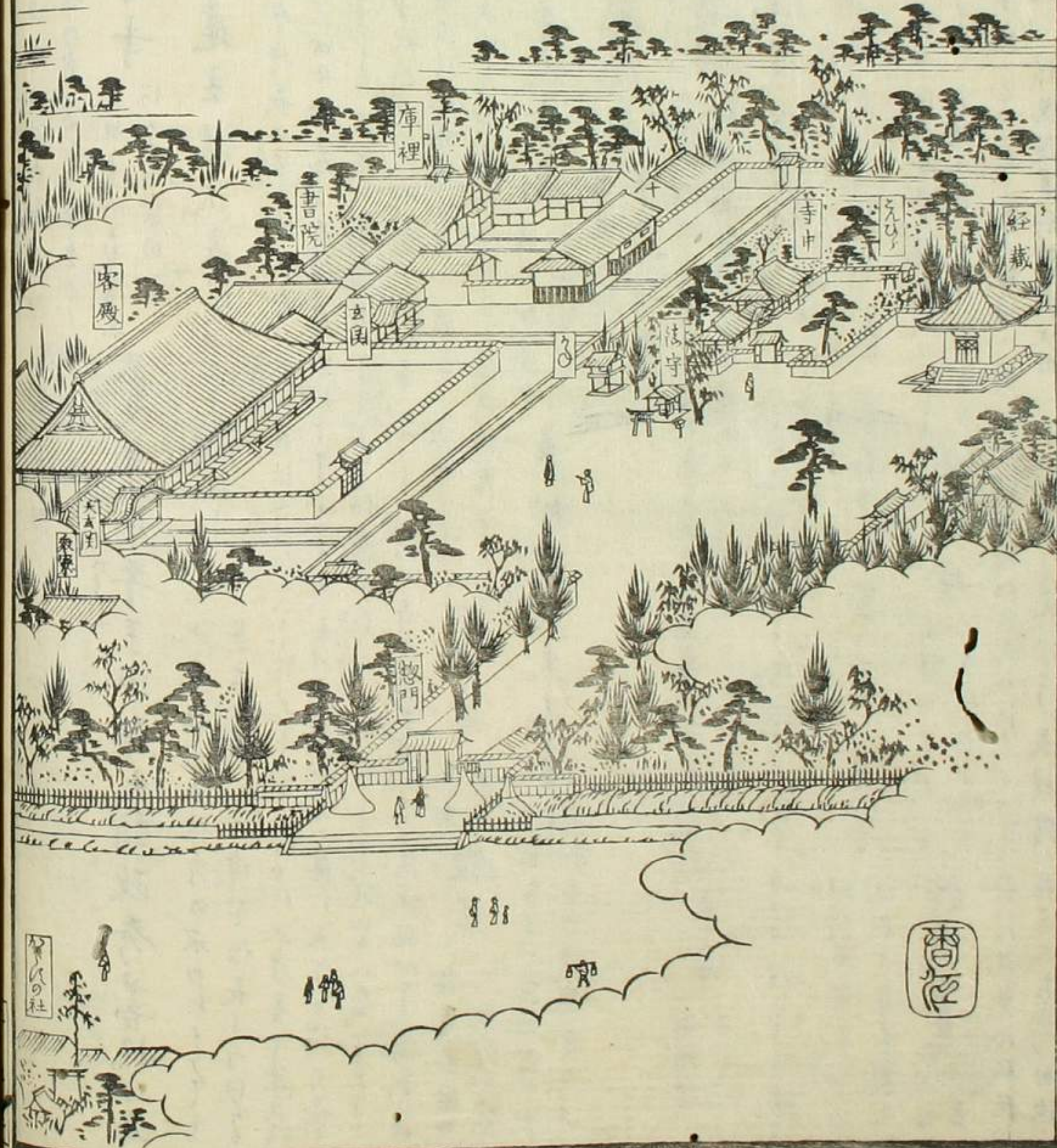
白林寺

龍屋
まろみ
かまじ
煙
白林
ちの
入



政秀寺

平子政秀の
仲敏
くちせぬ
まろみ
このふれ
うろと
かえ
あつみ



織田信長幼年の時放逐
 して以跡平...
 老長平中務太補政秀
 諫書...
 日井郡志賀村中政秀
 自教...
 非と悔い行跡を改め
 沢表に令...
 と達...
 真紀信長記見見記
 等此法書に...



長清信徳院は同人室信長...
 殿ありは...
 柳生兵庫居住地...
 世に柳生...

柳生兵庫居住地

清浄寺此境内あり...
 世に柳生...

三輪明神社

清浄寺の南にあり...
 例祭八月十九日夜神祭と奉祀

醫王山東泉院

前津三輪所の西側にあり...
 曹洞宗古井村光正院末

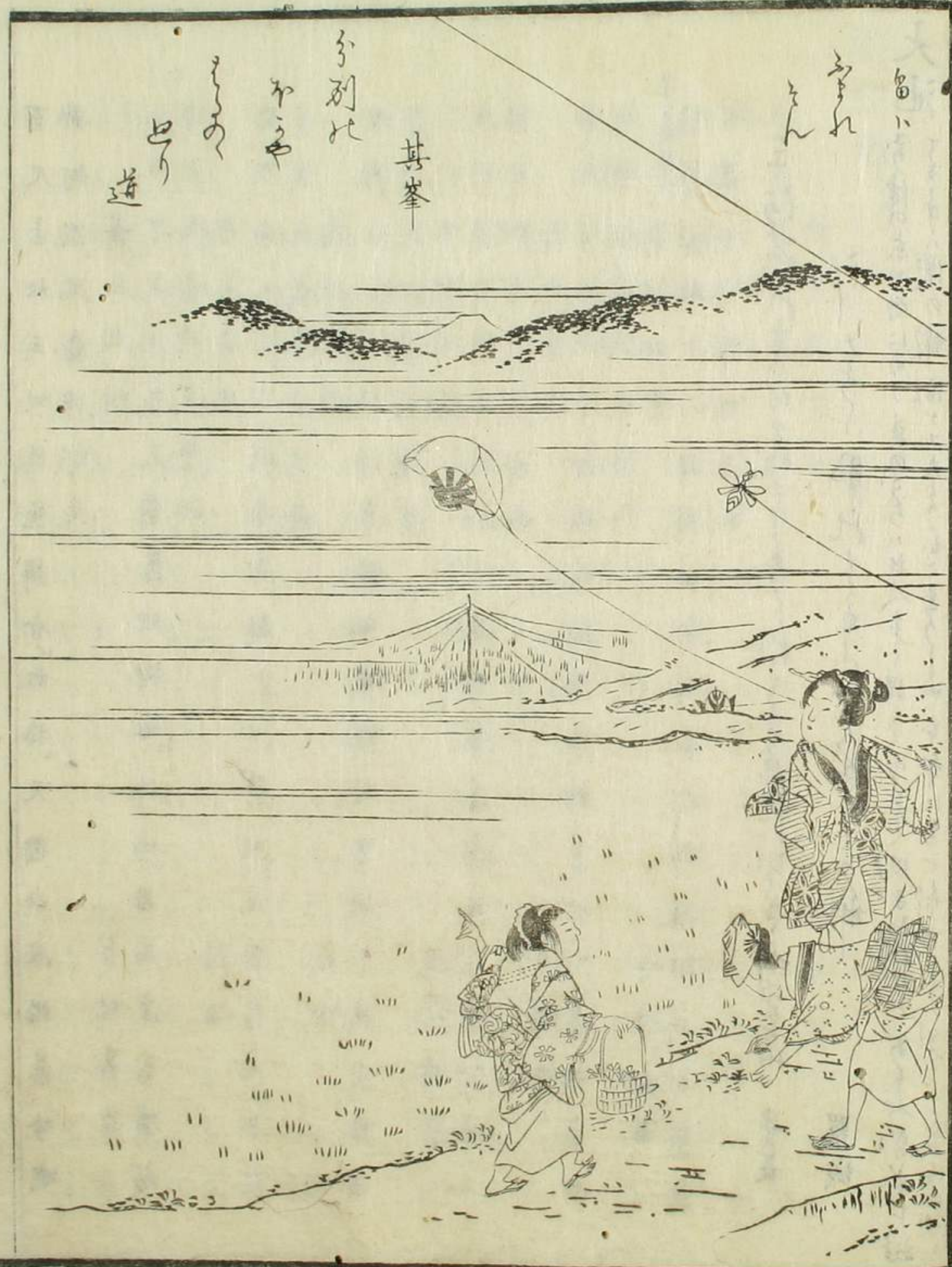
橋の寮

清浄寺東門の南にあり...
 假山園地...

富士見原

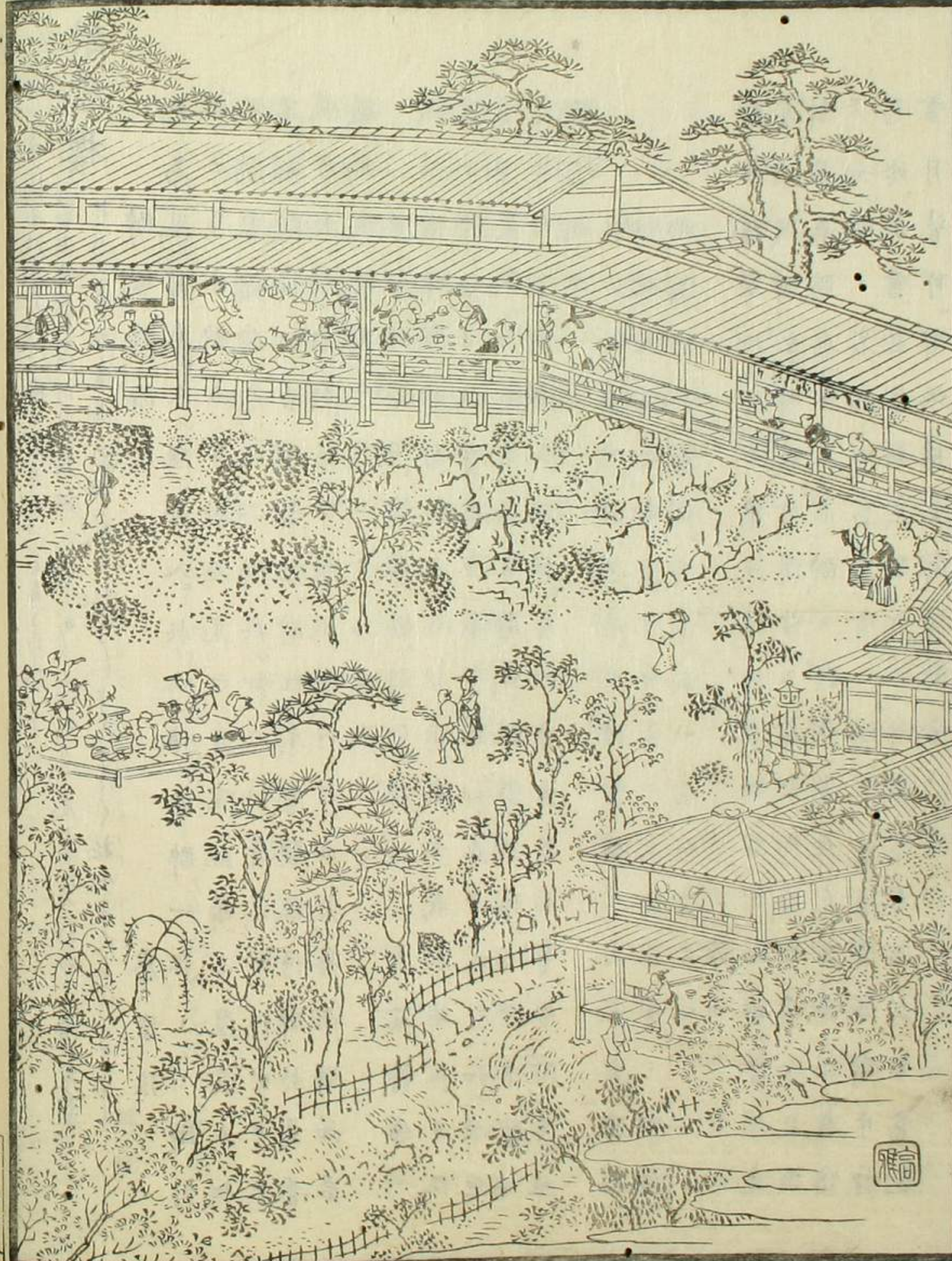
中切の東北家...
 富士見原...

東嶺 孤月
 千村 伯 齋
 堀田 方 舊
 嶺 巖 暮 色 収 月 華 初 吐 大 於 釣 須 更 布 地 金 波
 通 映 出 前 津 種 々 秋 路 傍 古 松

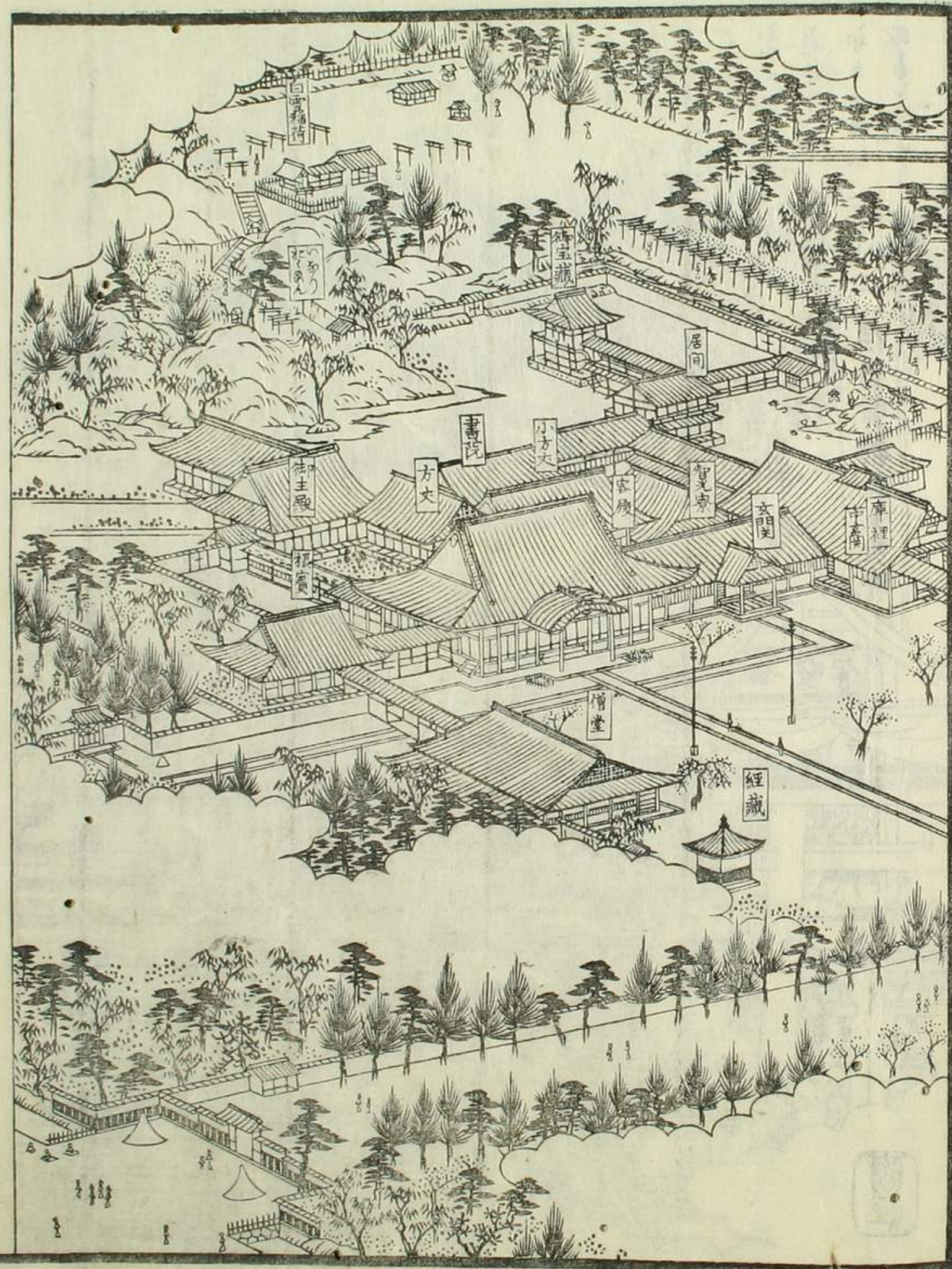


印

醉雪樓
遊宴
の圖

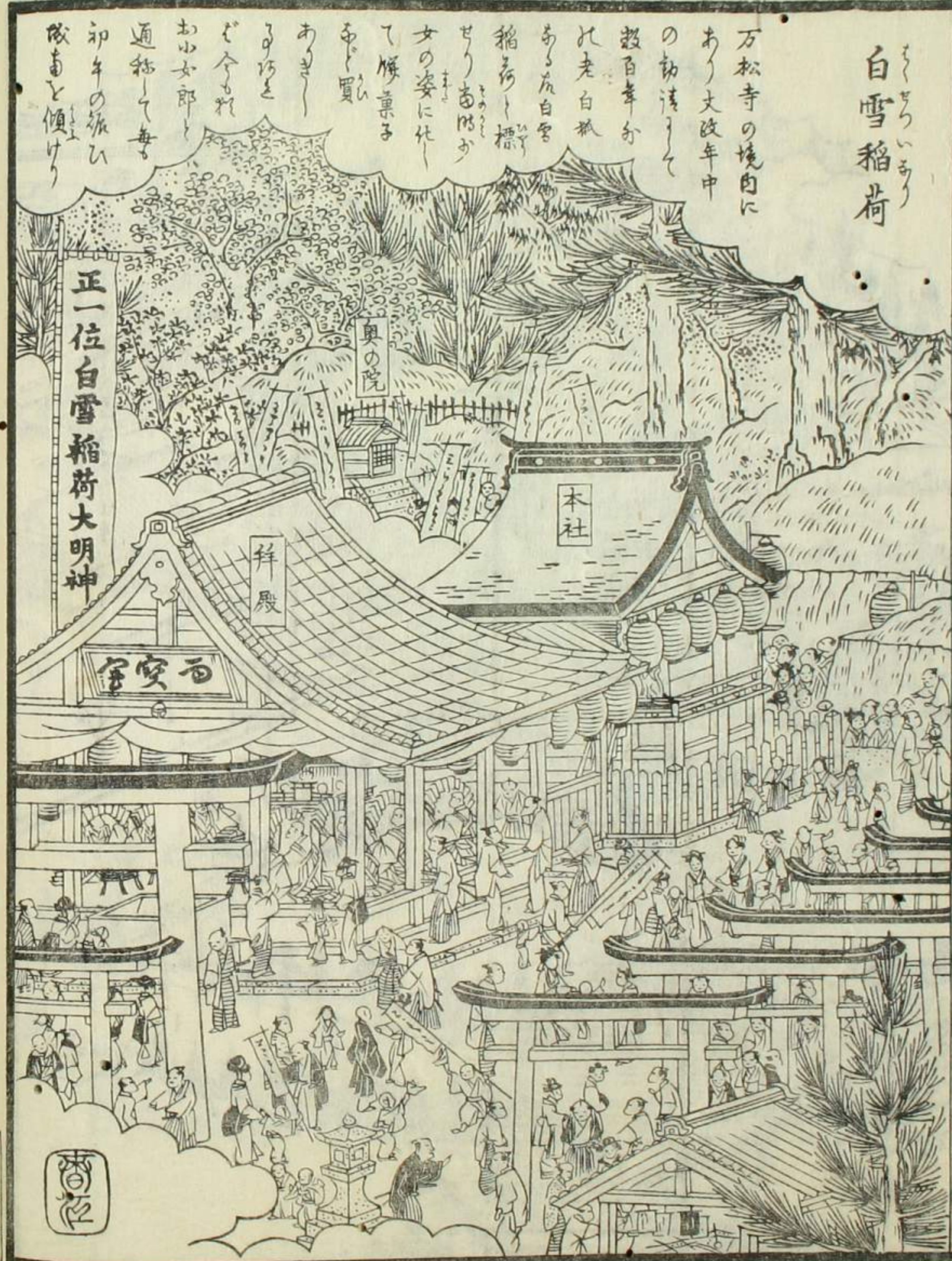


高橋



白雪稻荷

万松寺の境内に
あり文政年中
の初法より
穀百奉分
此老白狐
あり白狐
稲荷標
せり古時少
女の姿に化
て解菓子
を賣
ありき
る所と
ご今も
お山女郎
通稱し毎
初年の旅
成ると傾けり



萬岳山萬松寺

真門前所にあり曹洞宗
宗能を國總持寺未

天文九年古後城を織田信秀

建之ー大雲和尚と開山し二十二年三月三日信秀未森の城を

卒去りしに寺に葬り其法号萬松院桃巖道見とを

寺号と改ま長十五年津城津造管の後寺とに

其法所

今北中橋所

本尊

觀音居士善財童子八歳龍女

禪堂 鐘樓

美濃國各務郡弓削田左

佐良木郷長塚官推鐘檀那薄田源左衛門藤原祐貞慈能入道法宣藤原善光大工兵衛太

郎藤原友次結衆五十四人文明七年乙未十月十八日尾州春日井郡高田寺鐘比良佐々下

野守藤原貞則久地野伊泉入道赤地新右衛門吉久大永五年乙酉十二月廿日華者朗真

尾州那古野庄龜岳山萬松寺第四世住持比在大宗播磨拙寄附焉天正歳念丙戌仲春殊

如意日高高原院君御墓國祖君の御屋中浅野紀伊守幸長の御寺寶小

野の琴高高原院君の御屋中浅野紀伊守幸長の御寺寶小

隱里万松寺の東門の南とをききり豊八といふ陶工山里中酒茶に用る樂成れ其物を作

春日社天はも道にけりお外一殿武雷命二殿齋主命三殿天津児屋根命四殿姫

今に他の内より字の

例祭八月十八日津未り

長榮精舍
九老尚齒
會之圖



古人東南翁所筆九老尚齒之遺圖之雅集



金剛山長榮寺

辰取町北東側に在り曹洞宗
春日井郡三洲村正眼寺末

信長公此伯母長榮寺槃室榮公

禪尼 春日井郡河村城之牧大和守長義の室より傳存す信秀の妹なり 永禄年中清次に建立ありしと

多々年中あ府小くつせり當寺に誕生佛ハ黄金より洞作の西

龍口より水と吐きくぐ世に海に流るる權佛之○本尊 釈迦の座像

安永十年丑春三月九日内藤閑水の僎より府下高齡の九老

け寺に集會し各詩歌連供と詠出す其人ハ都

統高 字、系先号千秋秋、俗稱道喜一百四歳 詩賦 清水成利 辨集本軒俗稱將作九十三歳 和歌 松平秀雲 字

龍号君山俗稱太郎右 僧景照 東界寺前住字達仙号幸山八十四歳 和歌 僧惠胤 當寺隱居字定保号明皇菴八十三歳

詩 小鹿存 字良興号無孔笛八十歳 狂歌 横井並明 字伯懷号半掃菴稱暮水又也八十歳 和歌 永田

忠良 号鳥集軒俗稱古仙八十歳 俳句 僧覺融 天王坊前住字宏通号白雲居八十歳 和歌 その外凡雅人の書

画詩歌との世尚齒會記一卷を以て流布にまゝ、明和六年

十二月也有翁生あけ寺に碑と云々

何れも人の思ふに

性海山梅香院

梅川町にあり浄土宗 瑞龍院殿の淨室女梅香院殿の淨室控所

本尊 阿彌陀の座像

清涼山榮國寺

福所裏の志例に在り浄土宗 瑞龍院殿の淨室女梅香院殿の淨室控所

地ハ寛文五年刑地と連日并殺土器野一後ハ因六年之迄に一堂と建立

しゆり塔地村榮國寺に文六に阿彌陀の像と云々 西光院の信可徳陽辰所

とて清涼庵とあらけし貞享三年より藤田寺と稱し至徳元年に貞享和

高と開山とせり同年此秋よりまゝ、改号して今此山号 寺号をよゆて

本尊 丈六の阿彌陀の座像 千人塚 切支丹の族と傳

長島山崇覺寺

同町志例に在り本尊形寺 直末あり 開山ハ淡州光龜の族之

山より徳田家合戦の時名に在り 報恩の門徒と云々 天正年中松州石

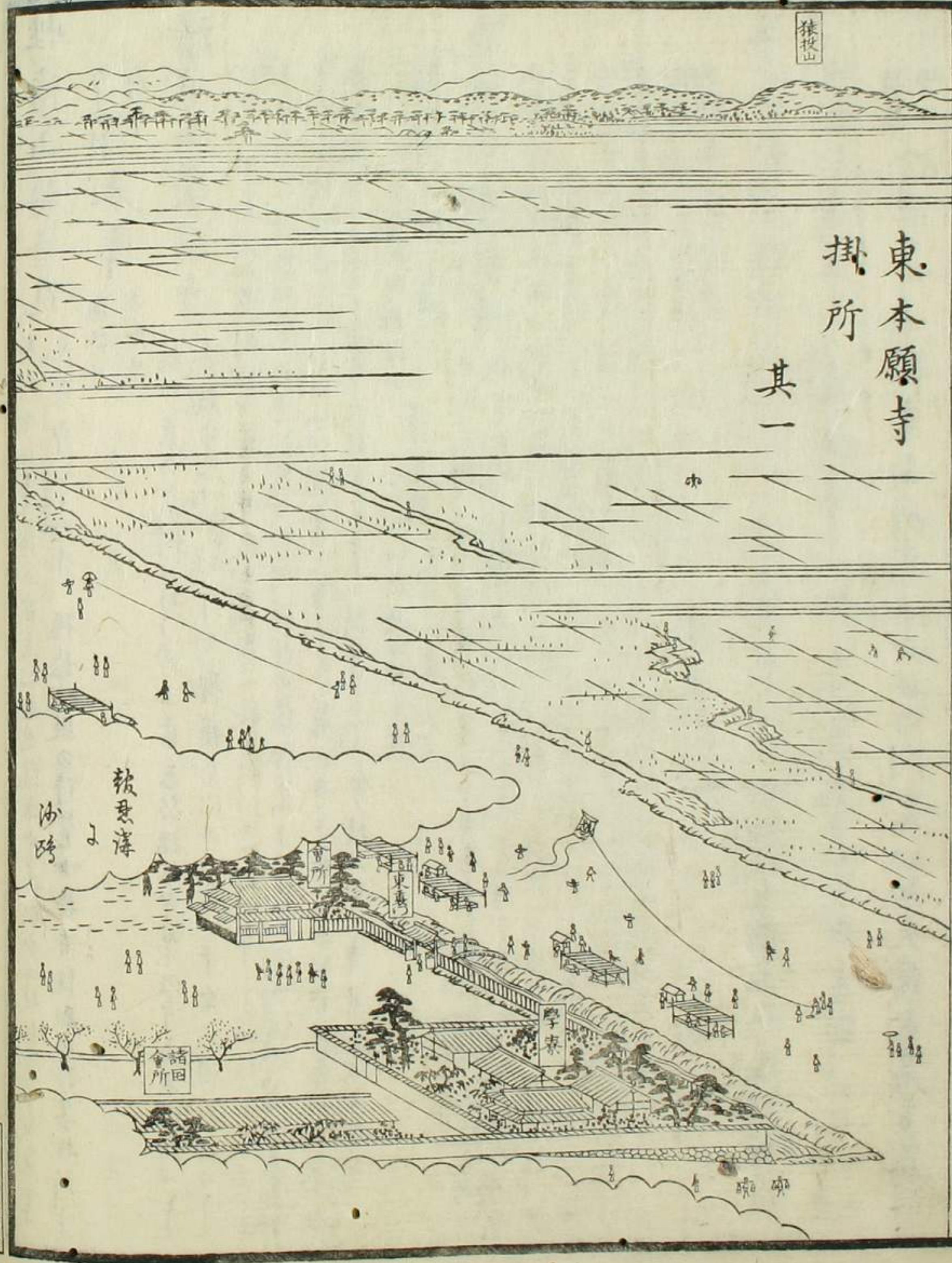
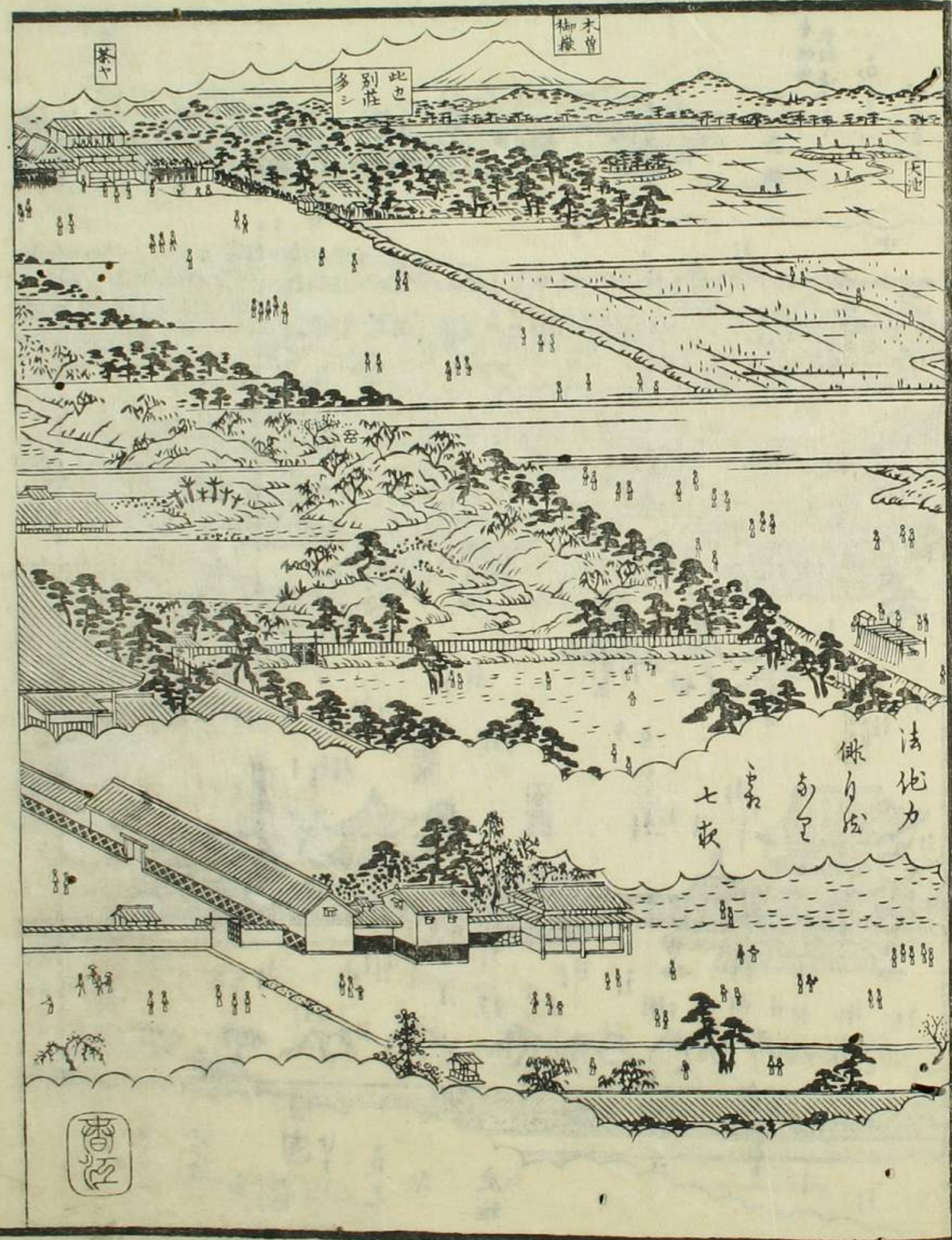
寺に在り 寺名に在り 報恩の門徒と云々 天正年中松州石

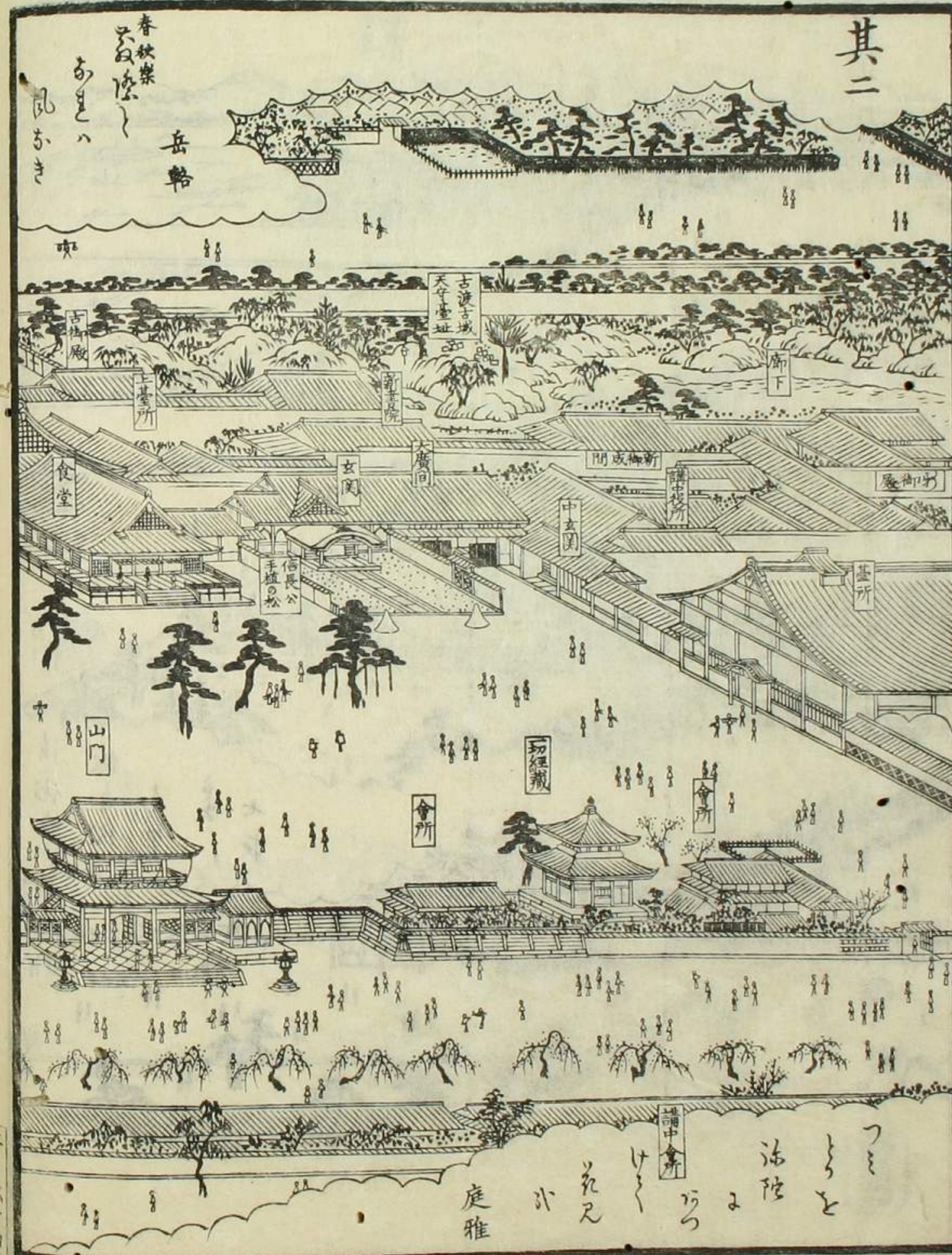
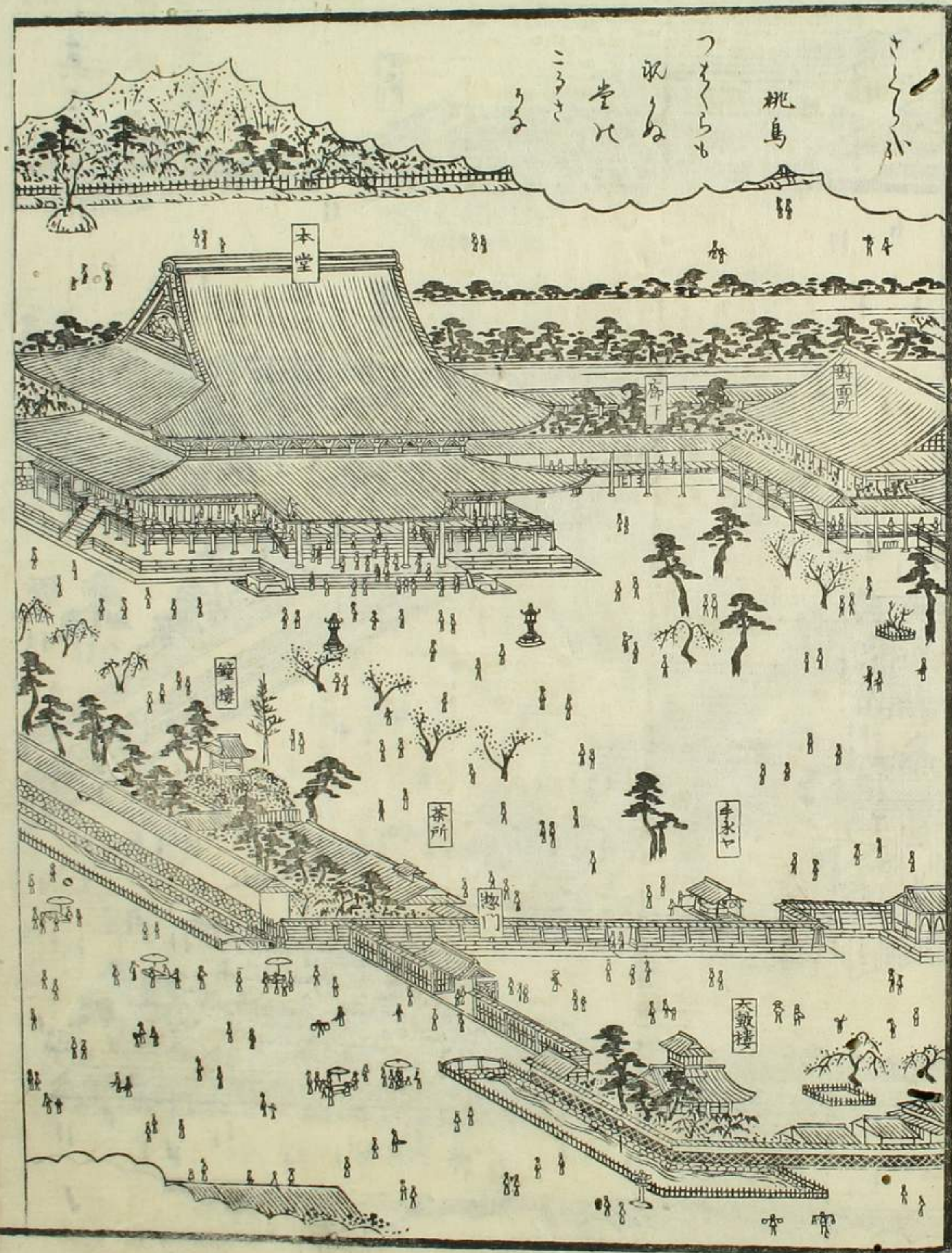
東本願寺掛所

掛所の東ニ 天正九年八月僧祐賢海東教壇に村に

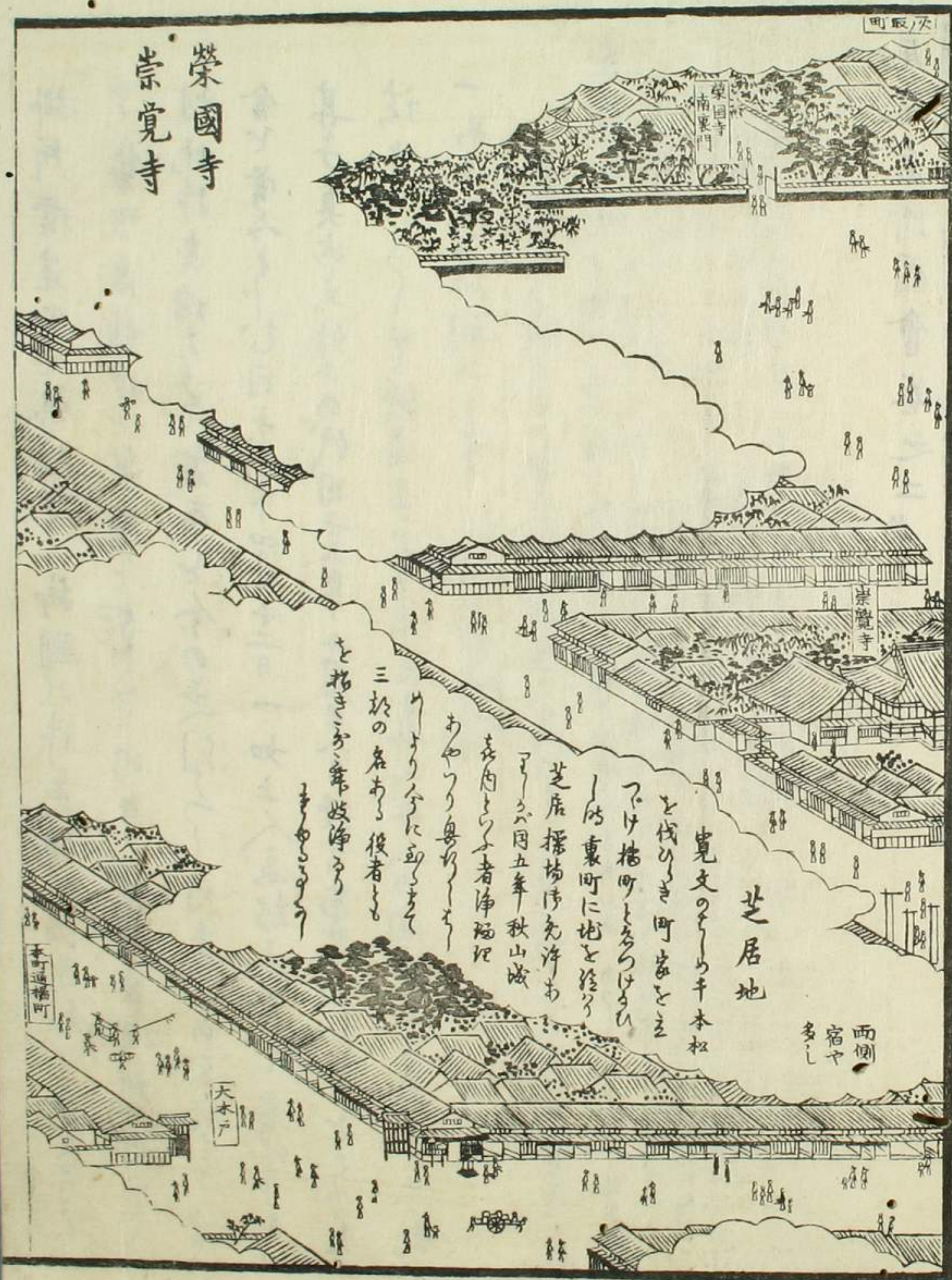
一寺と建立して泉龍寺と云々と慶長十年郡古野の地 府の

後榮へ遷せり後東本願寺十六世の門主一如大僧正名古庵に



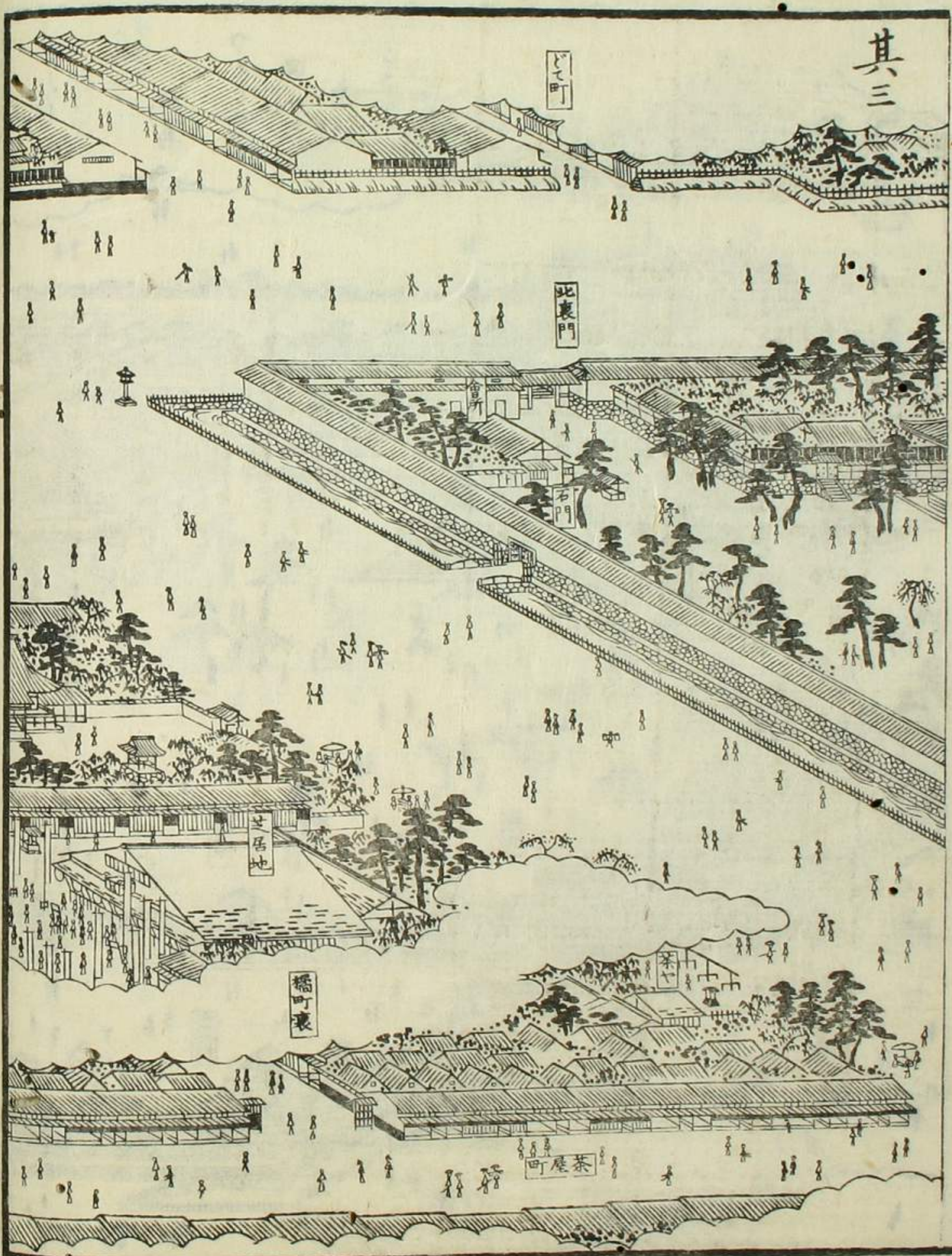


榮國寺
崇覚寺



寛文のころ千本松
と伐ひき町並を立
つけ橋町と名つけり
一の裏町に地と給り
芝居探場許免許あ
り公同五年秋山越
森内といふ者淨福地
あやつり毎に
りより今に画
三於の名あり役者も
を拓きか舞妓浄
ま

其三



橋町裏

掛所菅建の志銘に於て 御國に清元許と為元禄三年七月
 己亥所泉龍寺と懸所とあるに同年十月古渡村の内少く
 埜地清元附ありて懸所と今の所引つて同五年の夏迄より坊
 舎と當みちむ同十三年四月十二日一如上人東部本山にて遷化せし
 其子真如大僧正の代同十五年十月廿八日經宮本苑一本堂をとり免
 法をたゞしくして遷早すも真如上人の岡基とせしめて本願
 一如上人を以て岡山とせり ○本尊 阿弥陀
如来

子代まての程もあはれと花の陰にけつらんこころをきて 石原正明

古渡古城

東掛所埜内刈まの織田信長に譲りて天文三年信長
 長施せしむる那古野の城に信長に譲りて自れは古渡と城と築きて後任せり幸
 去の後廢城して田由とありしがそのうち掛所の埜内とありぬ信長は信長は信長と元服せり
 まりてに去りて宗牧が赤木紀行の禁裡津修理の妻と宗牧が赤木國下と序さればとて
 則宗牧に 仰せ給ふてこころの味を信長に 勅宣と結へりてに記せり
 赤木此有さと思ひやうまぬ洋するりハ紀行ハ譲りてやに異しり

尾張名所圖會卷之二終

